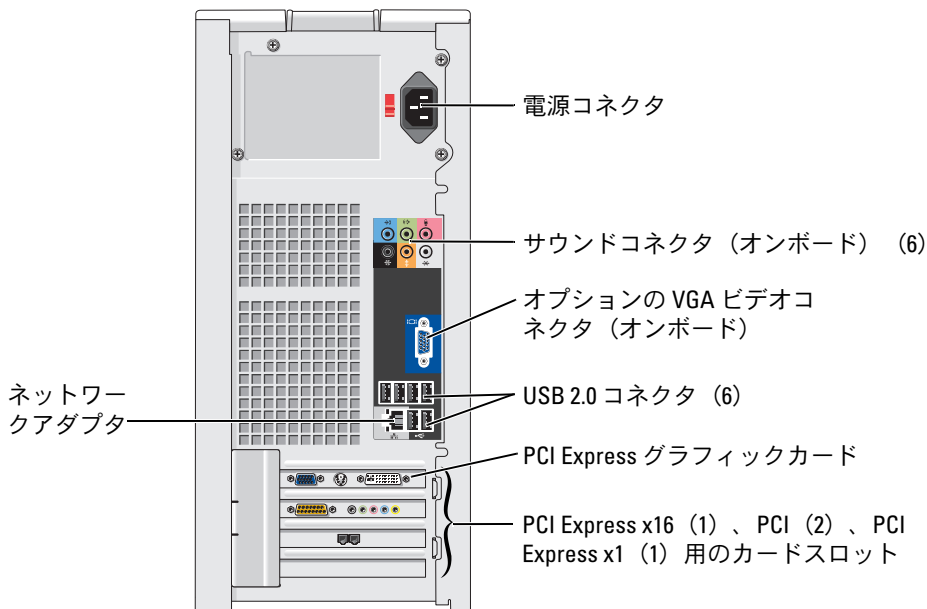
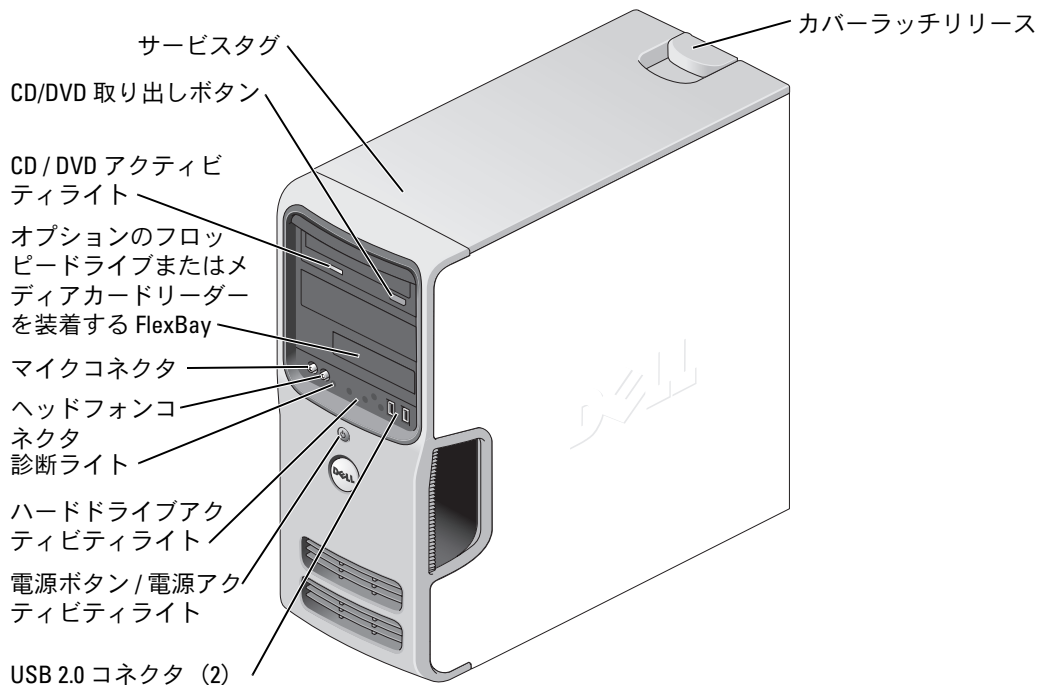





# Dell™ Dimension™ E520

## オーナーズマニュアル



モデル DCSM

## メモ、注意、警告

-  **メモ**：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意**：ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。
-  **警告**：物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Dell™ n シリーズコンピュータをご購入された場合、本書の Microsoft® Windows® OS に関する記述は適用されません。

## 略語について

略語の詳しい説明は、135 ページの「用語集」を参照してください。

---

**本書の内容は予告なく変更されることがあります。**

**© 2006 すべての著作権は Dell Inc. にあります。**

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell、DELL ロゴ、Inspiron、Dell Precision、Dimension、OptiPlex、Latitude、PowerEdge、PowerVault、PowerApp、DellNet、Dell TravelLite、Strike Zone、および PowerConnect は Dell Inc. の商標です。Bluetooth は Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、ライセンスに基づき Dell が使用しています。Intel および Pentium は Intel Corporation の登録商標です。Microsoft、Windows、および Outlook は Microsoft Corporation の登録商標です。ENERGY STAR は 米国環境保護局の登録商標です。

本書では、商標および商標名を主張する会社またはその製品を参照するのに、これ以外の商標および商標名が使用される場合があります。それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

Model DCSM

2006 年 8 月

P/N RY495

Rev. A00

# 目次

情報の検索方法	9
1 コンピュータのセットアップと使い方	13
<b>プリンタのセットアップ</b>	<b>13</b>
プリンタケーブル	13
プリンタの接続	13
<b>インターネットへの接続</b>	<b>14</b>
インターネット接続のセットアップ	15
<b>CD および DVD の再生方法</b>	<b>16</b>
ボリュームの調整	17
画像の調整	17
<b>CD および DVD のコピー</b>	<b>18</b>
CD または DVD のコピーの方法	18
空の CD および DVD の使い方	19
役に立つヒント	20
<b>メディアカードリーダー（オプション）の使い方</b>	<b>20</b>
<b>2 台のモニターの接続</b>	<b>22</b>
VGA コネクタを使用して 2 台のモニターを接続する方法	22
1 台のモニターを VGA コネクタで、 もう 1 台を DVI コネクタで接続する方法	23
TV の接続	23
ディスプレイ設定の変更	23
<b>家庭用および企業用ネットワークのセットアップ</b>	<b>24</b>
ネットワークアダプタへの接続	24
ネットワークセットアップウィザード	24
<b>電力の管理</b>	<b>25</b>
スタンバイモード	25
休止状態モード	25
電源オプションのプロパティ	26
<b>Hyper-Threading</b>	<b>28</b>

<b>RAID 構成について</b> . . . . .	<b>28</b>
RAID が機能していることの確認 . . . . .	29
RAID レベル1 . . . . .	29
RAID のトラブルシューティング . . . . .	30
Intel® RAID Option ROM ユーティリティを使用して 複数のハードドライブ障害から復旧する方法 . . . . .	30
Intel Matrix Storage Manager を使用して単一のハードド ライブ障害から復旧する方法 . . . . .	31
コンピュータを RAID 有効モードに設定する方法 . . . . .	31
<b>Dell™ DataSafe (オプション)</b> . . . . .	<b>31</b>
<b>2 問題の解決</b> . . . . .	<b>33</b>
<b>トラブルシューティングのヒント</b> . . . . .	<b>33</b>
<b>バッテリーの問題</b> . . . . .	<b>33</b>
<b>ドライブの問題</b> . . . . .	<b>34</b>
CD および DVD ドライブの問題 . . . . .	34
ハードドライブの問題 . . . . .	35
<b>E-メール、モデム、およびインターネットの問題</b> . . . . .	<b>35</b>
<b>エラーメッセージ</b> . . . . .	<b>37</b>
<b>キーボードの問題</b> . . . . .	<b>38</b>
<b>フリーズおよびソフトウェアの問題</b> . . . . .	<b>38</b>
コンピュータが起動しない . . . . .	38
コンピュータが応答しない . . . . .	38
プログラムが応答しない . . . . .	39
プログラムが繰り返しクラッシュする . . . . .	39
プログラムが以前のバージョンの Microsoft® Windows® OS 向けに設計されている場合 . . . . .	39
画面が青色 (ブルースクリーン) になった . . . . .	39
その他のソフトウェアの問題 . . . . .	40
<b>メディアカードリーダーの問題</b> . . . . .	<b>40</b>
<b>メモリの問題</b> . . . . .	<b>41</b>
<b>マウスの問題</b> . . . . .	<b>42</b>
<b>ネットワークの問題</b> . . . . .	<b>43</b>
<b>電源の問題</b> . . . . .	<b>43</b>

<b>プリンタの問題</b> . . . . .	45
<b>スキャナーの問題</b> . . . . .	46
<b>サウンドおよびスピーカーの問題</b> . . . . .	47
スピーカーから音が出ない . . . . .	47
ヘッドフォンから音が出ない . . . . .	48
<b>ビデオおよびモニターの問題</b> . . . . .	48
画面に何も表示されない . . . . .	48
画面が見つらい . . . . .	49
<b>3</b> <b>トラブルシューティングツール</b> . . . . .	<b>51</b>
<b>診断ライト</b> . . . . .	<b>51</b>
<b>Dell Diagnostics</b> . . . . .	<b>54</b>
Dell Diagnostics のメインメニュー . . . . .	55
<b>ドライバ</b> . . . . .	<b>56</b>
ドライバとは? . . . . .	56
ドライバの識別 . . . . .	56
ドライバの再インストール . . . . .	57
<b>ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには</b> . . . . .	<b>58</b>
<b>お使いの OS の復元</b> . . . . .	<b>59</b>
Microsoft Windows XP システムの復元の使い方 . . . . .	59
Dell PC Restore by Symantec の使い方 . . . . .	61
『再インストール用 CD』の使い方 . . . . .	63
<b>4</b> <b>部品の取り外しと取り付け</b> . . . . .	<b>65</b>
<b>作業を開始する前に</b> . . . . .	<b>65</b>
推奨するツール . . . . .	65
コンピュータの電源を切る方法 . . . . .	65
コンピュータ内部の作業を始める前に . . . . .	66
<b>コンピュータの正面図</b> . . . . .	<b>67</b>
<b>コンピュータの背面図</b> . . . . .	<b>69</b>
背面パネルコネクタ . . . . .	70
<b>コンピュータカバーの取り外し</b> . . . . .	<b>71</b>
<b>コンピュータの内面図</b> . . . . .	<b>73</b>
<b>システム基板のコンポーネント</b> . . . . .	<b>74</b>


<b>メモリ</b>	<b>75</b>
DDR2メモリの概要	75
4 GB構成でのメモリアドレスリング	76
メモリの取り付け	77
メモリの取り外し	78
<b>カード</b>	<b>79</b>
PCIカード	79
PCI Expressカード	84
<b>ドライブパネル</b>	<b>89</b>
ドライブパネルの取り外し	89
ドライブベイカバーの取り外し	90
ドライブベイカバーの取り付け	91
ドライブパネルの取り付け	92
<b>ドライブ</b>	<b>93</b>
ドライブケーブルの接続	94
ドライブインタフェースコネクタ	94
ドライブケーブルの接続と取り外し	95
<b>ハードドライブ</b>	<b>95</b>
ハードドライブの取り外し	96
ハードドライブの取り付け	97
セカンドハードドライブの追加	99
<b>フロッピードライブ</b>	<b>100</b>
フロッピードライブの取り外し	100
フロッピードライブの取り付け	103
<b>メディアカードリーダー</b>	<b>105</b>
メディアカードリーダーの取り外し	105
メディアカードリーダーの取り付け	107
<b>CD/DVDドライブ</b>	<b>109</b>
CD/DVDドライブの取り外し	109
CD/DVDドライブの取り付け	110
<b>バッテリー</b>	<b>112</b>
バッテリーの交換	112
<b>コンピュータカバーの取り付け</b>	<b>114</b>


5 付録	115
仕様	115
<b>セットアップユーティリティ</b>	<b>119</b>
概要	119
セットアップユーティリティの起動	119
セットアップユーティリティのオプション	121
Boot Sequence (起動順序)	126
<b>忘れたパスワードのクリア</b>	<b>128</b>
<b>CMOS 設定のクリア</b>	<b>129</b>
<b>コンピュータのクリーニング</b>	<b>129</b>
コンピュータ、キーボード、およびモニター	129
マウス	130
フロッピードライブ	130
CD と DVD	130
<b>デルテクニカルサポートポリシー (米国内のみ)</b>	<b>131</b>
「プリインストールされている」ソフトウェアと 周辺機器の定義	131
「サードパーティ製」ソフトウェアと周辺機器の定義	131
<b>FCC の通達 (アメリカ合衆国のみ)</b>	<b>132</b>
FCC クラス B	132
<b>デルへのお問い合わせ</b>	<b>133</b>
用語集	135
索引	149





## 情報の検索方法

 **メモ**：一部の機能やメディアはオプションなので、出荷時にコンピュータに搭載されていない場合があります。特定の国では使用できない機能やメディアもあります。

 **メモ**：追加の情報がコンピュータに同梱されている場合があります。

### 何をお探ですか？

- 保証に関する情報
- 契約条項（米国内のみ）
- 安全にお使いいただくための注意
- 認可機関の情報
- 快適な使い方
- エンドユーザーライセンス契約

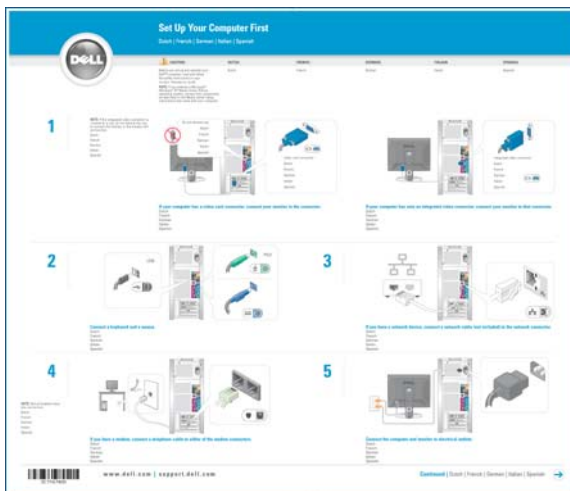
### こちらをご覧ください

Dell™ 『製品情報ガイド』



- コンピュータのセットアップ方法

### セットアップ図



---

## 何をお探しですか？

- サービスタグとエクスプレスサービスコード
- Microsoft Windows ライセンスラベル

## こちらをご覧ください

サービスタグと Microsoft® Windows® ライセンスラベルはお使いのコンピュータに貼付されています。

- サービスタグは、**support.jp.dell.com** をご参照の際に、またはテクニカルサポートへのお問い合わせの際に、コンピュータの識別に使用します。
- エクスプレスサービスコードを利用すると、テクニカルサポートに通話が接続されます。



- 
- 技術情報 — Q & A 検索、トラブル解決ナビ、Diagnostics（診断）プログラム、インストールガイド、お問い合わせの多い質問
  - アップグレード — メモリ、ハードドライブ、または OS などのコンポーネントに関するアップグレード情報
  - 各種サービスのご案内 — サービスプラン、登録内容変更申込、リサイクル・買取サービス、引き取り修理状況確認など
  - サービスおよびサポート — サービスコールの状況とサービス履歴、サービス契約
  - 参照資料 — コンピュータのマニュアル、コンピュータの設定の詳細情報、製品の仕様、およびホワイトペーパー
  - ダウンロード — 認定されたドライバ、パッチ、およびソフトウェアのアップデート

デルサポートサイト — [support.jp.dell.com](http://support.jp.dell.com)

**メモ：**お住まいの地域を選択し、お近くのサポートサイトを表示します。

**メモ：**企業、政府および教育関係のユーザーには、カスタマイズされた Dell Premier サポートウェブサイト [premier.dell.co.jp/premier](http://premier.dell.co.jp/premier) もご利用いただけます。

---

## 何をお探しですか？

- デスクトップシステムソフトウェア (DSS) — コンピュータに OS を再インストールする場合、DSS ユーティリティも再インストールする必要があります。DSS は、OS の重要なアップデート、Dell™ 3.5 インチ USB フロッピードライブ、Intel® プロセッサ、オプティカルドライブ、および USB デバイスに関するサポートを提供します。DSS は、Dell コンピュータが正しく動作するために必要です。このソフトウェアは、お使いのコンピュータと OS を自動的に検知して、設定に適した更新をインストールします。

- Windows XP の使い方
- プログラムとファイルの操作方法
- デスクトップのカスタマイズ方法

---

## こちらをご覧ください

デスクトップシステムソフトウェアをダウンロードするには、次の手順を実行します。

- 1 **support.jp.dell.com** にアクセスし、**Downloads** (ダウンロード) をクリックします。
- 2 製品モデルを選択します。
- 3 **Download Category** (ダウンロードカテゴリ) ドロップダウンメニューで、**All** (すべて) をクリックします。
- 4 コンピュータの OS および OS の言語を選択し、**Submit** (送信) をクリックします。
- 5 **Select a Device** (デバイスの選択) で、**System and Configuration Utilities** (システムおよび設定ユーティリティ) までスクロールし、**Dell Desktop System Software** (Dell デスクトップシステムソフトウェア) をクリックします。

---


## Windows ヘルプとサポートセンター

- 1 **スタート** → **ヘルプとサポート** をクリックします。
  - 2 問題に関連する用語やフレーズを **検索** ボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。
  - 3 問題に関連するトピックをクリックします。
  - 4 画面に表示される指示に従ってください。
-



# コンピュータのセットアップと使い方

## プリンタのセットアップ

 **注意：**プリンタをコンピュータに接続する前に、OS のセットアップを完了してください。

次の手順を含むセットアップについての情報は、プリンタに付属のマニュアルを参照してください。

- 最新ドライバの入手方法とインストールの仕方
- プリンタとコンピュータの接続方法
- 給紙の仕方と、トナーまたはインクカートリッジの取り付け方

テクニカルサポートを利用するには、プリンタのオーナーズマニュアルを参照するか、プリンタの製造元にお問い合わせください。

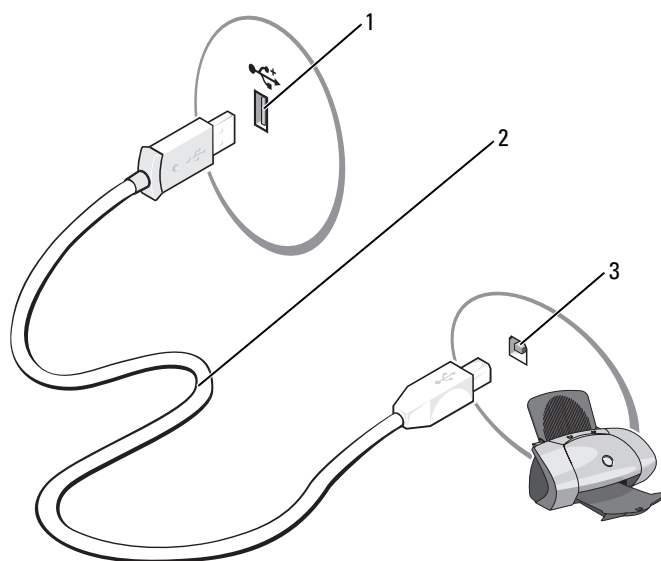
## プリンタケーブル

お使いのプリンタは、USB ケーブルを使用してコンピュータに接続します。プリンタにはプリンタケーブルが付属されていない場合があります。ケーブルを別に購入する際は、プリンタに対応していることを確認してください。コンピュータと一緒にプリンタケーブルを購入された場合、ケーブルはコンピュータの箱に同梱されていることがあります。

## プリンタの接続

 **メモ：**USB デバイスは、コンピュータに電源が入っている状態でも接続することができます。

- 1 OS をまだセットアップしていない場合は、セットアップを完了します。
- 2 USB プリンタケーブルをコンピュータとプリンタの USB コネクタに取り付けます。USB コネクタは一方方向にしかはめ込むことができません。



1 コンピュータの USB コネクタ      2 USB プリンタケーブル      3 プリンタの USB コネクタ

- 3 プリンタの電源を入れてから、コンピュータの電源を入れます。**新しいハードウェアの追加ウィザード**ウィンドウが表示されたら、**キャンセル**をクリックします。
- 4 必要に応じて、プリンタドライバをインストールします。プリンタに付属のマニュアルを参照してください。

## インターネットへの接続

**メモ**：ISP および ISP が提供するオプションは、国によって異なります。

インターネットに接続するには、モデムまたはネットワーク接続、および ISP（インターネットサービスプロバイダ）との契約が必要です。ISP は、以下のうち 1 つまたは複数のインターネット接続オプションを提供します。

- 電話回線を経由してインターネットにアクセスできるダイヤルアップ接続。ダイヤルアップ接続は、DSL やケーブルモデム接続に比べて速度がかなり遅くなります。
- 既存の電話回線を経由して高速のインターネットアクセスを提供する DSL 接続。DSL 接続では、インターネットにアクセスしながら同時に同じ回線で電話を使用することができます。
- 既存のケーブル TV 回線を経由して高速のインターネットアクセスを提供するケーブルモデム接続。

ダイヤルアップ接続をお使いの場合は、インターネット接続をセットアップする前に、コンピュータのモデムコネクタおよび壁の電話コンセントに電話線を接続します。DSL またはケーブルモデム接続をお使いの場合、セットアップ手順についてはご利用の ISP にお問い合わせください。

## インターネット接続のセットアップ

提供されている ISP のデスクトップショートカットを使用してインターネット接続をセットアップするには、以下の手順を実行します。

- 1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 2 Microsoft® Windows® デスクトップにある ISP のアイコンをダブルクリックします。
- 3 画面の指示に従ってセットアップを完了します。

デスクトップに ISP のアイコンがない場合、または別の ISP を使ってインターネット接続をセットアップする場合は、次の手順を実行します。

- 1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 2 **スタート** ボタンをクリックして、**Internet Explorer** をクリックします。

**新しい接続ウィザード** が表示されます。

- 3 **インターネットに接続する** をクリックします。
- 4 次のウィンドウで、該当する以下のオプションをクリックします。
  - ISP と契約されておらず、その 1 つを選びたい場合は、**インターネットサービスプロバイダ (ISP) の一覧から選択する** をクリックします。
  - ISP からセットアップ情報を入手していて、セットアップ CD を受け取っていない場合は、**接続を手動でセットアップする** をクリックします。
  - CD をお持ちの場合は、**ISP から提供された CD を使用する** をクリックします。
- 5 **次へ** をクリックします。

**接続を手動でセットアップする** を選んだ場合は、手順 6 に進みます。それ以外の場合は、画面の手順に従ってセットアップを完了してください。



**メモ**：どの種類の接続を選んだらよいかわからない場合は、ご契約の ISP にお問い合わせください。

- 6 **インターネットにどう接続しますか?** で該当するオプションをクリックし、**次へ** をクリックします。
- 7 ISP から提供されたセットアップ情報を使って、セットアップを完了します。

インターネットにうまく接続できない場合は、35 ページの「E-メール、モデム、およびインターネットの問題」を参照してください。過去にインターネットに正常に接続できていたのに接続できない場合は、ISP のサービスが停止している可能性があります。サービスの状態について ISP に確認するか、後でもう一度接続してみてください。

## CD および DVD の再生方法

- ➡ **注意：**CD または DVD のトレイを開閉する場合は、トレイの上から力を掛けないでください。ドライブを使用しないときは、トレイを閉じておいてください。
- ➡ **注意：**CD や DVD を再生しているときに、コンピュータを動かさないでください。
  - 1 ドライブの前面にある取り出しボタンを押します。
  - 2 ラベル面を上にしてディスクをトレイの中央に置きます。











- 3 取り出しボタンを押すか、トレイを優しく押し込みます。

データを保存するために CD をフォーマットしたり、音楽 CD を作成したり、CD をコピーしたりするには、コンピュータに付属の CD ソフトウェアを参照してください。

 **メモ：**CD をコピーする際は、著作権法に基づいていることを確認してください。

CD プレーヤーは次のボタンを使用して操作します。

---












	再生
	現在のトラック内での巻き戻し
	一時停止
	現在のトラック内での早送り
	停止
	直前のトラックに戻る
	取り出し
	直後のトラックに進む

---



DVD プレーヤーは次のボタンを使用して操作します。


---

	停止
	現在のチャプタの再スタート
	再生
	早送り
	一時停止
	巻き戻し
	一時停止モードでのコマ送り
	直後のタイトルまたはチャプタへ進む
	現在のタイトルまたはチャプタのくり返し
	直前のタイトルまたはチャプタへ戻る
	取り出し

---

CD または DVD の再生については、CD または DVD プレーヤーの **ヘルプ**（利用可能な場合）をクリックしてください。

#### ボリュームの調整

 **メモ**：スピーカーが無音（ミュート）に設定されている場合は、CD または DVD の音声を聞くことができません。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **エンターテイメント** の順にポイントしてから、**ボリュームコントロール** をクリックします。
- 2 **ボリュームコントロール** ウィンドウで、**ボリュームコントロール** の列にある音量つまみをクリックし、ドラッグしながら上下に動かしてボリュームを調整します。


ボリュームコントロールオプションの詳細については、**ボリュームコントロール** ウィンドウの **ヘルプ** をクリックしてください。

#### 画像の調整


現在設定している解像度と色数はメモリの使用量が多すぎて DVD を再生できません、というエラーメッセージが表示される場合は、画面のプロパティで画像設定を調節します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
- 3 **作業する分野を選びます** で、**画面解像度を変更する** をクリックします。
- 4 **画面のプロパティ** ウィンドウで、**画面の解像度** にあるつまみをクリックしてドラッグし、**800 x 600 ピクセル** に設定します。
- 5 **画面の色** のドロップダウンメニューをクリックし、**中 (16 ビット)** をクリックします。
- 6 **OK** をクリックします。

## CD および DVD のコピー


 **メモ**：CD または DVD をコピーする際は、著作権法に基づいていることを確認してください。

本項は CD-RW、DVD+/-RW、または CD-RW/DVD（コンボ）ドライブを備えたコンピュータだけに適用されます。


 **メモ**：デルにより提供される CD または DVD ドライブのタイプは国により異なることがあります。

以下の説明では CD や DVD の完全なコピーを作成する方法を示しています。コンピュータに格納されたオーディオファイルから音楽 CD を作成したり、重要なデータをバックアップしたりなど、別の目的で Sonic DigitalMedia を使用することもできます。ヘルプに関しては、Sonic DigitalMedia を開き、ウィンドウの右上にある疑問符 (?) アイコンをクリックしてください。

### CD または DVD のコピーの方法

 **メモ**：CD-RW/DVD コンボドライブでは、DVD メディアに書き込むことはできません。CD-RW/DVD コンボドライブで書き込み中に問題が生じた場合は、Sonic サポートウェブサイト [www.sonicjapan.co.jp/support](http://www.sonicjapan.co.jp/support) で使用可能なソフトウェアパッチを確認してください。

Dell™ コンピュータに取り付けられている DVD 書き込み可能ドライブでは、DVD+/-R、DVD+/-RW、および DVD+R DL（デュアルレイヤ）メディアへの書き込みと読み取りが可能です。DVD-RAM または DVD-R DL メディアへの書き込みはできず、読み取りもできない場合があります。

 **メモ**：市販の DVD のほとんどは著作権が保護されているため、Sonic DigitalMedia を使用してコピーすることはできません。

- 1 **スタート** → **すべてのプログラム** → **Sonic** → **DigitalMedia Projects** → **コピー** → **ディスクコピー** の順にクリックします。
- 2 CD または DVD のコピーは次の手順で行います。
  - CD または DVD ドライブが 1 台の場合は、設定が正しいことを確認して、**ディスクコピー** ボタンをクリックします。ソースの CD や DVD が読み取られ、データがコンピュータのハードドライブにある一時フォルダにコピーされます。  
プロンプトが表示されたら、空の CD または DVD をドライブにセットして、**OK** をクリックします。
  - CD または DVD ドライブが 2 台ある場合は、ソースの CD や DVD を挿入したドライブを選択して、**ディスクコピー** ボタンをクリックします。ソースの CD や DVD のデータが空の CD や DVD にコピーされます。

ソース CD または DVD のコピーが終了すると、作成された CD または DVD は自動的に出てきます。

## 空の CD および DVD の使い方

CD-RW ドライブでは CD 記録メディア（高速 CD-RW を含む）にしか書き込みができませんが、DVD 書き込み可能ドライブでは CD と DVD の両方の記録メディアに書き込みができます。

音楽や永久保存データファイルを記録するには、空の CD-R を使用します。作成した CD-R には再度書き込むことができません（詳細については、Sonic のマニュアルを参照してください）。

CD に書き込んだり、CD のデータの消去、書換え、更新を行う場合は、空の CD-RW を使用します。

空の DVD+/-R を使用すると、大量の情報を永久保存することができます。ディスク作成プロセスの最終段階でディスクを「ファイナライズ」または「クローズ」した場合は、作成した DVD+/-R ディスクに再度書き込むことができません。そのディスクの情報を後で消去したり、書き換えたり、アップデートしたりする場合は、空の DVD+/-RW を使用してください。

### CD 書き込み可能ドライブ

メディアタイプ	読み取り	書き込み	再書き込み
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○	○

### DVD 書き込み可能ドライブ

メディアタイプ	読み取り	書き込み	再書き込み
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○	○
DVD+R	○	○	×
DVD-R	○	○	×
DVD+RW	○	○	○
DVD-RW	○	○	○
DVD+R DL	○	○	×

## 役に立つヒント

- Microsoft® Windows® エクスプローラでファイルを CD-R や CD-RW にドラッグアンドドロップする場合は、まず Sonic DigitalMedia を起動して DigitalMedia プロジェクトを開いてください。
- コピーしたミュージック CD を一般的なステレオで再生するには、CD-R を使用してください。CD-RW は、ほとんどの家庭用ステレオやカーステレオでは再生できません。
- Sonic DigitalMedia では、オーディオ DVD を作成することはできません。
- 音楽用 MP3 ファイルは、MP3 プレーヤーでのみ、または MP3 ソフトウェアがインストールされたコンピュータでのみ再生できます。
- ホームシアターシステムで使用される市販の DVD プレーヤーは、使用可能な DVD フォーマットをすべてサポートしているとは限りません。お使いの DVD プレーヤーでサポートされているフォーマットの一覧については、DVD プレーヤーに付属のマニュアルを参照するか、または製造元にお問い合わせください。
- 空の CD-R または CD-RW を最大容量までコピーしないでください。たとえば、650 MB のファイルを容量が 650 MB の空の CD にコピーしないでください。CD-RW ドライブは、記録の最終段階で 1～2 MB のブランクスペースを必要とします。
- CD への記録について操作に慣れるまで練習するには、空の CD-RW を使用してください。CD-RW なら、失敗しても CD-RW のデータを消去してやりなおすことができます。また、空の CD-R に音楽ファイルプロジェクトを永久記録する前にプロジェクトをテストする場合にも、空の CD-RW を使用してください。
- 詳細については、Sonic ウェブサイト [www.sonicjapan.co.jp](http://www.sonicjapan.co.jp) を参照してください。

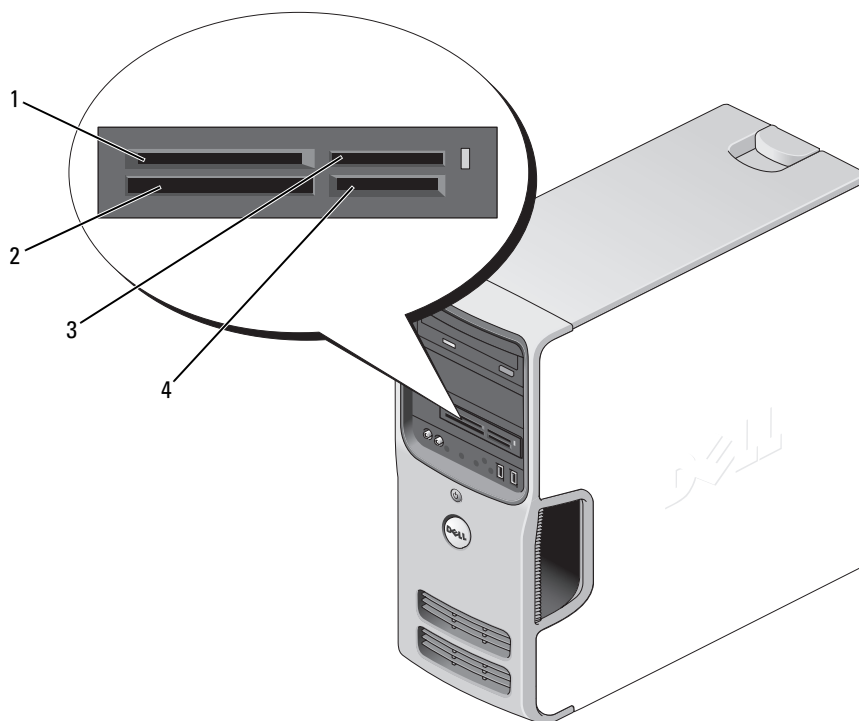
## メディアカードリーダー（オプション）の使い方

メディアカードリーダーを使用して、データを直接コンピュータに転送します。

メディアカードリーダーは、以下のメモリタイプをサポートしています。

- xD ピクチャカード
- スマートメディア（SMC）
- CompactFlash タイプ I および II（CF I/II）
- マイクロドライブカード
- SD カード
- マルチメディアカード（MMC）
- メモリスティック（MS/MS Pro）

メディアカードリーダーの取り付けについては、107 ページの「メディアカードリーダーの取り付け」を参照してください。



- |                               |  |
|-------------------------------|--|
| 1 xD ピクチャカードおよびスマートメディア (SMC) | 2 CompactFlash タイプ I/II (CF I/II) およびマイクロドライブカード |
| 3 メモリスティック (MS/MS Pro)        | 4 SD カード / マルチメディアカード (MMC)                      |

メディアカードリーダーを使用するには、次の手順を実行します。

- 1 メディアまたはカードをチェックして、適切な挿入の方向を確認します。
- 2 メディアまたはカードを該当するスロットに差し込み、コネクタに完全に装着します。  
メディアまたはカードがきちんと入らない場合は、無理に押し込まないでください。カードの向きが合っているかを確認して再度試してみてください。

## 2台のモニターの接続

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

**🔄 注意：**VGA コネクタを備えたモニターを2台接続する場合は、オプションの DVI アダプタが必要です。フラットパネルモニターを2台接続する場合は、そのうちの少なくとも1台が VGA コネクタを備えている必要があります。TV を接続する場合は、その TV の他にモニター（VGA または DVI）を1台だけ接続できます。

デュアルモニターをサポートするグラフィックカードをご購入された場合は、以下の手順に従ってモニターの接続と設定を行います。この手順では、2台のモニターを（それぞれ VGA コネクタを使用して）接続する方法、1台は VGA コネクタでもう1台は DVI コネクタで接続する方法、または TV を接続する方法を説明します。

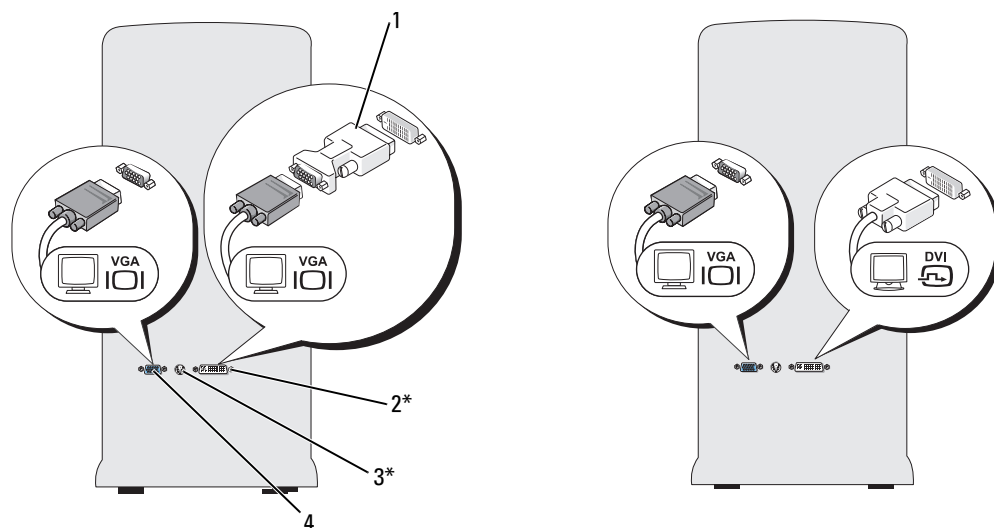
### VGA コネクタを使用して2台のモニターを接続する方法

1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。

**📌 メモ：**お使いのコンピュータにオンボードビデオコネクタがある場合は、オンボードビデオコネクタにはどちらのモニターも接続しないでください。オンボードビデオコネクタにキャップが付いている場合は、モニター接続時に取り外さないでください。取り外すとモニターが機能しなくなります。

2 1台のモニターを、コンピュータ背面の VGA コネクタ（青色）に接続します。

3 もう1台のモニターをオプションの DVI アダプタに接続し、その DVI アダプタをコンピュータ背面の DVI コネクタ（白色）に接続します。



\* 機種によってはない場合があります。

1 オプションの DVI アダプタ

2 DVI コネクタ（白色）

3 TV 出力コネクタ

4 VGA コネクタ（青色）

## 1 台のモニターを VGA コネクタで、もう 1 台を DVI コネクタで接続する方法

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 モニターの VGA コネクタをコンピュータ背面の VGA コネクタ（青色）に接続します。
- 3 もう 1 台のモニターの DVI コネクタをコンピュータ背面の DVI コネクタ（白色）に接続します。

## TV の接続



**メモ：**TV をコンピュータへ接続するには、S ビデオケーブルを購入する必要があります。S ビデオケーブルは、ほとんどの電気店で入手できます。お使いのコンピュータには同梱されていません。

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 S ビデオケーブルの一方の端を、コンピュータの背面にあるオプションの TV 出力コネクタに接続します。
- 3 S ビデオケーブルのもう一方の端を、TV の S ビデオ入力コネクタに接続します。
- 4 VGA または DVI モニターを接続します。

## ディスプレイ設定の変更

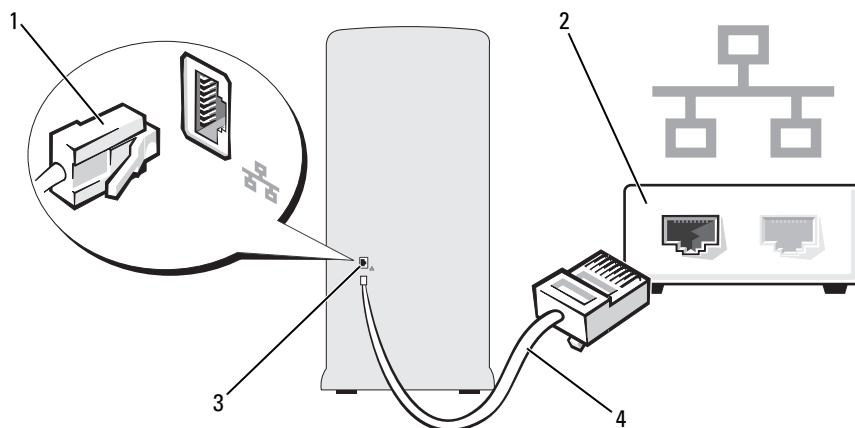
- 1 モニターまたは TV を接続したら、コンピュータの電源を入れます。  
Microsoft® Windows® のデスクトップがプライマリモニターに表示されます。
- 2 ディスプレイ設定でクローンモードまたは拡張デスクトップモードを有効にします。
  - クローンモードでは、両方のモニターが同じ画像を表示します。
  - 拡張デスクトップモードでは、オブジェクトを 1 つの画面から別の画面にドラッグすることができ、表示可能なワークスペースの量を倍増させることができます。

お使いのグラフィックカードに合わせたディスプレイ設定の変更については、ヘルプとサポートセンターのユーザーズガイドを参照してください（**スタート ボタン、ヘルプとサポート、ユーザーズガイドおよびシステムガイド、Device guides**（デバイスガイド）の順にクリックし、グラフィックカードのガイドをクリックします）。

# 家庭用および企業用ネットワークのセットアップ

## ネットワークアダプタへの接続

- ➡ **注意：**ネットワークケーブルをコンピュータのネットワークアダプタコネクタに差し込みます。ネットワークケーブルをコンピュータのモデムコネクタに差し込まないでください。ネットワークケーブルを壁の電話ジャックに差し込まないでください。
- 1 ネットワークケーブルをコンピュータ背面のネットワークアダプタコネクタに接続します。ケーブルをカチッと所定の位置に収まるまで差し込みます。次に、ケーブルを軽く引いて、ケーブルの接続を確認します。
- 2 ネットワークケーブルのもう一方の端をネットワークデバイスに接続します。



- 1 ネットワークアダプタコネクタ
- 2 ネットワークデバイス
- 3 コンピュータのネットワークアダプタコネクタ
- 4 ネットワークケーブル

## ネットワークセットアップウィザード

Microsoft® Windows® XP OS には、家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

- 1 スタート ボタンをクリックし、**すべてのプログラム → アクセサリ → 通信**の順にポイントして、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。
- 2 ネットワークセットアップウィザードの**開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
- 3 ネットワーク作成の**チェックリスト** をクリックします。
- 📌 **メモ：**インターネットに直接接続しているという接続方法を選択すると、Windows XP Service Pack の内蔵ファイアウォールを使用することができます。
- 4 チェックリストのすべての項目に入力し、必要な準備を完了します。
- 5 ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面の指示に従います。



## 電力の管理

Microsoft® Windows® XP の電力管理機能を使うと、電源の入っているコンピュータで操作していないときにコンピュータが消費する電力を節約することができます。モニターやハードドライブへの電力だけを節約することができたり、スタンバイモードや休止状態モードを使ってコンピュータ全体の電力を節約することもできます。コンピュータが省電力モードから通常の動作状態に戻ると、Windows デスクトップは省電力モードに入る前と同じ状態に戻ります。



**メモ：**Windows XP Professional には、Windows XP Home Edition では利用できないセキュリティ機能やネットワーク機能が用意されています。Windows XP Professional が動作しているコンピュータがネットワークに接続されている場合は、セキュリティおよびネットワーキングに関する特定のウィンドウでは、表示される項目が異なります。

### スタンバイモード

スタンバイモードは、タイムアウトになるとディスプレイとハードドライブの電源を切ることによって電力を節約します。スタンバイモードから終了すると、コンピュータはスタンバイモードに入る前と同じ動作状態に戻ります。

あらかじめ設定した一定の時間コンピュータを操作しないと自動的にスタンバイモードが起動するよう設定するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **コントロールパネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。

一定時間コンピュータを操作しない時間をおかずに、スタンバイモードをすぐに起動するには、**スタート** ボタンをクリックし、**終了オプション** をクリックして、**スタンバイ** をクリックします。

スタンバイモードを終了するには、キーボードのキーを押すか、マウスを動かします。



**注意：**スタンバイモードのときにコンピュータの電源が切れると、データが失われるおそれがあります。

### 休止状態モード

休止状態モードでは、システム情報をハードドライブの予約領域にコピーしてから、コンピュータの電源を切ることによって電力を節約します。コンピュータが休止状態モードから通常の動作状態に戻ると、デスクトップは休止状態モードに入る前と同じ状態に戻ります。

休止状態モードを起動するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **コントロールパネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。
- 4 **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで休止状態の設定を指定します。

休止状態モードから通常の動作状態に戻るには、電源ボタンを押します。コンピュータが通常の動作状態に戻るのに、若干時間がかかることがあります。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしたりしても、休止状態モードから復帰しません。これは、コンピュータが休止状態モードに入っている場合は、キーボードやマウスが機能しないためです。

休止状態モードでは、ハードドライブにコンピュータのメモリの内容を格納するための十分な空きディスク容量を確保する必要があります。お使いのコンピュータには、出荷前に適切な大きさの休止状態モードファイルが作成されています。コンピュータのハードドライブが破損した場合、Windows XP は休止モードファイルを自動的に再作成します。

## 電源オプションのプロパティ

スタンバイモード設定、休止状態モード設定、および他の電源設定は、**電源オプションのプロパティ** ウィンドウで行います。**電源オプションのプロパティ** ウィンドウを表示するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **コントロールパネルを選んで実行します** で、**電源オプション** をクリックします。
- 4 **電源設定** タブ、**詳細設定** タブ、および **休止状態** タブで電源設定を行います。

## 電源設定タブ

各標準の電源設定のことを、スキームと呼びます。お使いのコンピュータにプリインストールされている標準の Windows スキームを選択するには、**電源設定** ドロップダウンメニューから設定を選びます。各電源設定の下のフィールドに設定が表示されます。電源設定には、コンピュータをスタンバイモードまたは休止状態モードにする、モニターやハードドライブの電源を切るなどのさまざまなタイムアウト設定があります。

**電源設定** ドロップダウンメニューには以下の電源設定が表示されます。


- **常にオン** (デフォルト) — 電力を節約しないでコンピュータをお使いになる場合。
- **自宅または会社のデスク** — ご家庭または会社でお使いのコンピュータで最小限の省電力が必要な場合。
- **プレゼンテーション** — 中断されることなく (節電機能を使わずに) コンピュータをお使いになる場合。
- **最小の電源管理** — 節電機能を最小限しか使わずにコンピュータを使用する場合。
- **バッテリーの最大利用** — ノートブックコンピュータを長時間バッテリーでお使いになる場合。

スキームのデフォルト設定を変更する場合は、**モニタの電源を切る**、**ハードディスクの電源を切る**、**システムスタンバイ**、または**システム休止状態** フィールドのドロップダウンメニューをクリックして、表示される一覧からタイムアウトを選択します。設定フィールドのタイムアウトを変更すると、そのスキームのデフォルト設定が変更されます。**名前を付けて保存** をクリックし、変更した設定に新しい名前を入力しない限り、変更後の設定は変わりません。

- ➡ **注意：**ハードドライブ（ハードディスク）がモニターより先にタイムアウトになるよう設定すると、コンピュータがフリーズしたように見えることがあります。通常の動作状態に戻すには、キーボードの任意のキーを押すか、マウスをクリックします。この問題を回避するには、モニターを常にハードドライブより前にタイムアウトになるよう設定します。

### 詳細設定タブ

**詳細設定** タブでは次のことができます。

- すばやくアクセスできるように、電源オプションアイコン  を Windows のタスクバーに配置する。
- コンピュータがスタンバイモードまたは休止状態モードから復帰する前に、Windows のパスワードの入力を求めるように設定する。
- スタンバイモードまたは休止状態モードの起動、あるいはコンピュータの電源を切るよう、電源ボタンを設定する。

これらの機能を有効にするには、対応するドロップダウンメニューでオプションをクリックし、**OK** をクリックします。

### 休止状態タブ

**休止状態** タブで、休止状態モードを有効にします。**電源設定** タブで指定した休止状態設定を使用する場合は、**休止状態** タブで **休止状態を有効にする** チェックボックスをクリックします。

電力管理オプションの詳細については、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 **ヘルプとサポート** ウィンドウで **パフォーマンスと保守** をクリックします。
- 3 **パフォーマンスと保守** ウィンドウで、**コンピュータの電力を節約する** をクリックします。

## Hyper-Threading

Hyper-Threading は Intel® のテクノロジーで、1 個の物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることで全体的なパフォーマンスの向上を図り、複数のタスクを同時に処理することを可能にします。Windows XP は Hyper-Threading テクノロジーを利用できるように最適化されているので、Microsoft® Windows® XP Service Pack 1 (SP1) 以降の OS を使用することをお勧めします。多くのプログラムは、Hyper-Threading の恩恵を受けることになりませんが、Hyper-Threading 用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェアの製造元によるアップデートが必要な場合もあります。ソフトウェアのアップデートについて、また、お使いのソフトウェアで Hyper-Threading を使用方法については、ソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

お使いのコンピュータが Hyper-Threading テクノロジーを使用しているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
- 2 **ハードウェア** をクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
- 3 **デバイスマネージャ** ウィンドウで、**プロセッサ** の横の (+) サインをクリックします。Hyper-Threading が有効な場合、プロセッサは 2 個表示されています。

セットアップユーティリティを使用して、Hyper-Threading の有効 / 無効を切り替えることができます。セットアップユーティリティの使用の詳細については、119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照してください。Hyper-Threading の詳細については、デルサポートサイト [support.jp.dell.com](http://support.jp.dell.com) で技術情報を検索してください。

## RAID 構成について

本項では、RAID 構成の概要を説明します。コンピュータのご購入時に RAID 構成を選択している場合があります。コンピュータ業界では用途に応じていくつかの RAID 構成がありますが、お使いのコンピュータでは RAID レベル 1 が利用できます。RAID レベル 1 の構成は、高水準のデータ保全性を希望されるユーザーにお勧めです。

このコンピュータの Intel RAID コントローラでは、2 台の物理ドライブを使用した RAID 構成のみが可能です。容量が大きいドライブに未割り当ての（使用できない）領域ができないようにするには、これらのドライブを同じ容量にする必要があります。



**メモ**：Dell コンピュータの購入時に RAID を指定された場合は、同一容量のハードドライブ 2 台を使用する構成になっています。

## RAID が機能していることの確認

お使いのコンピュータでは、起動時に OS が読み込まれる前に、RAID 構成に関する情報が表示されます。RAID が設定されていない場合は、**RAID Volumes** (RAID ボリューム) の下に none defined (定義されていません) というメッセージが表示され、システムに取り付けられている物理ドライブの一覧がその下に表示されます。RAID ボリュームの存在が検出された場合は、**Status** (ステータス) フィールドをチェックすれば、RAID 構成の現状を確認できます。**Status** (ステータス) フィールドには、次の状態に関する情報が表示されています。

- **Normal** (正常) — RAID 構成は正常に機能しています。
- **Degraded** (劣化) — ハードドライブの 1 台に障害が発生しています。それでもコンピュータは起動します。ただし、RAID が機能していないため、データがもう 1 台のドライブにコピーされません。
- **Rebuild** (再構築) — 劣化状態になった後、コンピュータがセカンダリハードドライブの交換 / 接続を検出しました。次に OS を読み込む際には、RAID 構成が自動的に復元されます。

## RAID レベル 1

RAID レベル 1 では、「ミラーリング」と呼ばれる、データの冗長性を持たせたストレージ技術を使用します。プライマリドライブにデータが書き込まれると、そのデータは他のドライブ上に複製 (ミラーリング) されます。RAID レベル 1 では、データアクセス速度を犠牲にして、データの冗長性が重視されます。



いずれかのドライブに障害が発生した場合、それ以降の読み書き操作は、正常に動作しているドライブに対して行われます。その正常なドライブのデータを使用して、交換用ドライブを再構築できます。また、データが両方のドライブに複製されるため、2 台の 120 GB RAID レベル 1 ドライブでデータの保存に使用できる合計容量は、最大 120 GB となります。

## RAID のトラブルシューティング

RAID ハードドライブボリュームのトラブルシューティングには、2 つの方法があります。1 つは Intel RAID Option ROM ユーティリティを使用する方法で、ハードドライブに OS をインストールする前に実行します。もう 1 つの方法は、Intel Matrix Storage Manager または Intel Matrix Storage Console を使用する方法で、OS と Intel Matrix Storage Console をインストールした後で実行します。どちらの方法を使う場合も、最初にお使いのコンピュータを RAID 有効モード (31 ページの「コンピュータを RAID 有効モードに設定する方法」を参照) に設定しておく必要があります。

### Intel® RAID Option ROM ユーティリティを使用して複数のハードドライブ障害から復旧する方法




**メモ：** 次の手順を実行しても、ハードドライブ障害の発生中に失われたデータを復元することはできません。必ず、障害の発生したドライブを交換した後で実行してください (95 ページの「ハードドライブ」を参照)。


Intel RAID Option ROM ユーティリティを使用する場合、どんなサイズのハードドライブを組み合わせても RAID 構成を組むことはできますが、同じサイズのドライブを使用することが理想的です。RAID レベル 1 設定では、使用する 2 台のドライブのうち小さい方の容量が、その構成全体の容量になります。

- 1 お使いのコンピュータを RAID 使用可能モードに設定します (31 ページの「コンピュータを RAID 有効モードに設定する方法」を参照)。
- 2 プロンプトが表示されたら <Ctrl><i> を押して、Intel RAID Option ROM ユーティリティを起動します。
- 3 上下矢印キーを使用して **Create RAID Volume** (RAID ボリュームの作成) をハイライト表示し、<Enter> を押します。
- 4 RAID ボリューム名を入力するかデフォルトのままにし、<Enter> を押します。
- 5 **RAID1(Mirror)** (RAID 1 (ミラー)) を選択し、<Enter> を押します。
- 6 ボリュームの容量を選択して、<Enter> を押します。デフォルト値は、利用可能な最大サイズです。
- 7 <Enter> を押してボリュームを作成します。
- 8 確認のため <y> を押します。
- 9 Intel RAID Option ROM ユーティリティのメイン画面に正しいボリューム構成が表示されていることを確認します。
- 10 上下矢印キーを押して **Exit** (終了) を選択し、<Enter> を押します。
- 11 付属のメディア (59 ページの「お使いの OS の復元」を参照) を使用して、OS をインストールします。

## Intel Matrix Storage Manager を使用して単一のハードドライブ障害から復旧する方法


 **メモ**：以下の手順は必ず、障害の発生したハードドライブを交換した後で実行してください（95 ページの「ハードドライブ」を参照）。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**プログラム** → **Intel(R) Matrix Storage Manager** → **Intel Matrix Storage Console** の順にポイントして、Intel Storage Utility を起動します。
- 2 **Restore RAID 1 data protection** (RAID 1 データ保護の復元) ボタンをクリックします。
- 3 **Rebuild RAID volume now** (RAID ボリュームの再構築をすぐに行う) ボタンをクリックします。
- 4 **Yes** (はい) ボタンをクリックすると、RAID ボリュームを新しいハードドライブに再構築するプロセスが開始します。

 **メモ**：RAID レベル 1 ボリュームを再構築する間も、コンピュータは使用できます。

## コンピュータを RAID 有効モードに設定する方法

- 1 セットアップユーティリティを起動します（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。
- 2 上下矢印キーを押して **Drives** (ドライブ) をハイライト表示し、<Enter> を押します。
- 3 上下矢印キーを押して **SATA Operation** (SATA 操作) をハイライト表示し、<Enter> を押します。
- 4 左右矢印キーを押して **RAID On** (RAID オン) をハイライト表示し、<Enter> を押してから <Esc> を押します。

 **メモ**：RAID オプションの詳細については、121 ページの「セットアップユーティリティのオプション」を参照してください。

- 5 左右矢印キーを押して **Save/Exit** (保存 / 終了) をハイライト表示し、<Enter> を押してセットアップユーティリティを終了し、起動プロセスに戻ります。

## Dell™ DataSafe (オプション)

Dell DataSafe は、システムのクラッシュ、ハードドライブやソフトウェアの障害、ウイルス感染などが発生した際に、データの保護に役立つソリューションです。Intel のテクノロジーを利用したこのソリューションにより、お使いのコンピュータは工場出荷時の段階で、データをしっかりと保護できる仕組みが整っています。Dell DataSafe により、お使いのシステムには、ハードドライブのデータを定期的に自動コピーするための専用領域が確保されます。

Dell DataSafe は、写真、音楽、ビデオ、ファイル、その他の貴重なデータを保存・保護するだけでなく、障害発生時にコンピュータとデータを復元するためにも使えます。Dell DataSafe に含まれているソフトウェアにより、問題が発生したシステムを正常な状態に戻したり、削除されたファイルを容易に取り出したり、個々のファイルまたはハードドライブ全体を復旧することができます。また、Intel Matrix Storage Console (RAID) により、1 台のハードドライブに障害が発生してもシステムを引き続き使うことができます。






## 問題の解決


### トラブルシューティングのヒント

コンピュータのトラブルシューティングを実行する際は、以下のヒントに従ってください。

- 部品を追加したり取り外した後に問題が発生した場合は、取り付け手順を見直して、部品が正しく取り付けられているか確認します。
- 周辺機器が機能しない場合は、その機器が正しく接続されているか確認します。
- 画面にエラーメッセージが表示される場合は、メッセージを正確にメモします。このメッセージは、テクニカルサポート担当者が問題を診断して修復するのに役立ちます。
- プログラムの実行中にエラーメッセージが表示される場合は、プログラムのマニュアルを参照してください。


### バッテリーの問題

 **警告：**バッテリーの取り付け方が間違っていると、破裂するおそれがあります。交換するバッテリーは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

**バッテリーを交換します。** コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時刻と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時刻や日付が表示される場合は、バッテリーを交換します（112 ページの「バッテリーの交換」を参照）。それでもバッテリーが正常に機能しない場合は、デルにお問い合わせください（133 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

## ドライブの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

ドライブが **MICROSOFT® WINDOWS®** によって認識されていることを確認します。スタートボタンをクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。お使いのフロッピードライブ、CD ドライブ、または DVD ドライブが一覧に表示されない場合は、アンチウイルスソフトウェアでウイルスチェックを行い、ウイルスの検出と除去を行います。ウイルスが原因で Windows がドライブを認識できないことがあります。

### ドライブのテストを行います。

- 元のフロッピーディスク、CD、または DVD に問題がないか確認するため、別のディスクを挿入します。
- 起動可能なメディアを挿入してコンピュータを再起動します。


ドライブまたはディスクをクリーニングします。129 ページの「コンピュータのクリーニング」を参照してください。


### ケーブル接続を確認します。

ハードウェアのトラブルシューティングを実行します。58 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。

**DELL DIAGNOSTICS** を実行します。54 ページの「Dell Diagnostics」を参照してください。

## CD および DVD ドライブの問題

 **メモ：**高速 CD または DVD ドライブの振動は正常です。この振動によってノイズが生じることがありますが、ドライブの欠陥や CD または DVD の欠陥を示すものではありません。

 **メモ：**国や地域によってディスクフォーマットが異なるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

### Windows のボリュームを調整します。

- 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックします。
- スライドバーをクリックし、上にドラッグして、音量が上がることを確認します。
- サウンドがミュートに設定されていないか確認し、設定されている場合はチェックマークの付いたボックスをクリックします。

スピーカーおよびサブウーハーを確認します。47 ページの「サウンドおよびスピーカーの問題」を参照してください。

## CD/DVD-RW ドライブへの書き込みの問題

**その他のプログラムを閉じます。** CD/DVD-RW ドライブは、データを書き込む際に一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW への書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了します。


**CD/DVD-RW ディスクに書き込む前に、Windows のスタンバイモードをオフにします。** Windows のヘルプで「スタンバイ」というキーワードで検索します。


## ハードドライブの問題

**チェックディスクを実行します。**

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。
- 2 **ローカルディスク (C:)** を右クリックします。
- 3 **プロパティ** をクリックします。
- 4 **ツール** タブをクリックします。
- 5 **エラーチェック** の項目で、**チェックする** をクリックします。
- 6 **不良なセクタをスキャンし、回復する** をクリックします。
- 7 **開始** をクリックします。

## E-メール、モデム、およびインターネットの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **メモ：**モデムは必ずアナログ電話ジャックに接続してください。デジタル電話回線 (ISDN) に接続した場合、モデムは動作しません。

**MICROSOFT OUTLOOK® EXPRESS のセキュリティ設定を確認します。** E-メールの添付ファイルを開くことができない場合は、次の操作を行ってください。

- 1 Outlook Express で、**ツール**、**オプション** とクリックして、**セキュリティ** をクリックします。
- 2 **添付ファイルを許可しない** をクリックしてチェックマークを外します。

電話線の接続を確認します。  
電話ジャックを確認します。  
モデムを直接電話ジャックへ接続します。  
他の電話線を使用してみます。

- 電話線がモデムのジャックに接続されているか確認します（ジャックは緑色のラベル、もしくはコネクタの絵柄の横にあります）。
- モデムに電話回線ケーブルコネクタを挿入したときにカチッという音がするか確認します。
- モデムから電話線を外して、電話に接続します。電話の発信音を聞きます。
- 留守番電話、ファックス、サージプロテクタ、および電話線分岐タップなど、同じ回線に接続されている電話機器を取り外し、電話を使ってモデムを直接壁の電話ジャックに接続します。3 m 以上の電話ケーブルを使用している場合は、短いものを使用してみます。

**MODEM HELPER 診断プログラムを実行します。** スタート ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** をポイントして、**Modem Helper** をクリックします。画面の指示に従って、モデムの問題を識別して、その問題を解決します。（Modem Helper は一部のコンピュータでは使用できません）。

モデムが WINDOWS と通信しているか確認します。

- 1 スタート ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 3 **電話とモデムのオプション** をクリックします。
- 4 **モデム** タブをクリックします。
- 5 モデムの COM ポートをクリックします。
- 6 Windows がモデムを検出したか確認するため、**プロパティ** をクリックし、**診断** タブをクリックして、**モデムの照会** をクリックします。  
すべてコマンドに応答がある場合、モデムは正しく動作しています。

**インターネットに接続しているか確認します。** インターネットサービスプロバイダとの契約が済んでいることを確認します。E-メールプログラム Outlook Express を起動し、**ファイル** をクリックします。**オフライン作業** の隣にチェックマークが付いている場合は、そのチェックマークをクリックし、マークを外して、インターネットに接続します。ご質問がある場合は、ご利用のインターネットサービスプロバイダにお問い合わせください。

## エラーメッセージ

メッセージが一覧にない場合は、メッセージが表示されたときに実行していた OS またはプログラムのマニュアルを参照してください。

**A FILENAME CANNOT CONTAIN ANY OF THE FOLLOWING CHARACTERS:\ / : \* ? " < > |**。これらの文字はファイル名には使用しないでください。

**A REQUIRED .DLL FILE WAS NOT FOUND**。アプリケーションプログラムに必要なファイルがありません。次の操作を行い、アプリケーションプログラムを削除して再インストールします。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プログラムの追加と削除** をクリックします。
- 2 削除するプログラムを選択します。
- 3 **プログラムの変更と削除** アイコンをクリックします。
- 4 インストール手順については、プログラムに付属のマニュアルを参照してください。

**ALERT! AIR TEMPERATURE SENSOR NOT DETECTED**。ウルトラスモールフォームファクターコンピュータを除くいずれのコンピュータでも、I/O パネルとシステム基板にすべてのケーブルがしっかりと固定されていることを確認し、コンピュータを再起動します。問題が解決しない場合、またはウルトラスモールファクターコンピュータをお持ちの場合は、デルにお問い合わせください（133 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

**drive letter\ is NOT ACCESSIBLE.THE DEVICE IS NOT READY**。ドライブがディスクを読み取ることができません。ディスクをドライブに挿入して、再度試してみます。


**INSERT BOOTABLE MEDIA**。起動フロッピーディスクまたは CD を挿入します。

**NON-SYSTEM DISK ERROR**。ドライブからフロッピーディスクを取り出し、コンピュータを再起動します。

**NOT ENOUGH MEMORY OR RESOURCES.CLOSE SOME PROGRAMS AND TRY AGAIN**。すべてのウィンドウを閉じ、使用するプログラムのみを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使用したいプログラムを実行します。

**OPERATING SYSTEM NOT FOUND**。デルにお問い合わせください（133 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。

## キーボードの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。


### キーボードケーブルを確認します。

- キーボードケーブルがコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。
- コンピュータをシャットダウンし（65 ページの「コンピュータの電源を切る方法」を参照）、キーボードケーブルをコンピュータのセットアップ図に示されているように接続しなおし、コンピュータを再起動します。
- ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
- キーボード延長ケーブルを取り外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。

**キーボードをテストします。** 正常に機能している別のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。

**ハードウェアのトラブルシューティングを実行します。** 58 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。

## フリーズおよびソフトウェアの問題


 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

### コンピュータが起動しない

**診断ライトを確認します。** 51 ページの「診断ライト」を参照してください。

**電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します。**

### コンピュータが応答しない

 **注意：**OS のシャットダウンが実行できない場合、データが失われるおそれがあります。


**コンピュータの電源を切ります。** キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8 ～ 10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

## プログラムが応答しない

プログラムを終了します。

- 1 <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。
- 2 **アプリケーション** をクリックします。
- 3 反応がなくなったプログラムをクリックします。
- 4 **タスクの終了** をクリックします。

## プログラムが繰り返しクラッシュする

 **メモ**：通常、ソフトウェアのインストール手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスクか CD に収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを参照します。必要に応じて、プログラムをアンインストールして、再インストールしてください。

## プログラムが以前のバージョンの Microsoft® Windows® OS 向けに設計されている場合

プログラム互換性ウィザードを実行します。

プログラム互換性ウィザードは、Windows XP 以外の OS の環境に似た環境で動作するようにプログラムを設定します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム→アクセサリ** の順にポイントして、**プログラム互換性ウィザード** をクリックします。
- 2 **プログラム互換性ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
- 3 画面に表示される指示に従ってください。

## 画面が青色（ブルースクリーン）になった

コンピュータの電源を切ります。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8～10 秒以上押し続けます。その後、コンピュータを再起動します。

## その他のソフトウェアの問題

トラブルシューティングについて、ソフトウェアのマニュアルを確認するか、ソフトウェアの製造元に問い合わせます。

- コンピュータにインストールされている OS と互換性があるか確認します。
- コンピュータがソフトウェアの実行に必要な最小ハードウェア要件を満たしているか確認します。詳細については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。
- デバイスドライバがプログラムと競合していないか確認します。
- 必要に応じて、プログラムをアンインストールして、再インストールしてください。

ファイルを直ちにバックアップします。

ウイルススキャンプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます。

開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、スタートメニューからコンピュータをシャットダウンします。

## メディアカードリーダーの問題

ドライブ文字が割り当てられていません。

Microsoft Windows XP でメディアカードリーダーが検出されると、このデバイスには、システム内の他のすべての物理ドライブの後に、その次の論理ドライブとしてドライブ文字が自動的に割り当てられます。物理ドライブの後の次の論理ドライブがネットワークドライブに割り当てられた場合、Windows XP はメディアカードリーダーに自動的にドライブ文字を割り当てません。

メディアカードリーダーに手でドライブ文字を割り当てるには、以下の手順を実行します。

- 1 **マイコンピュータ** アイコンを右クリックし、**管理** を選択します。
- 2 **ディスクの管理** オプションを選択します。
- 3 右のペインで、変更する必要があるドライブ文字を右クリックします。
- 4 **ドライブ文字とパスの変更** を選択します。
- 5 ドロップダウンリストから、メディアカードリーダーに割り当てる新しいドライブ文字を選択します。
- 6 **OK** をクリックして選択内容を確定します。


**メモ：**メディアカードリーダーは、接続されているときのみ割り当て済みのドライブとして表示されます。メディアがインストールされていない場合でも、4 個のメディアカードリーダー スロットはそれぞれドライブに割り当てられます。メディアが挿入されていないときにメディアカードリーダーにアクセスしようとする、メディアを挿入するように求められます。



### **FLEXBAY デバイスが無効です。**

BIOS セットアップには、FlexBay デバイスが取り付けられている場合のみ表示される **FlexBay disable** (FlexBay 無効) オプションがあります。FlexBay デバイスが物理的に取り付けられているにもかかわらず動作していない場合は、BIOS セットアップで有効になっているかどうかを確認してください。

## メモリの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。


### **メモリが不足しているというメッセージが表示される。**

- 作業中のすべてのファイルを保存してから閉じ、使用していない実行中のプログラムをすべて終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、メモリを増設します（77 ページの「メモリの取り付け」を参照）。
- メモリモジュールを装着しなおし（77 ページの「メモリの取り付け」を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- Dell Diagnostics を実行します（54 ページの「Dell Diagnostics」を参照）。

### **メモリにその他の問題が発生する。**

- メモリモジュールを装着しなおし（77 ページの「メモリの取り付け」を参照）、コンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します（77 ページの「メモリの取り付け」を参照）。
- コンピュータは、DDR2 メモリをサポートしています。お使いのコンピュータに対応するメモリの詳細については、115 ページの「メモリ」を参照してください。
- Dell Diagnostics を実行します（54 ページの「Dell Diagnostics」を参照）。

## マウスの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

**マウスをクリーニングします。** マウスをクリーニングする方法については、130 ページの「マウス」を参照してください。

**マウスケーブルを確認します。**

- 1 マウス延長ケーブルを使用している場合は、拡張ケーブルを取り外してマウスをコンピュータに直接接続します。
- 2 コンピュータに付属のセットアップ図に示されているように、マウスケーブルを接続しなおします。

**コンピュータを再起動します。**

- 1 <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
- 2 **u** と入力してからキーボードの矢印キーを押して、**シャットダウン** または **終了オプション** を選択して、<Enter> を押します。
- 3 コンピュータの電源が切れた後、マウスケーブルをコンピュータに付属のセットアップ図に示されているように接続しなおします。
- 4 コンピュータを起動します。

**マウスを確認します。** 正常に機能している他のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。


**マウスの設定を確認します。**

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 2 **マウス** をクリックします。
- 3 設定を変更してみます。

**マウスドライバを再インストールします。** 57 ページの「ドライバの再インストール」を参照してください。

**ハードウェアのトラブルシューティングを実行します。** 58 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。

## ネットワークの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

**ネットワークケーブルコネクタを確認します。** ネットワークケーブルがコンピュータ背面のネットワークコネクタとネットワークポートまたはデバイスの両方に、しっかりと差し込まれているか確認します。


**コンピュータ背面のネットワークインジケータを確認します。** リンク保全ライトが消灯している場合は、ネットワーク通信が存在しないことを示しています。ネットワークケーブルを交換します。ネットワークインジケータの説明については、117 ページの「ボタンとライト」を参照してください。

**コンピュータを再起動して、ネットワークに再度ログオンします。**

**ネットワークの設定を確認します。** ネットワーク管理者、またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークへの接続設定が正しく、ネットワークが正常に機能しているか確認します。

**ハードウェアのトラブルシューティングを実行します。** 58 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。

## 電源の問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

**電源ライトが緑色に点灯していて、コンピュータの反応が停止した。** 51 ページの「診断ライト」を参照してください。

**電源ライトが緑色に点滅している。** コンピュータはスタンバイモードになっています。キーボードのキーを押したり、マウスを動かしたり、電源ボタンを押したりすると、通常の動作が再開されます。

**電源ライトが消灯している。** コンピュータの電源が切れているか、またはコンピュータに電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。
- コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。また、電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどを使用している場合は、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。
- 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
- 主電源ケーブルおよび前面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します（74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。

**電源ライトが黄色に点灯している。** デバイスが誤動作しているか、または正しく取り付けられていない可能性があります。

- 12 ボルト電源コネクタ（12 V）がシステム基板にしっかりと接続されているか確認します（74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。
- メモリモジュールを取り外して、取り付けなおします（77 ページの「メモリの取り付け」を参照）。
- すべてのカードを取り外して、取り付けなおします（79 ページの「カード」を参照）。
- グラフィックカードを取り付けている場合は取り外してから装着しなおします（84 ページの「PCI Express カード」を参照）。


**電源ライトが黄色に点滅している。** コンピュータに電力は供給されていますが、内部で電源の問題が発生している可能性があります。


- 電圧切り替えスイッチの設定が、ご使用の地域の AC 電源に一致しているか確認します（該当する場合のみ）。69 ページの「コンピュータの背面図」を参照してください。
- 12 ボルト電源コネクタ（12 V）がシステム基板にしっかりと接続されているか確認します（74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。

**電氣的な妨害を解消します。** 電氣的な妨害の原因には、以下のものがあります。

- 電源、キーボード、およびマウスの延長ケーブルが使用されている。
- 電源タップに接続されているデバイスが多すぎる。
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている。

## プリンタの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **メモ：**プリンタのテクニカルサポートが必要な場合は、プリンタの製造元にお問い合わせください。

**プリンタのマニュアルを確認します。** プリンタのセットアップとトラブルシューティングの詳細については、プリンタのマニュアルを参照してください。

**プリンタの電源がオンになっているか確認します。**

**プリンタのケーブル接続を確認します。**

- ケーブル接続については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します（13 ページの「プリンタのセットアップ」を参照）。


**コンセントを確認します。** 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。


**プリンタが Windows によって認識されていることを確認します。**

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
- 2 **インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する** をクリックします。  
プリンタが一覧に表示されている場合は、プリンタアイコンを右クリックします。
- 3 **プロパティ** をクリックし、**ポート** タブをクリックします。**印刷先のポートが USB** に設定されているか確認します。

**プリンタドライバを再インストールします。** 手順については、プリンタのマニュアルを参照してください。

## スキャナーの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **メモ：**スキャナーのテクニカルサポートが必要な場合は、スキャナーの製造元にお問い合わせください。

**スキャナーのマニュアルを確認します。** スキャナーのセットアップとトラブルシューティングの詳細については、スキャナーのマニュアルを参照してください。

**スキャナのロックを解除します。** お使いのスキャナーに固定タブやボタンがある場合は、ロックが解除されているか確認します。

**コンピュータを再起動して、もう一度スキャンしてみます。**

**ケーブル接続を確認します。**

- ケーブル接続の詳細については、スキャナーのマニュアルを参照してください。
- スキャナーのケーブルがスキャナーとコンピュータにしっかりと接続されているか確認します。

**スキャナーが MICROSOFT WINDOWS によって認識されているか確認します。**


1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。

2 **スキャナとカメラ** をクリックします。


お使いのスキャナーが一覧に表示されている場合、Windows はスキャナーを認識しています。

**スキャナードライバを再インストールします。** 手順については、スキャナーのマニュアルを参照してください。

## サウンドおよびスピーカーの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

### スピーカーから音が出ない

 **メモ：**MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量設定より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いていた場合、プレーヤーの音量が十分か確認してください。

**スピーカーケーブルの接続を確認します。** スピーカーに付属しているセットアップ図のとおりスピーカーが接続されているか確認します。サウンドカードをご購入された場合は、スピーカーがカードに接続されているか確認します。

**サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します。** スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合は、音量、低音、または高音を調整して音のひずみを解消します。

**Windows のボリュームを調整します。** 画面右下にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。ボリュームが上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

**ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します。** コンピュータの前面パネルにあるヘッドホンコネクタにヘッドホンを接続すると、自動的にスピーカーからの音声は聞こえなくなります。

**コンセントを確認します。** 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

**電気的な妨害を解消します。** コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切ってみます。

**サウンドドライバを再インストールします。** 58 ページの「手動によるドライバの再インストール」を参照してください。


**ハードウェアのトラブルシューティングを実行します。** 58 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照してください。


## ヘッドフォンから音が出ない

ヘッドフォンケーブルの接続を確認します。ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されていることを確認します（67 ページの「コンピュータの正面図」を参照）。

Windows のボリュームを調整します。画面右下にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。ボリュームが上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

## ビデオおよびモニターの問題

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

 **メモ：**トラブルシューティングの手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

### 画面に何も表示されない

モニターのケーブル接続を確認します。

- グラフィックケーブルが、お使いのコンピュータのセットアップ図のとおり接続されているか確認します。
- グラフィック延長ケーブルを外すと問題が解決する場合は、ケーブルに欠陥があります。
- コンピュータおよびモニターの電源ケーブルを交換し、電源ケーブルに障害があるかどうか確認します。
- 曲がったり壊れたりしているピンがないか、コネクタを確認します（モニターのケーブルコネクタは、通常いくつかのピンが欠けています）。

モニターの電源ライトを確認します。電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかりと押して、モニターの電源が入っているか確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合は、モニターに電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合は、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。

コンセントを確認します。電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

診断ライトを確認します。51 ページの「診断ライト」を参照してください。



## 画面が見づらい

**モニターの設定を確認します。** モニターのコントラストと輝度の調整、モニターの消磁、およびモニターのセルフテストを実行する手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

**サブウーハーをモニターから離します。** スピーカーシステムにサブウーハーが含まれている場合は、サブウーハーをモニターから 60 cm 以上離します。

**外部電源をモニターから離します。** 扇風機、蛍光灯、ハロゲンライト、およびその他の電気機器は、画面の状態を不安定にすることがあります。コンピュータの近くで使用している機器の電源を切ってみて、それらが干渉しているか確認します。

**モニターの向きを変えて、画面への太陽光の映りこみや干渉を除きます。**


**Windows のディスプレイ設定を調整します。**

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。
- 2 **画面** をクリックし、**設定** タブをクリックします。
- 3 **画面の解像度** および **画面の色** を別の設定にしてみます。






# トラブルシューティングツール

## 診断ライト

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

問題のトラブルシューティングを容易にするため、コンピュータの前面パネルに「1」、「2」、「3」、および「4」とラベル表示された4つのライトがあります（67ページの「コンピュータの正面図」を参照）。コンピュータの起動プロセスが正常に開始すると、これらのライトが点滅します。コンピュータが誤作動している場合は、ライトの色や組み合わせ順によって問題を識別できます。


ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
	コンピュータが通常の「オフ」の状態か、OSが正常に起動した後の通常の動作状態か、またはBIOS前に障害が発生した可能性があります。	正常なコンセントにコンピュータを接続し、電源ボタンを押します。43ページの「電源の問題」も参照してください。
	プロセッサに障害が発生した可能性があります。	デルにお問い合わせください（133ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。
	メモリモジュールが検出されましたが、メモリに障害が発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り付けているメモリモジュールが2枚以上の場合は、モジュールを取り外し、1枚を取り付けなおして（77ページの「メモリの取り付け」を参照）、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合は、別のモジュールを取り付けなおします。障害のあるモジュールが見つかるまで、またはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。</li> <li>同じ種類で動作確認済みのメモリがある場合は、そのメモリをコンピュータに取り付けます（77ページの「メモリの取り付け」を参照）。</li> <li>問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（133ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。</li> </ul>

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
① ② ③ ④	グラフィックカードに障害が発生している可能性があります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コンピュータにグラフィックカードを取り付けている場合は、そのカードをいったん取り外してから取り付けなおし（84 ページの「PCI Express カード」を参照）、コンピュータを再起動します。</li> <li>• 問題が解決しない場合は、動作確認済みの別のグラフィックカードを取り付け、コンピュータを再起動します。</li> <li>• それでも問題が解決しないか、コンピュータにオンボードグラフィックがある場合は、デルにお問い合わせください（133 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。</li> </ul>
① ② ③ ④	フロッピードライブまたはハードドライブに障害が発生している可能性があります。	すべての電源ケーブルおよびデータケーブルを接続しなおし、コンピュータを再起動します。
① ② ③ ④	USB の障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。
① ② ③ ④	メモリモジュールが検出されません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 取り付けているメモリモジュールが 2 枚以上の場合は、モジュールを取り外し、1 枚を取り付けなおして（77 ページの「メモリの取り付け」を参照）、コンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合は、別のモジュールを取り付けなおします。障害のあるモジュールが見つかるまで、またはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。</li> <li>• 同じ種類で動作確認済みのメモリがある場合は、そのメモリをコンピュータに取り付けます（77 ページの「メモリの取り付け」を参照）。</li> <li>• 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（133 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。</li> </ul>

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
①②③④	メモリモジュールは検出されましたが、メモリ構成または互換性エラーが存在します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特別なメモリモジュール/メモリコネクタ設置要件がないか確認します（75 ページの「DDR2 メモリの概要」を参照）。</li> <li>• 取り付けようとしているメモリモジュールにコンピュータとの互換性があるか確認します（75 ページの「DDR2 メモリの概要」を参照）。</li> <li>• 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（133 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。</li> </ul>
①②③④	拡張カードの障害が発生した可能性があります。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 グラフィックカード以外のカードを 1 枚取り外し、コンピュータを再起動して、競合が起きているかどうかを調べます。79 ページの「カード」を参照してください。</li> <li>2 問題が解決しない場合は、取り外したカードを取り付けなおし、別のカードを取り外して、コンピュータを再起動します。</li> <li>3 それぞれのカードについて、この手順を繰り返します。コンピュータが正常に起動する場合は、コンピュータから取り外した最後のカードのリソースの競合のトラブルシューティングを行います（58 ページの「ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには」を参照）。</li> <li>4 問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（133 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。</li> </ol>

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
① ② ③ ④	別の障害が発生しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハードドライブ、CDドライブ、およびDVDドライブのケーブルがシステム基板上に正しく接続されているかどうかを確認します（93ページの「ドライブ」を参照）。</li> <li>デバイス（フロッピードライブやハードドライブなど）のエラーメッセージが画面に表示されている場合は、そのデバイスが正常に機能しているかどうかを確認します。</li> <li>OSがデバイス（フロッピードライブやハードドライブなど）からの起動を試みています。セットアップユーティリティを使って、コンピュータに取り付けられているデバイスの起動順序が正しいかどうかを確認してください（119ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。</li> <li>問題が解決しない場合は、デルにお問い合わせください（133ページの「デルへのお問い合わせ」を参照）。</li> </ul>
① ② ③ ④	POST後にコンピュータが正常に動作している場合は、4つのライトすべてが点滅します。	なし。

## Dell Diagnostics

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。コンピュータに問題が発生した場合は、デルテクニカルサポートにお問い合わせになる前に、33ページの「問題の解決」のチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics を実行してください。


 **注意：**Dell Diagnostics は Dell™ コンピュータでのみ機能します。

- 1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- 2 DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。  
キーを押すタイミングが遅れて OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして（65ページの「コンピュータの電源を切る方法」を参照）もう一度やりなおします。
- 3 起動デバイスの一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition**（ユーティリティパーティションから起動）をハイライト表示して、<Enter> を押します。
- 4 Dell Diagnostics の **Main Menu**（メインメニュー）が表示されたら、実行するテストを選択します。

## Dell Diagnostics のメインメニュー

- 1 Dell Diagnostics がロードされ **Main Menu** (メインメニュー) 画面が表示されたら、希望のオプションのボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test (エクスプレステスト)	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは 10 ~ 20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に <b>Express Test</b> (エクスプレステスト) を実行すると、問題を素早く特定できる可能性が増します。
Extended Test (拡張テスト)	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは 1 時間以上かかり、質問に定期的に応答する必要があります。
Custom Test (カスタムテスト)	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree (症状ツリー)	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

- 2 テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示すメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を書き留め、画面の指示に従います。  
エラー状態を解決できない場合は、デルにお問い合わせください (133 ページの「デルへのお問い合わせ」を参照)。
-  **メモ**：各テスト画面の上部には、コンピュータのサービスタグが表示されます。デルにお問い合わせいただく場合は、テクニカルサポート担当者がサービスタグをおたずねします。
- 3 **Custom Test** (カスタムテスト) または **Symptom Tree** (症状ツリー) オプションからテストを実行する場合は、該当するタブをクリックします (詳細については、以下の表を参照してください)。

タブ	機能
Results (結果)	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors (エラー)	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明を表示します。
Help (ヘルプ)	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。

タブ	機能
Configuration (構成)	<p>選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。</p> <p>Dell Diagnostics では、セットアップユーティリティ、メモリ、および各種内部テストからすべてのデバイスの構成情報を取得して、画面左のウィンドウのデバイス一覧に表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに接続されたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。</p>
Parameters (パラメータ)	<p>テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。</p>

- 4 テスト画面を閉じて、**Main Menu** (メインメニュー) 画面に戻ります。Dell Diagnostics を終了してコンピュータを再起動するには、**Main Menu** (メインメニュー) 画面を閉じます。

## ドライバ

### ドライバとは？

ドライバは、プリンタ、マウス、またはキーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いのコンピュータには、出荷時に必要なドライバがすでにインストールされていますので、新たにインストールしたり設定したりする必要はありません。

キーボードドライバなど、ドライバの多くは Microsoft® Windows® OS に付属しています。以下の場合に、ドライバをインストールする必要があります。

- OS のアップグレード
- OS の再インストール
- 新しいデバイスの接続または取り付け

### ドライバの識別


デバイスに問題が発生した場合は、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。



## Windows XP

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** にある **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **システム** をクリックします。
- 4 **システムのプロパティ** ウィンドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
- 5 **デバイスマネージャ** をクリックします。
- 6 一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符 (! の付いた黄色の丸) が付いているものがないか確認します。  
デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストールまたは新しいドライバのインストールが必要な場合があります。

## ドライバの再インストール

-  **注意**：デルサポートサイト [support.jp.dell.com](http://support.jp.dell.com) から Dell™ コンピュータの認可されたドライバが入手できます。その他の媒体からドライバをインストールした場合は、お使いのコンピュータが適切に動作しないおそれがあります。

## Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合は、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **作業する分野を選びます** にある **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **システム** をクリックします。
- 4 **システムのプロパティ** ウィンドウの **ハードウェア** タブをクリックします。
- 5 **デバイスマネージャ** をクリックします。
- 6 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックして、**プロパティ** をクリックします。
- 7 **ドライバ** タブをクリックします。
- 8 **ドライバのロールバック** をクリックします。

ドライバのロールバックで問題が解決しない場合は、システムの復元を使用して、新しいデバイスドライバをインストールする前の稼動状態にコンピュータを戻します (59 ページの「Microsoft Windows XP システムの復元の使い方」を参照)。

### 手動によるドライバの再インストール

- 1 必要なドライバファイルをハードドライブにコピーした後、**スタート** ボタンをクリックし、**マイコンピュータ** を右クリックします。
- 2 **プロパティ** をクリックします。
- 3 **ハードウェア** タブをクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
- 4 インストールするドライバのデバイスのタイプをダブルクリックします。
- 5 インストールするドライバのデバイスの名前をダブルクリックします。
- 6 **ドライバ** タブをクリックし、**ドライバの更新** をクリックします。
- 7 **一覧または特定の場所からインストールする (詳細)** をクリックし、**次へ** をクリックします。
- 8 **参照** をクリックし、あらかじめドライバファイルをコピーしておいた場所を参照します。
- 9 該当するドライバの名前が表示されたら、**次へ** をクリックします。
- 10 **完了** をクリックして、コンピュータを再起動します。

## ソフトウェアとハードウェアの非互換性の問題を解決するには

OS のセットアップ中にデバイスが検出されないか、検出されても間違っていて設定されている場合は、ハードウェアに関するトラブルシューティングを使用して非互換性を解決することができます。

ハードウェアに関するトラブルシューティングで非互換性の問題を解決するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 **検索** 領域で、ハードウェアに関するトラブルシューティング と入力し、矢印をクリックして検索を開始します。
- 3 **検索結果** 一覧で、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
- 4 **ハードウェアに関するトラブルシューティング** 一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決する必要があります** をクリックして、**次へ** をクリックします。


## お使いの OS の復元


次の方法で、お使いの OS を復元することができます。

- Microsoft® Windows® XP システムの復元は、データファイルに影響を及ぼすことなく、コンピュータを以前の動作状態に戻します。データファイルを保存したまま OS を復元するための最初のソリューションとして、システムの復元を実行してください。
- Dell PC Restore by Symantec は、ハードドライブをコンピュータ購入時の動作状態に戻します。Dell PC Restore は、ハードドライブのすべてのデータを永久に削除し、コンピュータを受け取られてから後にインストールされたアプリケーションもすべて削除します。システムの復元を実行しても OS の問題が解決しない場合にのみ、PC リストアを使用してください。
- コンピュータに『再インストール用 CD』が付属していた場合は、この CD を使用して OS を復元できます。この CD は、システムの復元を実行しても OS の問題が解決しなかった場合にのみ使用してください。

### Microsoft Windows XP システムの復元の使い方

ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したために、コンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合は、Microsoft Windows XP OS のシステムの復元を使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元の使い方については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。Windows ヘルプとサポートセンターにアクセスするには、9 ページの「情報の検索方法」を参照してください。

 **注意：**データファイルのバックアップを定期的に作成してください。システムの復元によって、データファイルの変更の監視や復元はできません。

 **メモ：**本書に記載されている手順は、Windows のデフォルト表示用にかかれているため、クラシック表示に設定している場合には適用されません。

### 復元ポイントの作成

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
- 2 **システムの復元** のタスクをクリックします。
- 3 画面に表示される指示に従ってください。

## コンピュータの以前の動作状態への復元

デバイスドライバをインストールした後に問題が発生した場合は、まずデバイスドライバロールバック（57 ページの「Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方」を参照）を使用してみてください。それでも問題を解決しない場合は、システムの復元を使用します。

➡ **注意：**コンピュータを以前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除したりしないでください。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム アクセサリ システムツール** の順にポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
- 2 **コンピュータを以前の状態に復元する** が選択されていることを確認して、**次へ** をクリックします。
- 3 コンピュータを復元したいカレンダーの日付をクリックします。

**復元ポイントの選択** 画面に、復元ポイントが選べるカレンダーが表示されます。復元ポイントが利用できる日付は太字で表示されます。

- 4 復元ポイントを選んで、**次へ** をクリックします。  
日付に復元ポイントが 1 つしか表示されない場合は、その復元ポイントが自動的に選ばれます。2 つ以上の復元ポイントが利用可能な場合は、希望の復元ポイントをクリックします。
- 5 **次へ** をクリックします。  
システムの復元がデータの収集を完了したら、**復元は完了しました** 画面が表示され、コンピュータが自動的に再起動します。
- 6 コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

復元ポイントを変更するには、別の復元ポイントを使って手順を繰り返すか、または復元を取り消すことができます。

## 以前のシステムの復元の取り消し

➡ **注意：**最後に行ったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存して閉じ、実行中のプログラムをすべて終了してください。システムの復元が完了するまで、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除したりしないでください。

- 1 **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** とポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
- 2 **以前の復元を取り消す** をクリックして、**次へ** をクリックします。

## システムの復元の有効化

空き容量が 200 MB 未満のハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されます。システムの復元が有効になっているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
- 2 **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
- 3 **システム** をクリックします。
- 4 **システムの復元** タブをクリックします。
- 5 **システムの復元を無効にする** のチェックマークが付いていないことを確認します。

## Dell PC Restore by Symantec の使い方



**注意：** Dell PC Restore では、ハードドライブ上のデータを完全に削除し、コンピュータ購入後にインストールしたアプリケーションをすべて削除します。PC リストアを使用する前にデータをバックアップしてください。システムの復元を実行しても OS の問題が解決しない場合にのみ、PC リストアを使用してください。



**メモ：** Dell PC Restore by Symantec は、一部の地域、一部のコンピュータでは利用できません。

Dell PC Restore by Symantec は、OS を復元する最後の手段としてのみ使用してください。

Dell PC Restore by Symantec は、ハードドライブをコンピュータ購入時の動作状態に戻します。コンピュータ購入後に追加したプログラムやファイルを始め、データファイルもハードドライブから完全に削除されます。データファイルには、コンピュータ上の文書、表計算、メールメッセージ、デジタル写真、ミュージックファイルなどが含まれます。PC リストアを使用する前にすべてのデータをバックアップしてください。

PC リストアは、以下の手順で実行します。

- 1 コンピュータの電源を入れます。  
起動プロセスの間、[www.dell.com/jp](http://www.dell.com/jp) と書かれた青色のバーが画面の上部に表示されます。
- 2 この青色のバーが表示されたら、すぐに <Ctrl><F11> を押します。  
<Ctrl><F11> を押すタイミングが遅れた場合は、コンピュータの起動完了を待ち、再起動します。



**注意：** Dell PC Restore を続行しない場合は、次の手順で **Reboot** (再起動) をクリックします。


- 3 次の画面で、**Restore** (復元) をクリックします。
- 4 次の画面で、**Confirm** (承認) をクリックします。  
復元プロセスが完了するまでに約 6 ~ 10 分かかります。
- 5 プロンプトが表示されたら、**Finish** (終了) をクリックしてコンピュータを再起動します。



**メモ：** コンピュータを手動でシャットダウンしないでください。**Finish** (終了) をクリックし、コンピュータを完全に再起動させます。



- 6 プロンプトが表示されたら、**Yes**（はい）をクリックします。  
コンピュータが再起動されます。コンピュータは初期の稼働状態に復元されるため、エンドユーザーライセンス契約のようにいちばん初めにコンピュータのスイッチを入れたときと同じ画面が表示されます。
- 7 **次へ** をクリックします。  
**システムの復元** 画面が表示されて、コンピュータが再起動します。
- 8 コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

### Dell PC Restore の削除

 **注意**：Dell PC Restore をハードドライブから削除すると、PC リストアユーティリティはお使いのコンピュータから永久に削除されます。Dell PC Restore を削除してしまうと、このユーティリティを使用してお使いのコンピュータの OS を復元することはできなくなります。

PC リストアを使用すると、ハードドライブをコンピュータをご購入になった時の状態に戻すことができます。ハードドライブの空き容量を増やしたい場合でも、PC リストアをコンピュータから削除することはお勧めできません。PC リストアをハードドライブから削除してしまうと取り消しが利かず、PC リストアを使用してコンピュータの OS を元の状態に戻すことはできなくなります。


PC リストアを削除するには次の手順を実行します。

- 1 コンピュータにローカルのシステム管理者としてログオンします。
- 2 Windows エクスプローラで **c:\dell\utilities\DSR** に移動します。
- 3 **DSRIRRemv2.exe** ファイルをダブルクリックします。  
 **メモ**：ローカルのシステム管理者としてログオンしていない場合は、ローカルのシステム管理者としてログオンするようメッセージが表示されます。終了をクリックして、ローカルのシステム管理者としてログオンします。  
 **メモ**：お使いのコンピュータのハードドライブに PC リストア用パーティションがない場合は、パーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示されます。終了をクリックしてください。削除するパーティションがありません。
- 4 **OK** をクリックして、ハードドライブの PC リストア用パーティションを削除します。
- 5 確認のメッセージが表示されたら、**はい** をクリックします。  
PC リストア用パーティションが削除され、新しくできた使用可能ディスクスペースが、ハードドライブの空き領域の割り当てに加えられます。
- 6 Windows エクスプローラで **ローカルディスク (C)** を右クリックし、**プロパティ** をクリックして、**空き領域** に追加されたスペースが加えられていることを確認します。
- 7 **終了** をクリックして **PC リストアの削除** ウィンドウを閉じます。
- 8 コンピュータを再起動します。

## 『再インストール用 CD』の使い方


### 作業を開始する前に

新しくインストールしたドライバの問題を解消するために Windows XP OS を再インストールする場合は、最初に Windows XP のデバイスドライバのロールバックを試してみます（57 ページの「Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方」を参照）。デバイスドライバのロールバックを実行しても問題が解決しない場合は、システムの復元を使って、新しいデバイスドライバがインストールされる前の動作状態に OS を戻します（59 ページの「Microsoft Windows XP システムの復元の使い方」を参照）。

 **注意：**この手順を実行する前に、お使いのプライマリハードドライブのすべてのデータファイルをバックアップします。通常のハードドライブ構成では、プライマリハードドライブはコンピュータによって1番目のドライブとして認識されます。


Windows XP を再インストールするには、以下のアイテムが必要です。

- Dell™ 『再インストール用 CD』
- Dell 『ResourceCD』

 **メモ：**『ResourceCD』には、コンピュータの製造工程でプリインストールされたドライバが収録されています。『ResourceCD』を使用して必要なドライバをロードします。コンピュータを発注した地域によって、または CD を購入品目に加えたかどうかによって、『Drivers and Utilities CD』と『再インストール用 CD』がシステムに同梱されていない場合があります。

### Windows XP の再インストール

再インストール処理を完了するには、1～2時間かかることがあります。OS を再インストールした後、デバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

 **注意：**『再インストール用 CD』には、Windows XP の再インストール用のオプションが収録されています。オプションはファイルを上書きして、ハードドライブにインストールされているプログラムに影響を与える可能性があります。このような理由から、デルのテクニカルサポート担当者の指示がない限り Windows XP を再インストールしないでください。

- 1 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
- 2 『再インストール用 CD』をセットします。Windows XP のインストールというメッセージが表示された場合は、**終了**をクリックします。
- 3 コンピュータを再起動します。
- 4 DELL™ ロゴが表示されたら、すぐに <F12> を押します。  
OS のロゴが表示された場合は、Windows のデスクトップが表示されるのを待って、コンピュータをシャットダウンしてもう一度やりなおします。
- 5 画面に表示される指示に従ってインストールを完了します。





# 部品の取り外しと取り付け

## 作業を開始する前に

本章では、お使いのコンピュータからコンポーネントを取り外したり、取り付けたりする手順について説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。


- 65 ページの「コンピュータの電源を切る方法」および 66 ページの「コンピュータ内部の作業を始める前に」の手順をすでに終えていること。
- Dell™ の『製品情報ガイド』の安全に関する情報をすでに読んでいること。
- 取り外しの手順を逆の順序で実行することで部品の取り付けができること。

## 推奨するツール

本書で説明する操作には、以下のツールが必要です。

- 細めのマイナスドライバ
- プラスドライバ
- フラッシュ BIOS アップデートプログラムのフロッピーディスクまたは CD


## コンピュータの電源を切る方法


 **注意：**データの損失を避けるため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。


- 1 次の手順で OS をシャットダウンします。
  - a 開いているすべてのプログラムやファイルを保存して終了します。**スタート** ボタンをクリックして、**終了オプション** をクリックします。
  - b **コンピュータの電源を切る** ウィンドウで、**電源を切る** をクリックします。  
OS のシャットダウンプロセスが終了した後に、コンピュータの電源が切れます。
- 2 コンピュータおよび接続されているデバイスの電源が切れていることを確認します。OS をシャットダウンしたときに、コンピュータおよび接続デバイスの電源が自動的に切れなかった場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し続けます。


## コンピュータ内部の作業を始める前に


コンピュータの損傷を防ぎ、ご自身の身体の安全を守るために、以下の点にご注意ください。

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。


 **警告：**部品やカードの取り扱いには十分注意してください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサチップのようなコンポーネントは、ピンの部分ではなく縁を持つようにしてください。

 **注意：**コンピュータの修理は、資格を持っているサービス技術者のみが行ってください。デルが認可していないサービスによる故障は、保証の対象になりません。

 **注意：**ケーブルを外すときは、コネクタまたはストレインリリーフループの部分を持ち、ケーブルそのものを引っ張らないでください。ケーブルによっては、ロックタブ付きのコネクタがあるケーブルもあります。このタイプのケーブルを取り外すときは、ロックタブを押し入れてからケーブルを抜きます。コネクタを抜く際は、コネクタのピンを曲げないようにまっすぐに引き抜きます。また、ケーブルを接続する前に、両方のコネクタが正しい向きに揃っているか確認します。

 **注意：**コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1 コンピュータの電源を切ります（65 ページの「コンピュータの電源を切る方法」を参照）。


 **注意：**ネットワークケーブル取り外すには、最初にコンピュータ側、続いてネットワークデバイス側の順に外してください。

2 電話回線や通信回線のケーブルをコンピュータから外します。

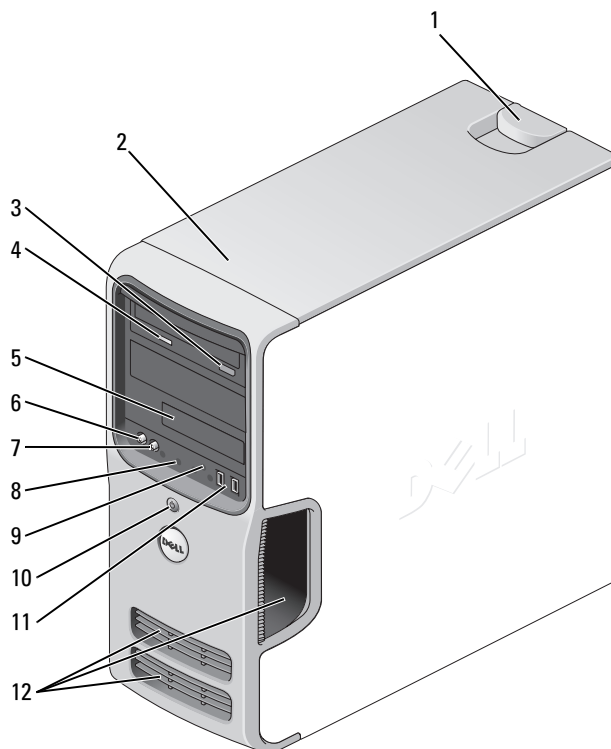
3 コンピュータと取り付けられているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を除去します。

 **警告：**感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

4 コンピュータカバーを取り外します（71 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。

 **注意：**コンピュータ内部に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を逃がしてください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷するおそれのある静電気を逃がしてください。

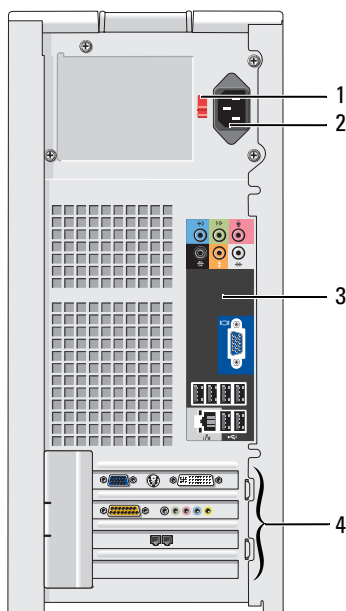
## コンピュータの正面図



1	カバーラッチリリース	このラッチは、カバーの取り外しに使用します。71 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照してください。
2	サービスタグの位置	サービスタグは、デルサポートウェブサイトにアクセスしたり、テクニカルサポートに問い合わせる際、コンピュータの識別に使用します。
3	CD または DVD 取り出しボタン	このボタンを押して、CD または DVD ドライブからディスクを取り出します。
4	CD/DVD アクティビティライト	ドライブライトは、コンピュータが CD または DVD ドライブからデータを読み取る際に点灯します。
5	FlexBay ドライブ	オプションのフロッピードライブまたはオプションのメディアカードリーダーを装着できます。メディアカードリーダーの使い方については、20 ページの「メディアカードリーダー（オプション）の使い方」を参照してください。

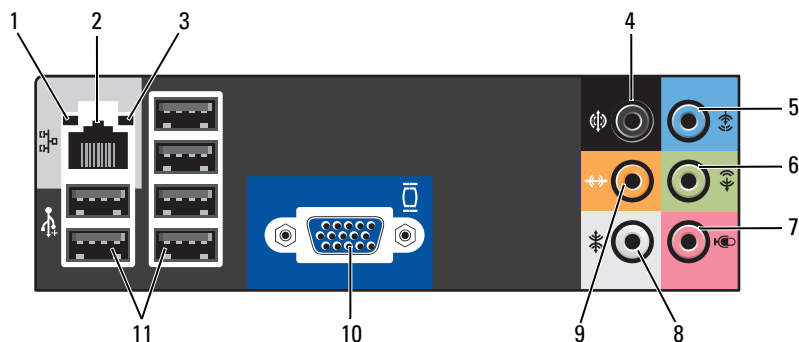
6	マイクコネクタ	マイクコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのマイクコネクタを使用します。
7	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンやほとんどの種類のスピーカーを接続できます。
8	診断ライト (4)	診断ライトは、診断コードを基にコンピュータの問題を解決するのに役立ちます。詳細については、51 ページの「診断ライト」を参照してください。
9	ハードドライブアクティビティライト	ハードドライブアクティビティライトは、コンピュータがハードドライブからデータを読み取るか、またはハードドライブにデータを書き込む際に点灯します。このライトは、CD プレーヤーなどのデバイスの動作中にも点灯することがあります。
10	電源ボタン 電源ライト	<p>電源ボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。このボタンの中央にあるライトは、電源の状態を示します。詳細については、117 ページの「ボタンとライト」を参照してください。</p> <p><b>➡ 注意：</b>データの損失を防ぐため、電源ボタンを使用してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押さずに、OS のシャットダウンを実行してください。</p>
11	USB 2.0 コネクタ (2)	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します (USB デバイスの起動についての詳細は、121 ページの「セットアップユーティリティのオプション」を参照してください)。プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面の USB コネクタを使用することをお勧めします。
12	通気孔	<p>適切に冷却するために、通気孔はいつでも塞がないようにしてください。</p> <p><b>➡ 注意：</b>通気孔はいつでも周囲の物体から必ず 5 cm 以上離してください。</p> <p><b>➡ 注意：</b>通気孔の部分は常にきれいにしておきほこりが付かないようにし、コンピュータの通気を確保してください。コンピュータが水によって損傷するのを避けるため、通気孔の部分をクリーニングする際は乾いた布だけを使用してください。</p>

## コンピュータの背面図



1 電圧切り替えスイッチ (装備されていないコンピュータもあります)	詳細については、『製品情報ガイド』に記載されている安全にお使いいただくための注意を参照してください。
2 電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
3 背面パネルコネクタ	USB、オーディオ、およびその他のデバイスのプラグを対応するコネクタに差し込みます。詳細については、70 ページの「背面パネルコネクタ」を参照してください。
4 カードスロット	インストール済みの PCI または PCI Express カードのコネクタに接続します。

## 背面パネルコネクタ



- |                    |   |
|--------------------|---|
| 1 リンク保全ライト         | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 緑色 — 10 Mbps のネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。</li> <li>• 橙色 — 100 Mbps のネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。</li> <li>• 消灯 — ネットワークとの物理的な接続が検知されていません。</li> </ul>   |
| 2 ネットワークアダプタコネクタ   | <p>コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに接続するには、ネットワークケーブルの一方の端をネットワークポートやブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端は、コンピュータの背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッという音がすれば、ネットワークケーブルはしっかり接続されています。</p> <p><b>メモ：</b> ネットワークコネクタにモデムケーブルを接続しないでください。ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのコネクタを使用します。ネットワークにはカテゴリ 5 の配線とコネクタを使用することをお勧めします。カテゴリ 3 の配線を使用する必要がある場合は、信頼性のある動作を保証するために、ネットワーク速度を 10 Mbps に設定してください。</p> |
| 3 ネットワークアクティビティライト | <p>黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している際に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。</p>   |
| 4 サラウンドコネクタ        | <p>黒のサラウンドコネクタを使用して、マルチチャンネル対応スピーカーを接続します。</p>  |
| 5 ライン入力コネクタ        | <p>青色のライン入力コネクタにカセットプレーヤー、CD プレーヤー、または VCR（ビデオカセットレコーダー）などの録音 / 再生デバイスを接続します。サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。</p>   |

6	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ（内蔵サウンドが搭載されたコンピュータで利用可能）を使用して、ヘッドホンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続できます。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	マイク	桃色のコネクタにパーソナルコンピュータ用マイクを接続し、音声や音楽をサウンドまたはテレフォニープログラムに入力します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのマイクコネクタを使用します。
8	サイドサラウンドコネクタ	7.1 ch スピーカーを備えたコンピュータの場合は、エンハンスドサラウンドオーディオを提供する銀色のコネクタを使用します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合は、カードのマイクコネクタを使用します。
9	センター/サブウーハーコネクタ	黄色のコネクタを使用して、スピーカーを LFE（低周波効果）オーディオチャンネルに接続します。
10	オプションの VGA ビデオコネクタ	お使いのモニターに VGA コネクタがある場合は、そのコネクタをコンピュータの VGA コネクタに差し込みます。
11	USB 2.0 コネクタ (6)	プリンタやキーボードなど、通常接続したままのデバイスには背面 USB コネクタを使用します。  ジョイスティックやカメラなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用することをお勧めします。

## コンピュータカバーの取り外し



**警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。



**警告：**感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。



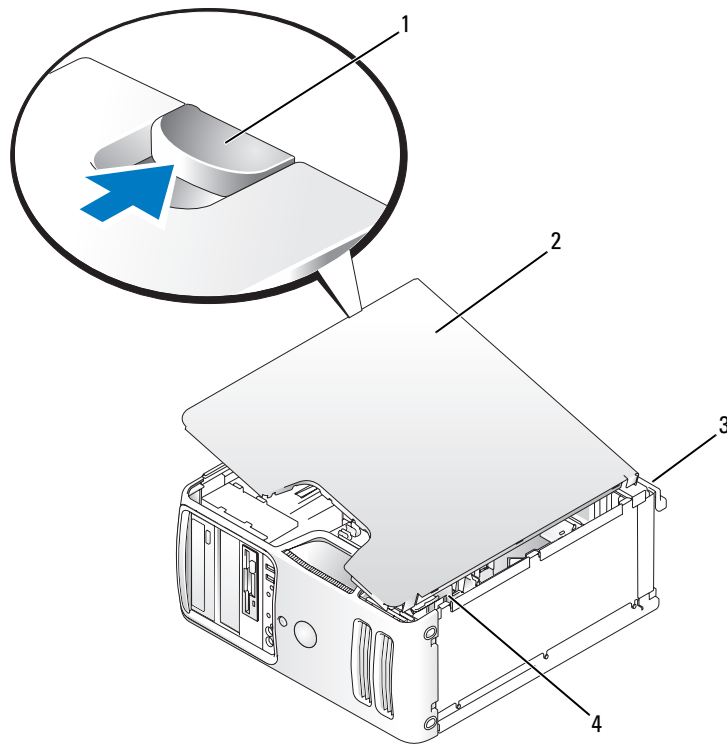
**注意：**カバーを開いて作業できるように、高さ 30 cm 以上の十分なスペースが作業台上にあることを確認してください。



**注意：**コンピュータまたはコンピュータが載っている表面を傷つけないように、保護された水平な表面で作業するようにしてください。

2 コンピュータカバーの面が上になるようにコンピュータを置きます。

3 上部のパネルにあるカバーラッチリリースを引っ張ります。




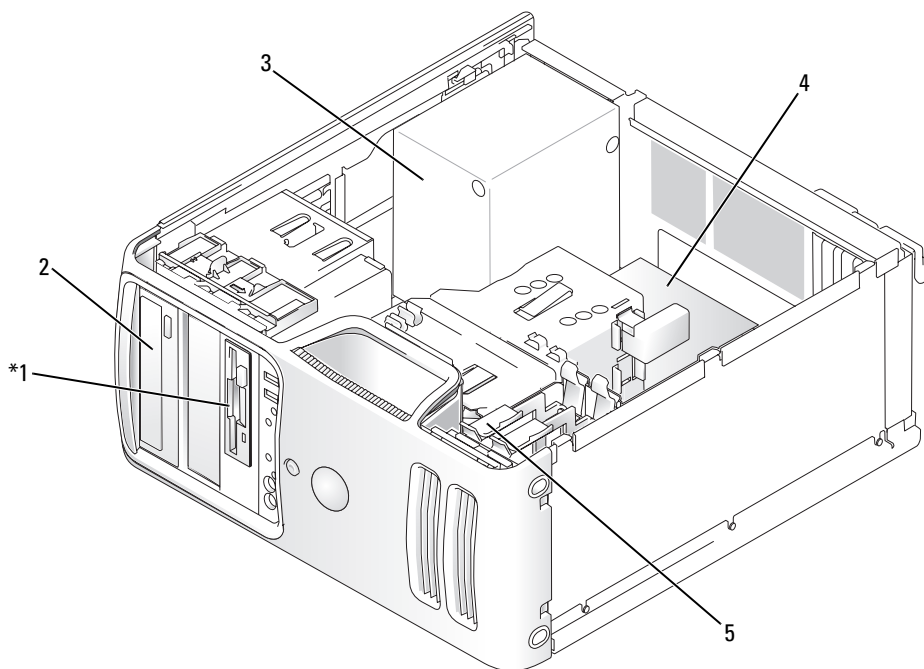
- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1 カバーラッチリリース | 2 コンピュータカバー |
| 3 コンピュータの背面  | 4 下部ヒンジ     |

- 4 コンピュータの下端にある3つのヒンジタブの位置を確認します。
- 5 コンピュータカバーの側面をつかみ、下部ヒンジをてこの支点にしてカバーを上回転させます。
- 6 ヒンジタブからカバーを外し、安全な場所に保管します。



## コンピュータの内面図

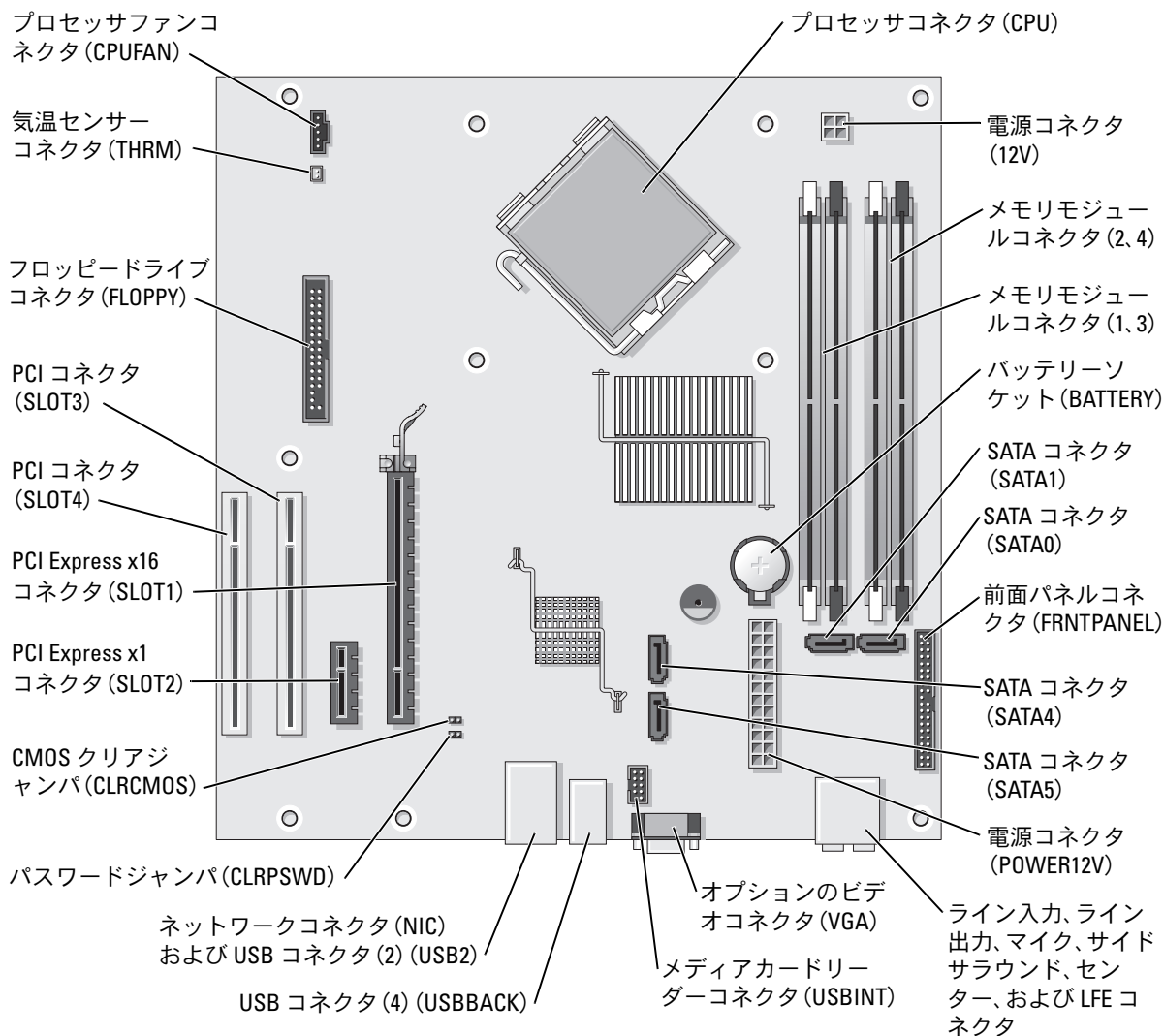
 警告：『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。



\*機種によってはない場合があります。

- |   |           |   |              |   |        |
|---|-----------|---|--------------|---|--------|
| 1 | フロッピードライブ | 2 | CDまたはDVDドライブ | 3 | 電源ユニット |
| 4 | システム基板    | 5 | ハードドライブ      |   |        |

# システム基板のコンポーネント



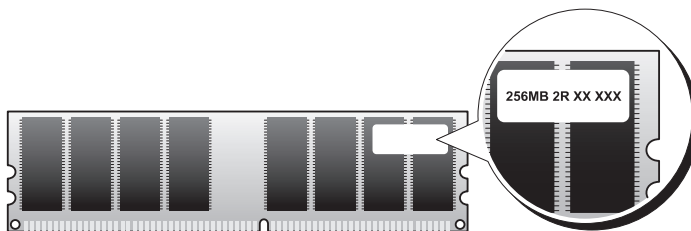
# メモリ

システム基板にメモリモジュールを取り付けることで、コンピュータメモリを増やすことができます。

コンピュータは、DDR2 メモリをサポートしています。お使いのコンピュータに対応するメモリのタイプについては、115 ページの「メモリ」を参照してください。

## DDR2 メモリの概要

DDR2 メモリモジュールは、必ず同じメモリサイズ、同じ速度、および同じテクノロジーのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。DDR2 メモリモジュールをペアで取り付けていない場合、コンピュータは動作し続けますが、性能が少し落ちます。モジュールのラベルを見て、モジュールの容量を確認してください。

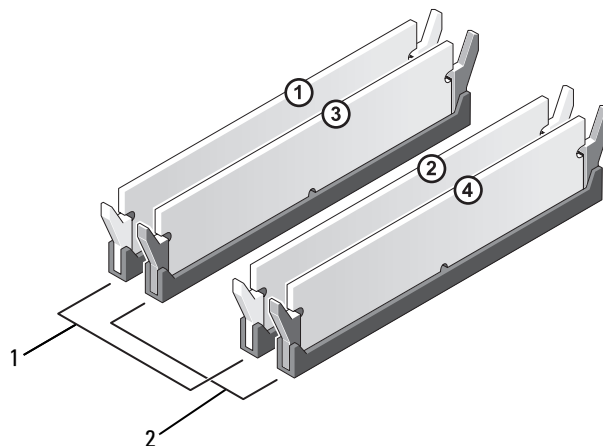


**メモ**：必ず、システム基板に示されている順番で DDR2 メモリモジュールを装着してください。  
推奨されるメモリ構成は次のとおりです。

- 同じメモリモジュールのペアを DIMM コネクタ 1 と 2 に装着  
または
- 同じメモリモジュールの 1 組のペアを DIMM コネクタ 1 と 2 に、もう 1 組のペアを DIMM コネクタ 3 と 4 に装着

**注意**：ECC またはバッファ付きのメモリモジュールは装着しないでください。バッファなしの非 ECC メモリのみがサポートされています。

- DDR2 533 MHz と DDR2 667 MHz のメモリのペアを組み合わせる場合は、装着したモジュールのうち、遅い方のスピードで動作します。
- 別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、プロセッサに最も近いコネクタの DIMM コネクタ 1 に単一のメモリモジュールを装着していることを確認してください。



- 1 チャンネル A。コネクタ DIMM\_1 および DIMM\_2 の同じメモリモジュールのペア (白色の固定クリップ)
- 2 チャンネル B。コネクタ DIMM\_3 および DIMM\_4 の同じメモリモジュールのペア (黒色の固定クリップ)

➡ **注意：**メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリモジュールを取り外した場合、新しいモジュールがデルから購入されたものであっても、お持ちの新しいモジュールとは別に保管してください。できれば、新しいメモリモジュールと元のメモリモジュールはペアにしないでください。ペアにすると、コンピュータが正常に起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、DIMM コネクタ 1 と 2、または DIMM コネクタ 3 と 4 のいずれかにペアで装着する必要があります。

🔪 **メモ：**デルからご購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証に含まれます。

#### 4 GB 構成でのメモリアドレッシング

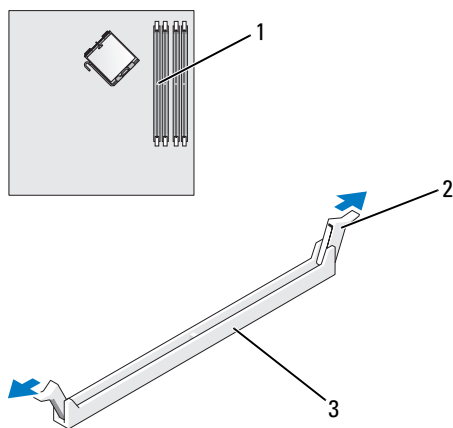
1 GB DIMM を 4 枚使用する場合は、最大の 4 GB のメモリまでサポートされます。Microsoft® Windows® XP など、最新の 32 ビット OS では、アドレス空間を最大で 4 GB まで使用できます。ただし、OS で利用可能なメモリ容量は 4 GB 未満です。コンピュータ内の一部の部品は、4 GB の範囲のアドレス空間を必要とします。このような部品に予約されるアドレススペースは、コンピュータメモリが使用することはできません。

## メモリの取り付け

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

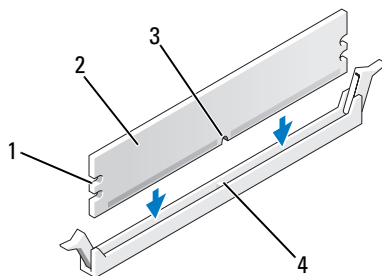
**➡ 注意：**コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。
- 3 メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。



- 1 プロセッサに最も近いメモリコネクタ      2 固定クリップ(2)      3 コネクタ

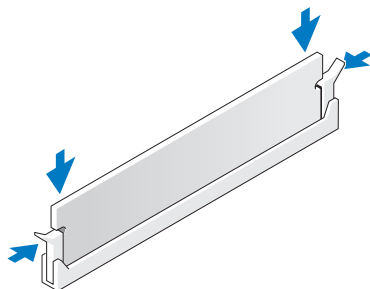
- 4 メモリモジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。



- 1 切り欠き(2)      2 メモリモジュール  
3 切り込み      4 クロスバー

**➡ 注意：**メモリモジュールの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力を加えて、モジュールをコネクタに向けてまっすぐ下へ挿入します。

- メモリモジュールをカチッと所定の位置に収まるまで、しっかりと押し込みます。  
モジュールを正しく挿入すると、固定クリップはモジュール両端の切り欠きにカチッと収まります。



- コンピュータカバーを取り付けます。
- 注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。
- マイコンピュータ** アイコンを右クリックし、**プロパティ** をクリックします。
- 全般** タブをクリックします。
- 表示されているメモリ（RAM）の容量を確認して、メモリが正しく装着されているか確認します。

## メモリの取り外し

- 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。
- 注意：**コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。
- 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
  - メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。
  - モジュールをしっかりとつかんで、引き上げます。  
モジュールが取り外しにくい場合は、モジュールを前後に軽く動かして緩め、コネクタから取り外します。

## カード

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

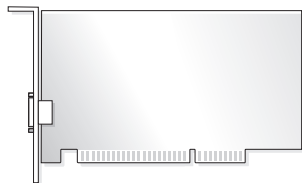
**➡ 注意：**コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

お使いの Dell™ コンピュータには、PCI カードおよび PCI Express カード用に以下のスロットが用意されています。

- PCI カードスロット 2 個
- PCI Express x16 カードスロット 1 個
- PCI Express x1 カードスロット 1 個

### PCI カード

お使いのコンピュータには PCI カードを 2 枚取り付けることができます。



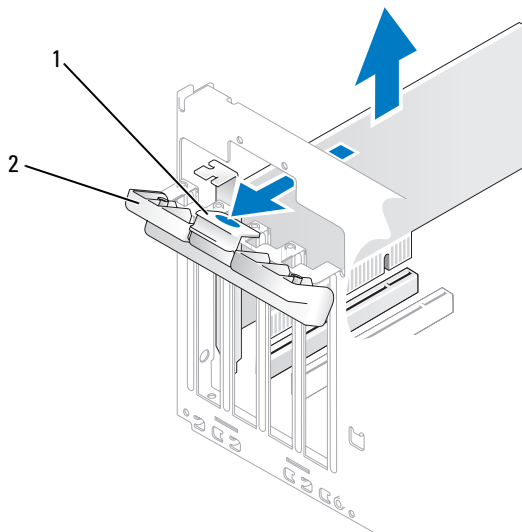
カードの取り付けや交換を行う場合には、次項の手順に従います。PCI カードを取り外して、取り外したままにする場合は、83 ページの「PCI カードの取り外し」を参照してください。

カードを交換する場合は、現在のカード用のドライバを OS から削除します。

PCI Express カードの取り付けや交換を行う場合は、84 ページの「PCI Express カードの取り付け」を参照してください。

## PCI カードの取り付け

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。



1 リリースタブ      2 カード固定ドア

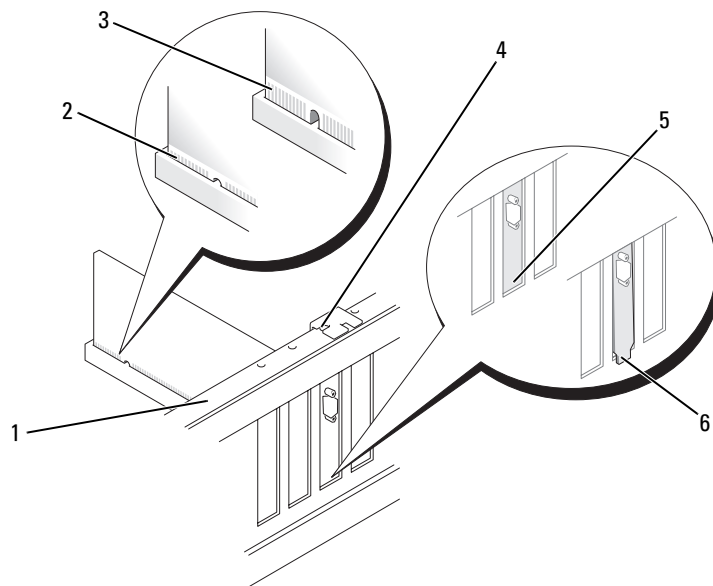
- 2 カード固定ドアのリリースタブを内側から慎重に押し、ドアを回転させて開きます。ドアは繋留しているため、開いたままの状態になります。
- 3 新しいカードを取り付ける場合は、フィラーブラケットを取り外して、カードスロット開口部を作ります。次に手順 5 に進みます。
- 4 既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合は、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。カードの上端の角を持って、コネクタから取り外します。
- 5 カードを取り付ける準備をします。  
カードの構成、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。



**警告：ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電を防ぐため、カードを取り付ける前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いておいてください。**

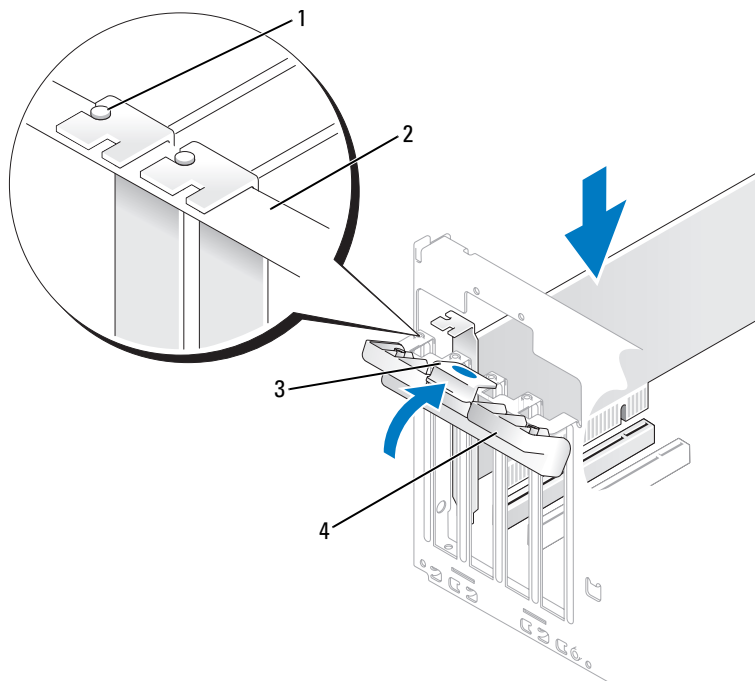
- 6 カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されていることを確認します。





- |            |               |                      |
|------------|---------------|----------------------|
| 1 位置合わせバー  | 2 完全に装着されたカード | 3 完全に装着されていないカード     |
| 4 位置合わせガイド | 5 スロット内のブラケット | 6 スロットの外側にはみ出したブラケット |

- 7 カード固定ドアを閉める前に、次のことを確認してください。
- すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
  - カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている



- |            |           |
|------------|-----------|
| 1 位置合わせガイド | 2 位置合わせバー |
| 3 リリースタブ   | 4 カード固定ドア |

8 カード固定ドアを所定の位置にカチッと閉め、カードを固定します。

➡ **注意：**カードケーブルは、カードの上や後ろ側に配線しないでください。ケーブルをカードの上に配線すると、コンピュータカバーがきちんと閉まらなかったり、装置が損傷する原因になります。

9 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

➡ **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

10 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。

- 11 サウンドカードを取り付けた場合は、次の手順を実行します。
  - a セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、**Audio Controller**（オーディオコントローラ）を選択して、設定を **Off**（オフ）に変更します。
  - b 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
- 12 アドインネットワークアダプタをインストールしていて、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。
  - a セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、**Integrated NIC**（オンボード NIC）を選択して、設定を **Off**（オフ）に変更します。
  - b ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
- 13 カードのマニュアルの説明に従って、カードに必要なすべてのドライバをインストールします。

## PCI カードの取り外し

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 カード固定ドアのリリースタブを内側から慎重に押し、ドアを回転させて開きます。ドアは繋留しているため、開いたままの状態になります。
- 3 カードを取り外したままにする場合は、空のカードスロット開口部にフィルラブラケットを取り付けます。



**メモ：**コンピュータの FCC 認証を満たすには、フィルラブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィルラブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

- 4 カード固定ドアを所定の位置にカチッと閉め、カードを固定します。



**注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- 5 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
- 6 カードのドライバを OS から削除します。
- 7 サウンドカードを取り外した場合は、次の手順を実行します。
  - a セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、**Audio Controller**（オーディオコントローラ）を選択して、設定を **On**（オン）に変更します。
  - b 外付けオーディオデバイスをコンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

- 8 アドインネットワークコネクタを取り外した場合は、次の手順を実行します。
  - a セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、**Integrated NIC**（オンボード NIC）を選択して、設定を **On**（オン）に変更します。
  - b ネットワークケーブルをコンピュータ背面パネルの内蔵コネクタに接続します。

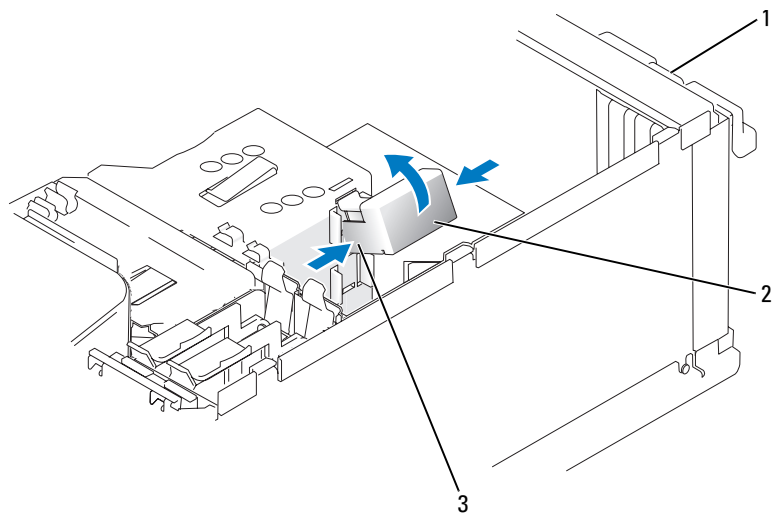
## PCI Express カード

お使いのコンピュータには、PCI Express x16 カード 1 枚および PCI Express x1 カード 1 枚を取り付けることができます。PCI Express カードの取り付けや交換を行う場合には、次の項の手順に従います。カードの交換ではなく取り外しを行う場合は、88 ページの「PCI Express カードの取り外し」を参照してください。PCI カードの取り付けや交換を行う場合は、80 ページの「PCI カードの取り付け」を参照してください。

カードを交換する場合は、現在のカード用のドライバを OS から削除します。

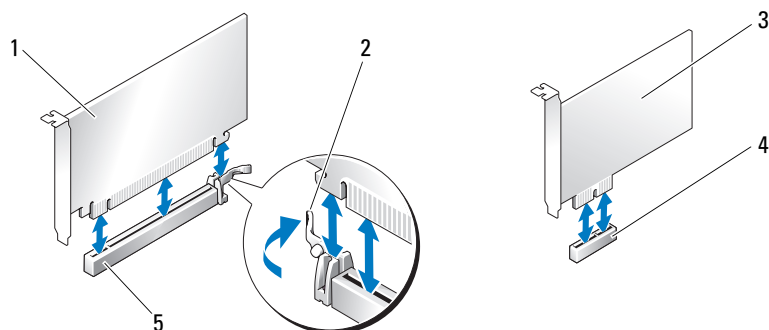
### PCI Express カードの取り付け

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。



- 1 カード固定ドア      2 カード固定装置      3 リリースタブ (2)

- 2 カード固定ドアのリリースタブを内側から慎重に押し、ドアを回転させて開きます。ドアは繋留しているため、開いたままの状態になります（カード固定ドアの図は、80 ページの「PCI カードの取り付け」を参照してください）。
- 3 コンピュータにカード固定装置が付いている場合、x16 カードを上部から所定の位置に固定するには、次の手順を実行します。
  - a 固定装置を上方向に回して端を軽く押し込み、固定装置を所定の位置に固定している 2 つのタブスロットから外します。
  - b 固定装置を安全な場所に置いておきます。
- 4 新しいカードを取り付ける場合は、フィラーブラケットを取り外して、カードスロット開口部を作ります。次に手順 5 に進みます。
- 5 既にコンピュータに取り付けられているカードを交換する場合は、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。カードに固定装置が備えられている場合は、タブを押し固定装置の上部を取り外し、上部をつかんで引き上げます。固定タブを軽く引っ張り、カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。



- |                          |                           |                      |
|--------------------------|---------------------------|----------------------|
| 1 PCI Express x16 カード    | 2 固定タブ                    | 3 PCI Express x1 カード |
| 4 PCI Express x1 カードスロット | 5 PCI Express x16 カードスロット |                      |

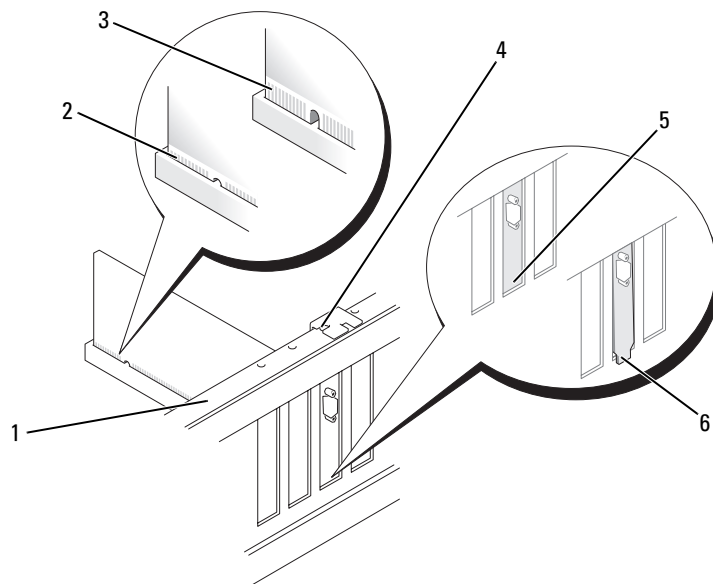
- 6 取り付けるカードを準備します。

カードの構成、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。



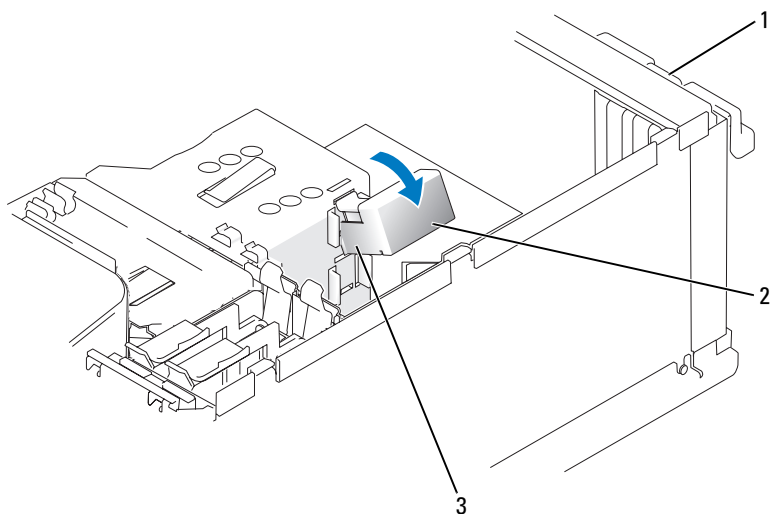
**警告：**ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電を防ぐため、カードを取り付ける前に必ず、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

- 7 x16 カードコネクタにカードを取り付ける場合は、固定スロットが固定タブに合うようにしてカードを置き、固定タブを軽く引っ張ります。
- 8 カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードが完全に装着されていることを確認します。



- |            |               |                      |
|------------|---------------|----------------------|
| 1 位置合わせバー  | 2 完全に装着されたカード | 3 完全に装着されていないカード     |
| 4 位置合わせガイド | 5 スロット内のブラケット | 6 スロットの外側にはみ出したブラケット |

- 9 コンピュータに取り付けられていた元のカードを取り付ける場合で、固定装置を取り外していた場合は、固定装置を再び取り付けることができます。
- 10 カード固定装置を取り付ける前に、次のことを確認します。
  - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さ揃っている
  - カードの上部の切り込みまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている
- 11 カード固定装置を所定の位置にカチッとはめ込んで、x16 PCI カードを固定します。



1 カード固定ドア      2 カード固定装置      3 リリースタブ(2)

- ➡ **注意：**カードケーブルは、カードの上や後ろ側に配線しないでください。ケーブルをカードの上に配線すると、コンピュータカバーがきちんと閉まらなかったり、装置が損傷する原因になります。
- ➡ **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 12 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
- 13 サウンドカードを取り付けた場合は、次の手順を実行します。
  - a セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、**Audio Controller**（オーディオコントローラ）を選択して、設定を **Off**（オフ）に変更します。
  - b 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー/ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
- 14 アドインネットワークアダプタをインストールしていて、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。
  - a セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、**Integrated NIC**（オンボード NIC）を選択して、設定を **Off**（オフ）に変更します。
  - b ネットワークケーブルをアドインネットワークアダプタのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵コネクタに接続しないでください。
- 15 カードのマニュアルの説明に従って、カードに必要なすべてのドライバをインストールします。

## PCI Express カードの取り外し

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 カード固定ドアのリリースタブを内側から慎重に押し、ドアを回転させて開きます。ドアは繋留しているため、開いたままの状態になります（カード固定ドアの図は、80 ページの「PCI カードの取り付け」を参照してください）。
- 3 コンピュータにカード固定装置が付いている場合、x16 カードを上部から所定の位置に固定するには、次の手順を実行します。
  - a 固定装置を上方向に回して端を軽く押し込み、固定装置を所定の位置に固定している 2 つのタブスロットから外します。
  - b 固定装置を安全な場所に置いておきます。
- 4 カードを取り外したままにする場合は、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。



**メモ：**コンピュータの FCC 認証を満たすには、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。また、フィラーブラケットを装着すると、コンピュータをほこりやゴミから保護できます。

- 5 カード固定装置をタブに装着しなおして、下方向に回して所定の位置にカチットはめ込みます。
- 6 カード固定ドアを所定の位置にカチットはめ込んで閉じ、カードを固定します。



**注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- 7 コンピュータカバーを取り付け、コンピュータとデバイスをコンセントに接続し、電源を入れます。
- 8 カードのドライバを OS から削除します。
- 9 サウンドカードを取り外した場合は、次の手順を実行します。
  - a セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、**Audio Controller**（オーディオコントローラ）を選択して、設定を **On**（オン）に変更します。
  - b 外付けオーディオデバイスをコンピュータの背面パネルのオーディオコネクタに接続します。
- 10 アドインネットワークコネクタを取り外した場合は、次の手順を実行します。
  - a セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、**Integrated NIC**（オンボード NIC）を選択して、設定を **On**（オン）に変更します。
  - b ネットワークケーブルをコンピュータ背面パネルの内蔵コネクタに接続します。
- 11 カードのマニュアルの説明に従って、カードに必要なすべてのドライバをインストールします。



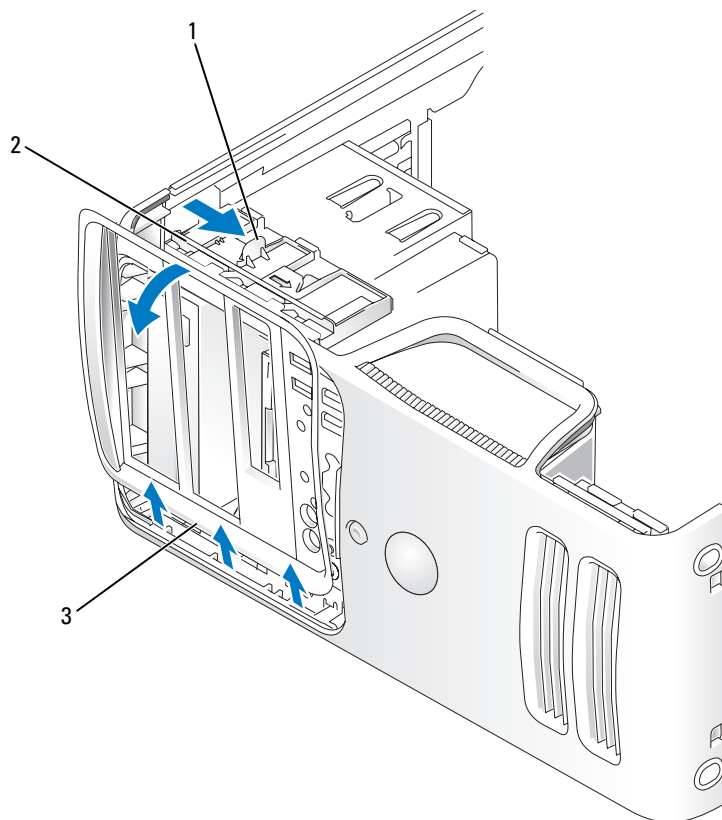
## ドライブパネル

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

**⚠ 警告：**感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

### ドライブパネルの取り外し

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。



1 スライドプレートレバー

2 スライドプレート

3 ドライブパネル

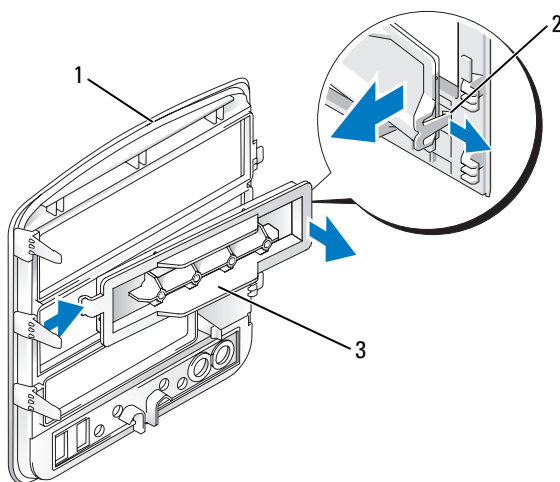
2 スライドプレートの上レバーを持ち、カチッと所定の位置に開くまで、スライドプレートを右方向に引きます。

**メモ：**このスライドプレートでドライブパネルを留めたり外したりしてドライブを固定します。

3 ドライブパネルを内側から押し出して左方向に回し、ドライブパネルをサイドヒンジから外します。

4 ドライブパネルを安全な場所に置いておきます。

## ドライブベイカバーの取り外し



1 ドライブパネル

2 ドライブベイカバータブ

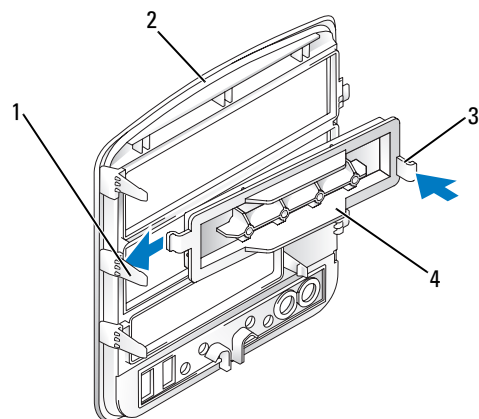
3 ドライブベイカバー

1 ドライブベイカバータブをドライブベイカバーの中心方向に押し、カバーをドライブパネルから外します。

2 タブを外さずに、ドライブベイカバーを回してドライブパネルから外します。

3 ドライブベイカバーを安全な場所に置いておきます。

## ドライブベイカバーの取り付け

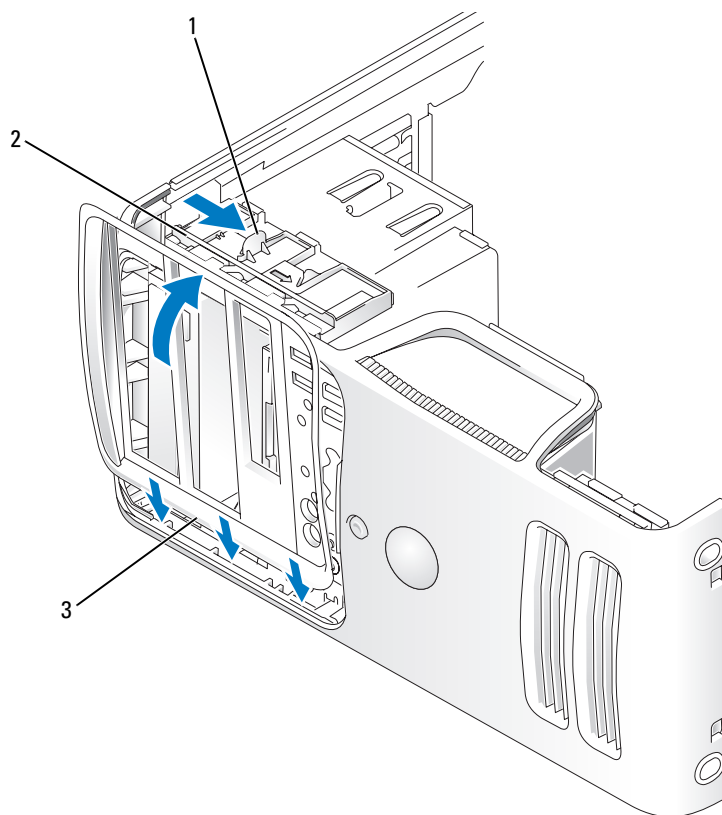


- |   |               |   |           |
|---|---------------|---|-----------|
| 1 | ドライブパネルセンタータブ | 2 | ドライブパネル   |
| 3 | ドライブベイカバータブ   | 4 | ドライブベイカバー |

- 1 ドライブベイカバーの左側のタブを、ドライブパネルセンタータブの下にスライドします。
- 2 ドライブベイカバーを所定の位置まで動かし、ドライブベイカバータブをドライブパネルの対応するタブにカチッとはめ込みます。

## ドライブパネルの取り付け

1 65ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。



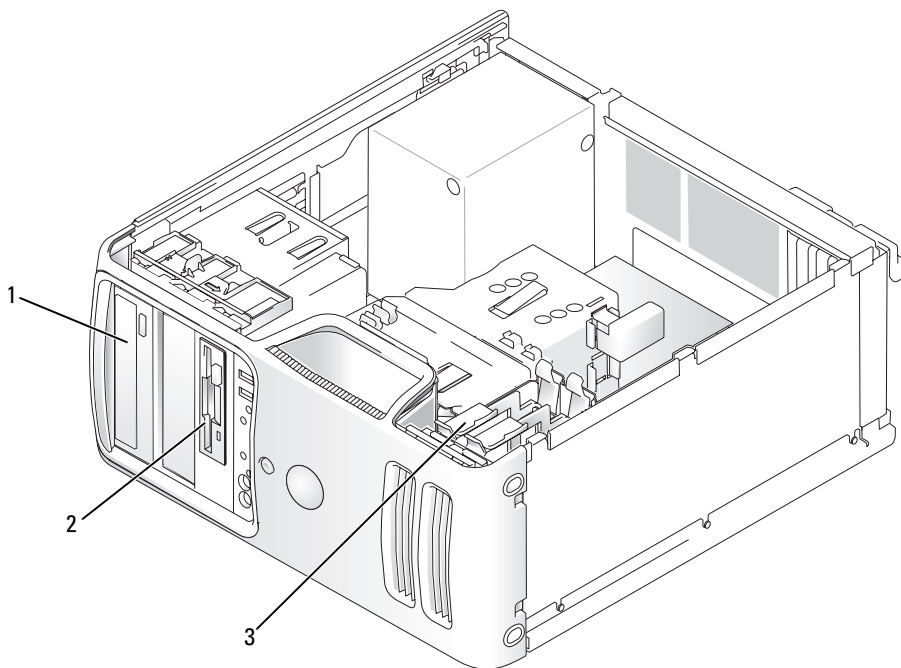
1 スライドプレートレバー    2 スライドプレート    3 ドライブパネル

- 2 ドライブパネルタブを側面ドアヒンジに合わせます。
- 3 ドライブパネルをコンピュータの方向に倒して、前面パネルの所定の位置にカチッと固定します。

## ドライブ

このコンピュータでは、次のデバイスの組み合わせをサポートしています。

- シリアル ATA ハードドライブを 2 台まで
- オプションのフロッピードライブまたはオプションのメディアカードリーダーを 1 台
- CD または DVD ドライブを 2 台まで



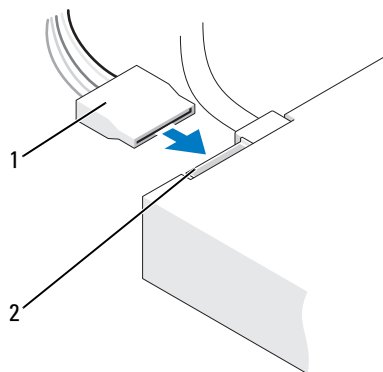
- 1 CD/DVD ドライブ      2 オプションのフロッピードライブまたはメディアカードリーダーを装着する FlexBay      3 ハードドライブ

シリアル ATA CD または DVD ドライブは、システム基板上の「SATA3」または「SATA4」とラベル表示されているコネクタに接続します。シリアル ATA ハードドライブは、システム基板上の「SATA0」または「SATA2」とラベル表示されているコネクタに接続します。

## ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合は、2本のケーブル（DC電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面に接続します。

### 電源コネクタ



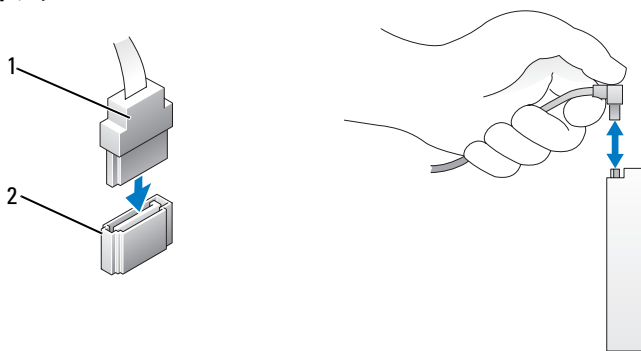
1 電源ケーブル

2 電源入力コネクタ

## ドライブインタフェースコネクタ

ほとんどのインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタに切り込みや欠けたピンがあり、もう一方のコネクタにあるつめや塞がれたピン穴と一致するようになっています。そのため、ケーブルの1番ピンワイヤが、コネクタの1番ピンの端と合致します。基板またはカード上にあるコネクタの1番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

### シリアル ATA コネクタ



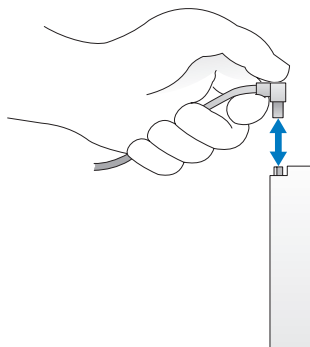
1 インタフェースケーブル

2 インタフェースコネクタ

## ドライブケーブルの接続と取り外し

シリアル ATA データケーブルを接続または取り外す場合は、プルタブを使用してケーブルを外します。

シリアル ATA インタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタに切り込みや欠けたピンがあり、もう一方のコネクタにあるつめや塞がれたピン穴と一致するようになっています。



## ハードドライブ

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

**⚠ 警告：**感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

**➡ 注意：**ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

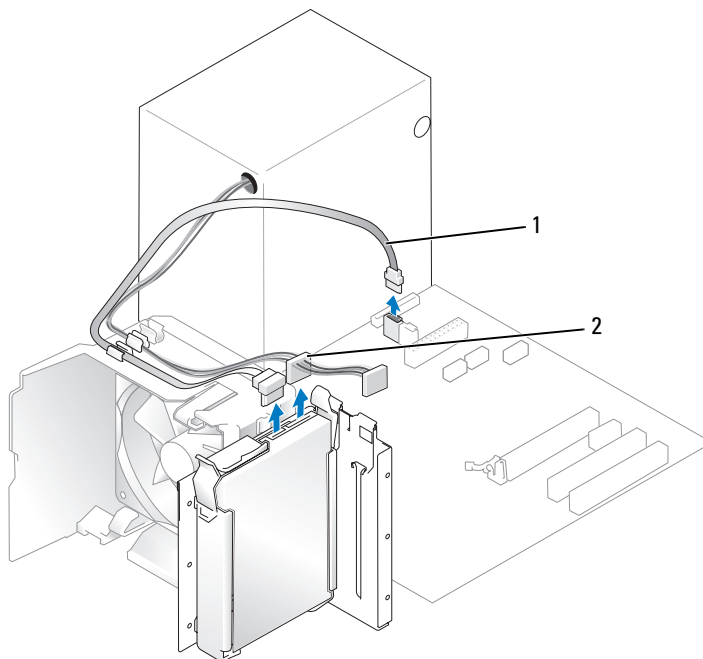
**➡ 注意：**残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合は、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

ドライブのマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っていることを確認します。

## ハードドライブの取り外し

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 電源ケーブルとデータケーブルをドライブから外します。

**➡ 注意：**プルタブを使用して、ハードドライブまたはシステム基板からデータケーブルを外します。

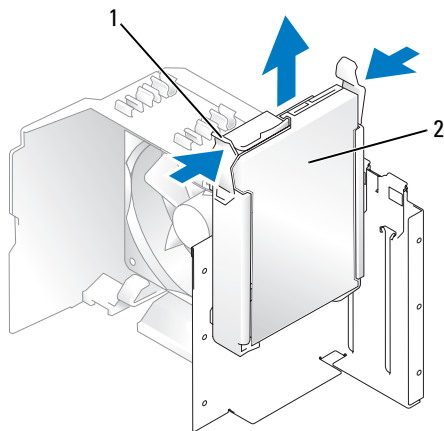


1 シリアル ATA データケーブル

2 電源ケーブル

- 3 ドライブの側面にある青色のタブを内側に押しながら、ドライブを上方向にスライドさせてコンピュータから取り外します。



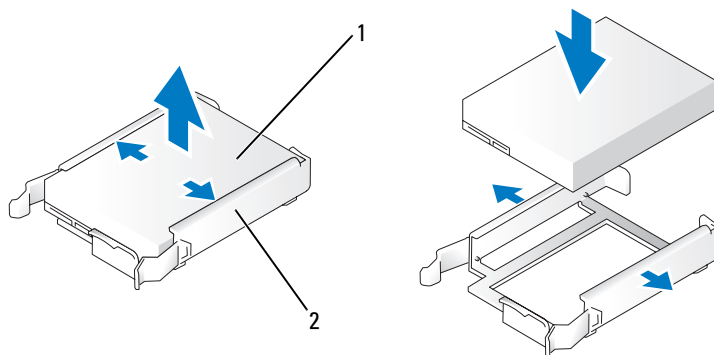


1 タブ(2)      2 ハードドライブ

## ハードドライブの取り付け

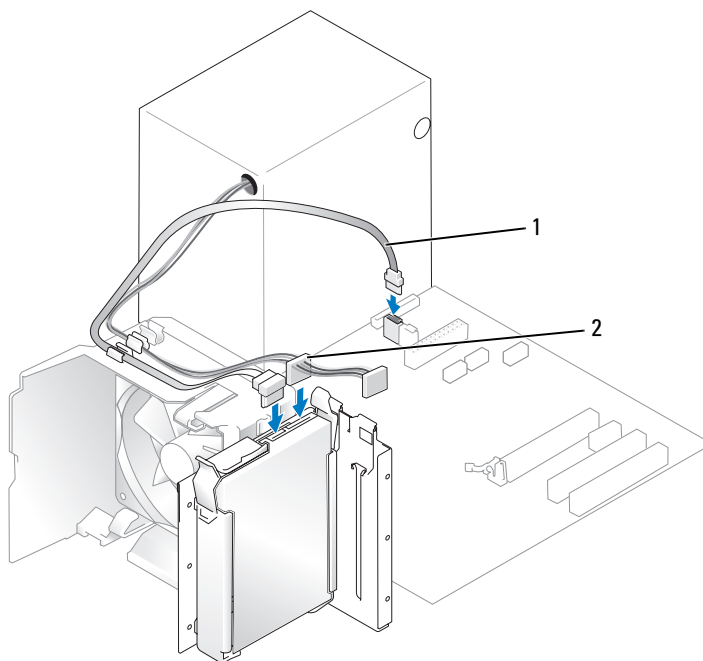
- 1 交換用のハードドライブを梱包から取り出して、取り付けの準備をします。
- 2 ドライブのマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っていることを確認します。

**メモ**：交換用ハードドライブにハードドライブブラケットが付いていない場合は、これまで使用していたドライブからブラケットを取り外します。そのブラケットを新しいドライブにカチッとはめ込みます。



1 ドライブ      2 ハードドライブブラケット

- 3 ドライブを所定の位置に、カチッと音がするまで、または固定されたとわかるまで、ゆっくり押し込みます。
- 4 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。



1 シリアル ATA データケーブル      2 電源ケーブル

- 5 すべてのコネクタにケーブルが正しく接続され、ドライブがしっかりと固定されていることを確認します。
- 6 コンピュータカバーを取り付けます（114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- ➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 7 コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。  
ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

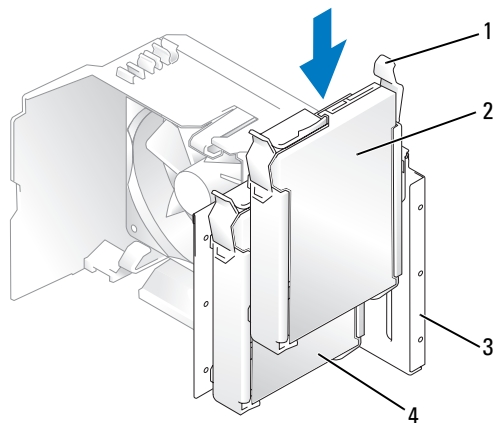
## セカンドハードドライブの追加

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。


**⚠ 警告：**感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

**➡ 注意：**ドライブへの損傷を防ぐため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

- 1 ドライブのマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っていることを確認します。
- 2 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 3 ハードドライブブラケットの側面にある青色のタブを内側に押しながら、ハードドライブブラケットを上方向にスライドさせてコンピュータから取り外します。
- 4 ブラケットをハードドライブにカチッとはめ込みます。
- 5 新しいドライブ（セカンドハードドライブ）を所定の位置に、カチッと音がするまで、または固定されたとわかるまで、ゆっくり押し込みます。



- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| 1 リリースタブ(2) | 2 下段のベイにセカンドハードドライブ  |
| 3 ハードドライブベイ | 4 上段のベイにプライマリハードドライブ |

- 6 電源ケーブルとハードドライブケーブルをドライブに接続します。
  - 7 データケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します（74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。
  - 8 すべてのコネクタにケーブルが正しく接続され、ドライブがしっかりと固定されていることを確認します。
  - 9 コンピュータカバーを取り付けます（114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
-  **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 10 コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。  
ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

## フロッピードライブ



**警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。



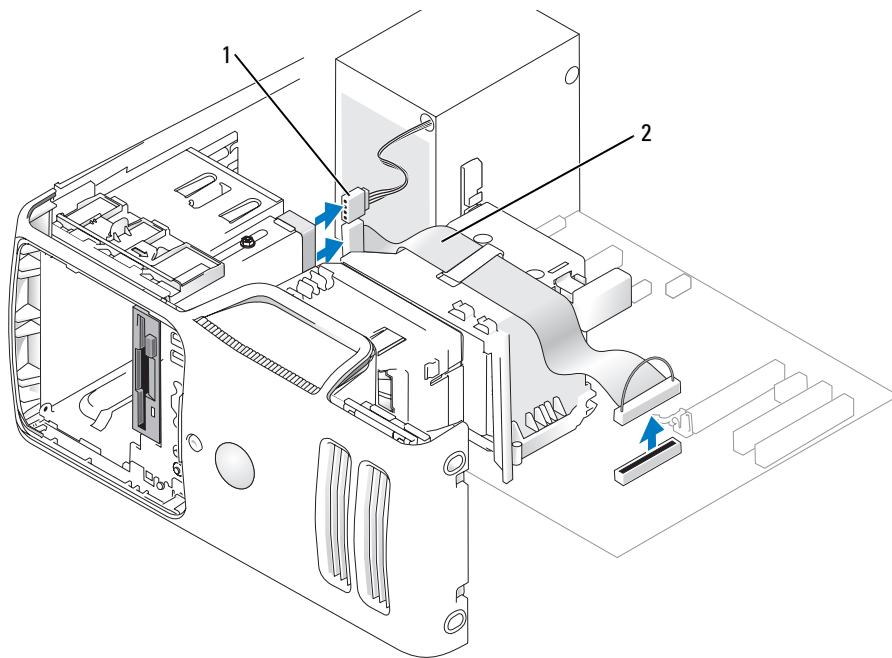
**警告：**感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。



**メモ：**フロッピードライブを追加する場合は、103 ページの「フロッピードライブの取り付け」を参照してください。


### フロッピードライブの取り外し

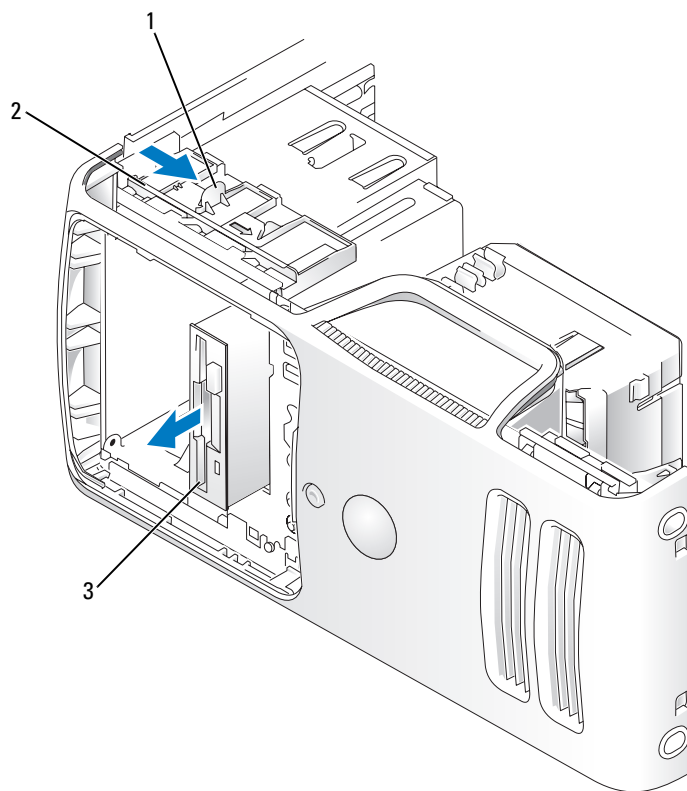
- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 ドライブパネルを取り外します（89 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照）。



1 電源ケーブル      2 データケーブル

3 電源ケーブルとデータケーブルをフロッピードライブの背面から外します。

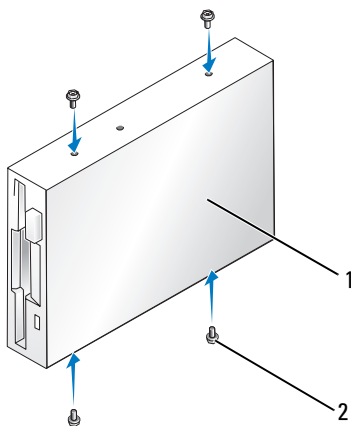
-  **メモ**：PCI Express x16 カードを取り付けた場合は、フロッピードライブコネクタがこのカードで隠れることがあります。フロッピードライブケーブルを接続する前にこのカードを取り外してください。
- 4 ドライブラッチリリースをコンピュータの下部に向かってスライドさせ、ドライブラッチリリースから親指を放さずに、フロッピードライブをコンピュータの前面から引き出します。



1 ドライブラッチリリース    2 スライドプレート    3 フロッピードライブ

## フロッピードライブの取り付け

**メモ：**交換品または新しいフロッピードライブに肩付きネジがない場合は、ドライブベイカバー内にネジがないか確認します。または、取り外したドライブに取り付けられていたネジがあれば、それを再利用します。

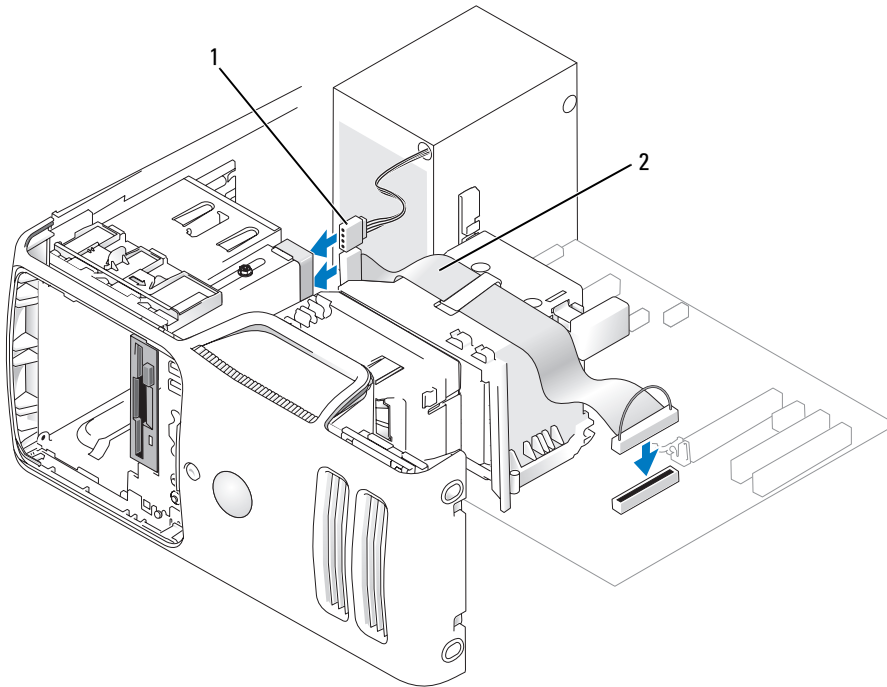


1 ドライブ      2 ネジ(4)

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 ドライブパネルを取り外します (89 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照)。
- 3 ドライブを所定の位置に、カチッと音がするまで、または固定されたとわかるまで、ゆっくり押し込みます。

**メモ：**ドライブを交換するのではなく新しいフロッピードライブを取り付ける場合は、ドライブを取り付ける場所のドライブベイカバーを取り外し、ドライブベイカバーの背面にある肩付きネジをドライブに挿入し、ドライブを所定の位置に押し込みます。

- 4 電源ケーブルとデータケーブルをフロッピードライブに接続します。
- 5 データケーブルのもう一方の端をシステム基板上の「DSKT2」とラベル表示されているコネクタに接続し (74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照)、ケーブルをエアフローカバーのクリップに通して配線します。



1 電源ケーブル      2 データケーブル

- 6 ドライブを交換するのではなく、新しいフロッピードライブを取り付ける場合には、適切なドライブベイカバーを取り外します（90 ページの「ドライブベイカバーの取り外し」を参照）。
- 7 すべてのケーブル接続を確認します。ファンや冷却孔など空気の循環の妨げにならないようにケーブルをまとめておきます。
- 8 ドライブパネルを取り付けます（92 ページの「ドライブパネルの取り付け」を参照）。
- 9 コンピュータカバーを取り付けます（114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- ➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 10 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。  
ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。
- 11 セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、該当する **Diskette Drive**（ディスクットドライブ）オプションを選択します。
- 12 Dell Diagnostics を実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します（54 ページの「Dell Diagnostics」を参照）。



## メディアカードリーダー

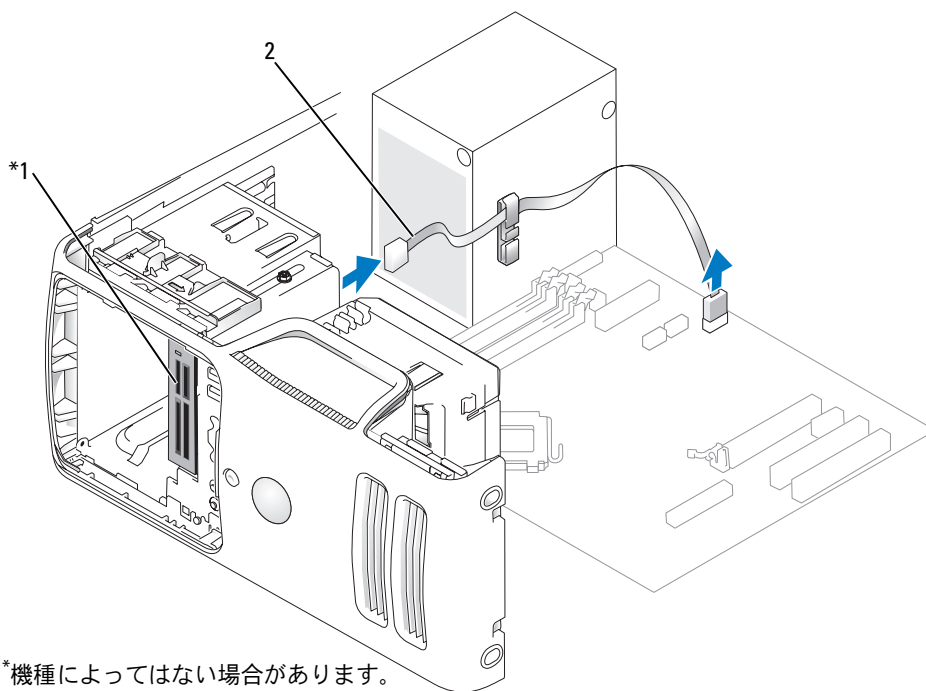
メディアカードリーダーの使い方については、20 ページの「メディアカードリーダー（オプション）の使い方」を参照してください。

### メディアカードリーダーの取り外し

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

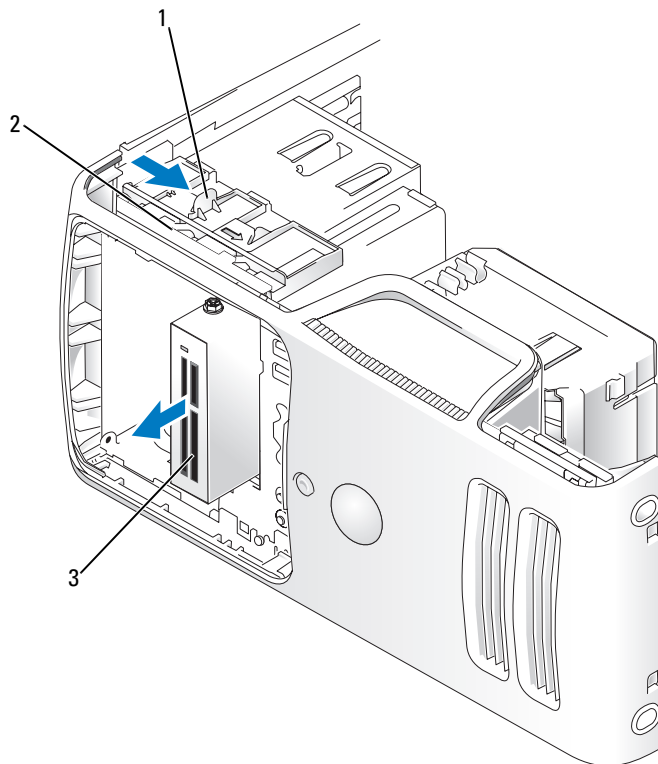
**➡ 注意：**コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 ドライブパネルを取り外します（89 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照）。



- 1 メディアカードリーダー      2 ケーブル

- 3 FlexBay USB ケーブルをメディアカードリーダーの背面とシステム基板上のメディアカードリーダーコネクタから外し（74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）、ケーブルルーティングクリップを通して配線します。



1 ドライブラッチリリース      2 スライドプレート      3 メディアカードリーダー

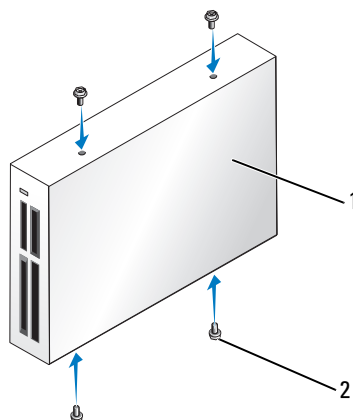
- 4 ドライブラッチリリースをコンピュータの下部に向かってスライドさせ、ドライブラッチリリースから親指を放さずに、メディアカードリーダーをコンピュータの前面から引き出します。
- 5 ドライブパネルを取り付けます（92 ページの「ドライブパネルの取り付け」を参照）。
- 6 コンピュータカバーを取り付けます（114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。

## メディアカードリーダーの取り付け

**警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

**注意：**コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。

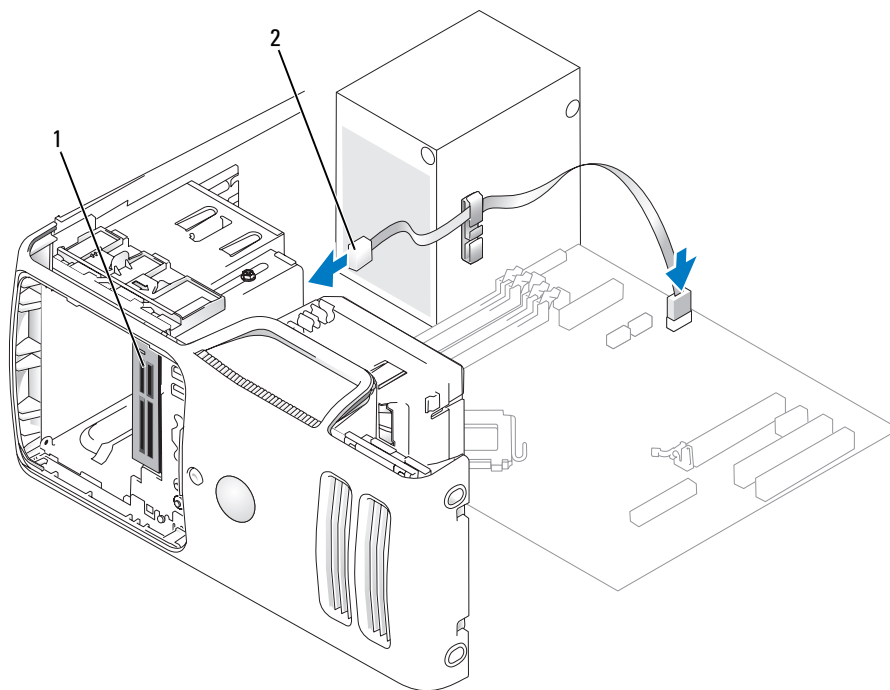


1 メディアカードリーダー      2 ネジ(4)

- 2 ドライブパネルを取り外します（89 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照）。
- 3 メディアカードリーダーとブラケットを梱包から取り出し、ネジがすべて付属していることを確認します。
- 4 メディアカードリーダーを所定の位置に、カチッと音がするまで、または固定されたとわかるまで、ゆっくり押し込みます。

FlexBay ケーブルを接続する前に、メディアカードリーダーが取り付けられていることを確認します。

- 5 FlexBay の USB ケーブルを、メディアカードリーダーの背面と、システム基板のメディアカードリーダーコネクタに接続します（74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。



1 メディアカードリーダー      2 FlexBay USB ケーブル

- 6 ケーブルルーティングクリップを通して FlexBay USB ケーブルを配線します。
- 7 コンピュータカバーを取り付けます（114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。

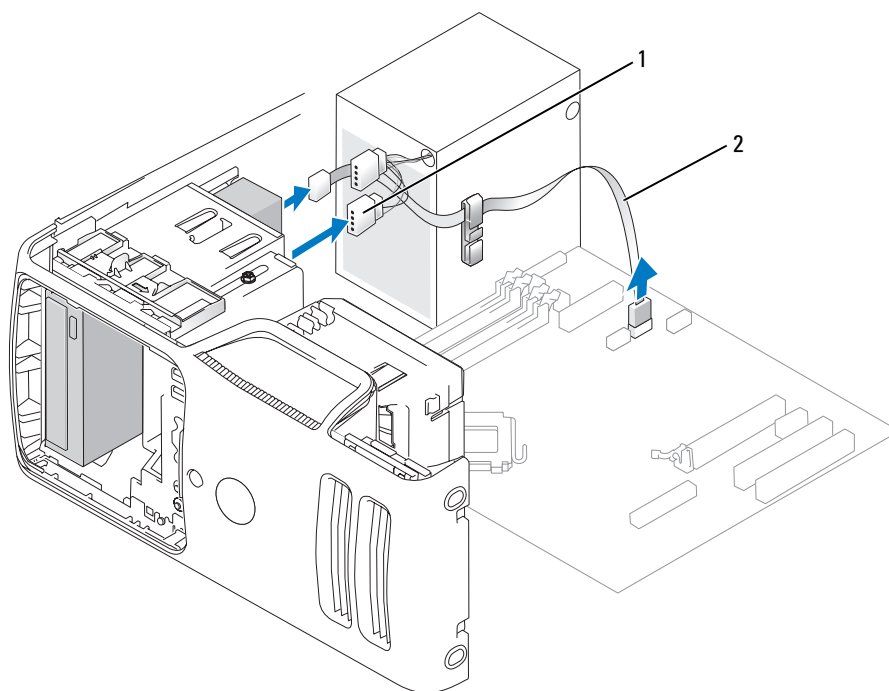
## CD/DVD ドライブ

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

**⚠ 警告：**感電防止のため、カバーを開く前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

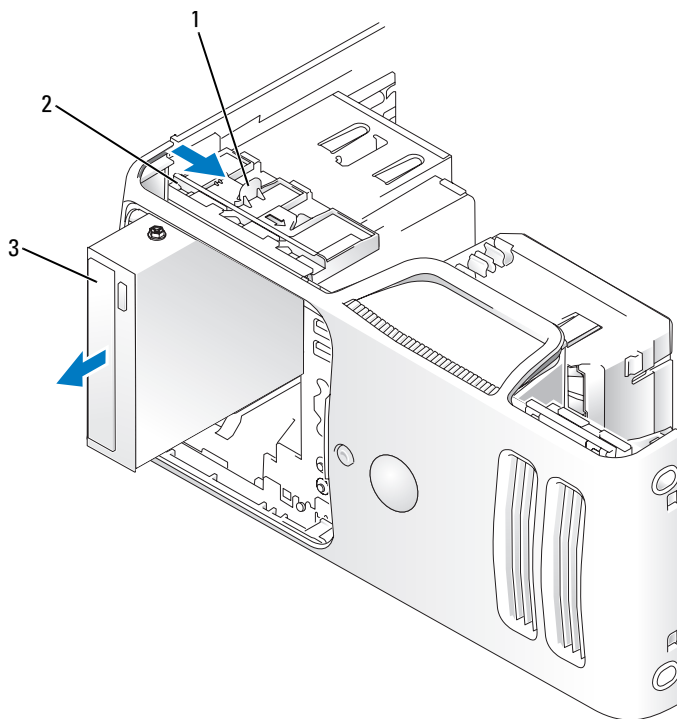
### CD/DVD ドライブの取り外し

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 ドライブパネルを取り外します（89 ページの「ドライブパネルの取り外し」を参照）。
- 3 電源ケーブルとデータケーブルをドライブの背面から取り外します。



1 電源ケーブル      2 データケーブル

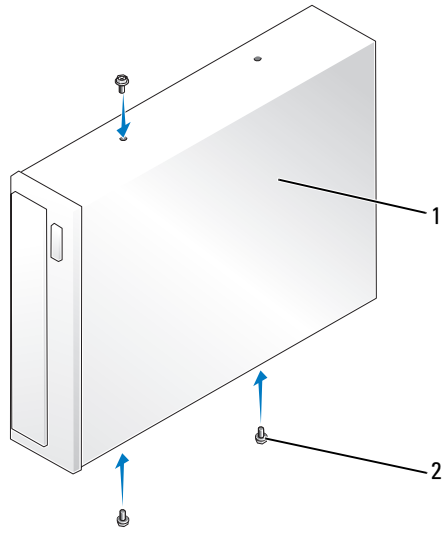
- 4 ドライブラッチリリースをコンピュータの下部に向かってスライドさせ、ドライブラッチリリースから親指を放さずに、CD/DVD ドライブをコンピュータの前面から引き出します。



1 ドライブラッチリリース      2 スライドプレート      3 CD/DVD ドライブ

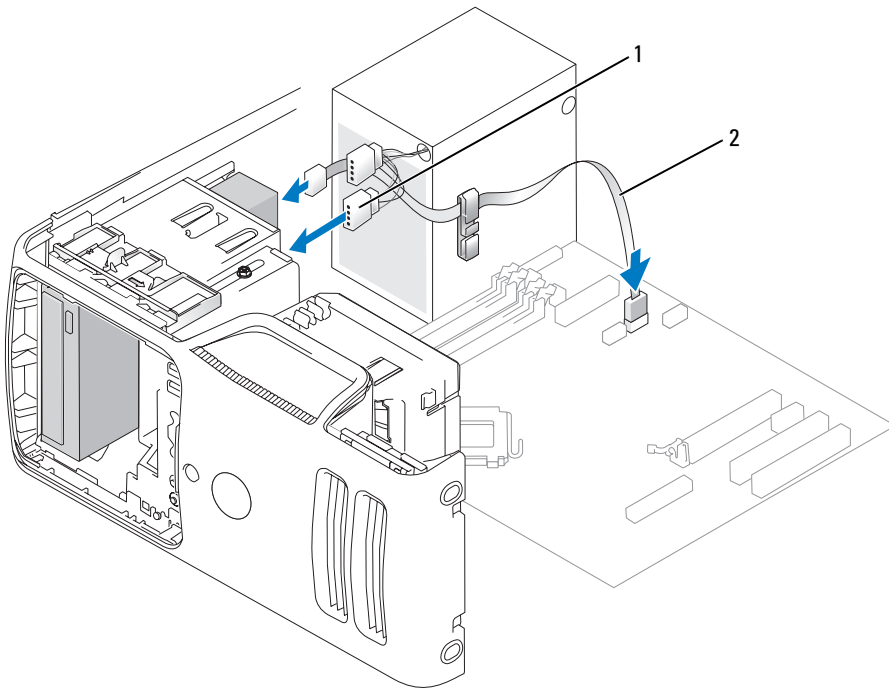
### CD/DVD ドライブの取り付け

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
- 2 ドライブを交換するのではなく、新しい CD/DVD ドライブを取り付ける場合には、適切なドライブベイカバーを取り外します（90 ページの「ドライブベイカバーの取り外し」を参照）。
- 3 ドライブを所定の位置に、カチッと音がするまで、または固定されたとわかるまで、ゆっくり押し込みます。




1 CD/DVD ドライブ      2 ネジ(3)

4 電源ケーブルとデータケーブルをドライブに接続します。





1 電源ケーブル      2 データケーブル

- 5 すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンと通気孔の間の空気の流れを妨げないようにケーブルをまとめておきます。
- 6 コンピュータカバーを取り付けます（114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- 7 ドライブパネルを取り付けます（92 ページの「ドライブパネルの取り付け」を参照）。
-  **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 8 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。  
ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。
- 9 セットアップユーティリティを起動し（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、該当する **Drive**（ドライブ）オプションを選択します。
- 10 Dell Diagnostics を実行して、コンピュータが正しく動作することを確認します（54 ページの「Dell Diagnostics」を参照）。


## バッテリー

### バッテリーの交換

-  **警告：** 『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。
-  **注意：** コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

コイン型バッテリーは、コンピュータの設定、日付、時刻の情報を保持します。バッテリーの寿命は数年です。

コンピュータを起動後に、何度も時刻と日付の情報をリセットしなければならないような場合は、バッテリーを交換します。

-  **警告：** 新しいバッテリーは、正しく装着しないと破裂するおそれがあります。交換するバッテリーは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

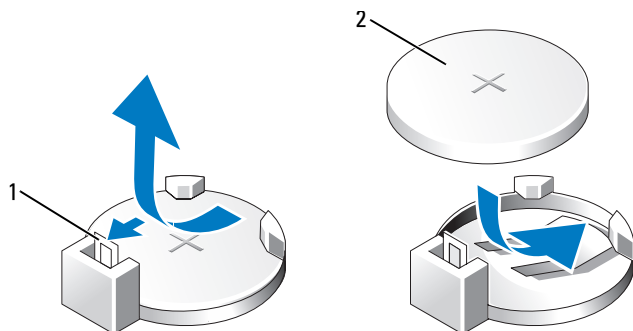


バッテリーの交換は、次の手順で行います。

- 1 手順 8 で正しい設定に戻すことができるように、セットアップユーティリティ画面をすべて記録します（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。
- 2 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従います。
- 3 バッテリーソケットの位置を確認します（74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）。

➡ **注意：** 道具（先端の鋭くないもの）を使用してバッテリーをソケットから取り出す場合は、道具がシステム基板に触れないよう注意してください。必ず、バッテリーとソケットの間に道具を確実に挿入してから、バッテリーを外してください。そうしないと、バッテリーソケットが外れたり、システム基板の回路を切断するなど、システム基板に損傷を与えるおそれがあります。

- 4 指または先端が尖っていない絶縁プラスチック製ドライバなどの道具を使用して、慎重にバッテリーをソケットから取り外します。
- 5 バッテリーの「+」側を上に向けて新しいバッテリーをソケットに挿入し、バッテリーを所定の場所にカチッとはめ込みます。



1 バッテリーリリースレバー

2 バッテリー(プラス側)

- 6 コンピュータカバーを取り付けます（114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。

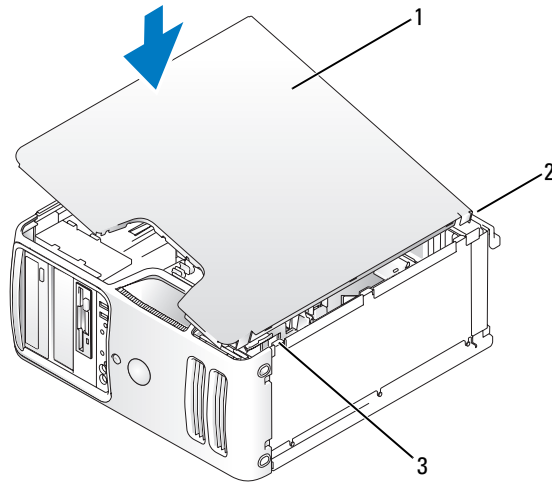
➡ **注意：** ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- 7 コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。
- 8 セットアップユーティリティを起動して（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）、手順 1 で記録した設定に戻します。
- 9 古いバッテリーは適切に廃棄します。バッテリーの廃棄については、『製品情報ガイド』を参照してください。

## コンピュータカバーの取り付け

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

- 1 すべてのケーブルが確実に接続され、ケーブルが邪魔にならない場所に束ねられているか確認します。
- 2 コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないことを確認します。
- 3 カバーの下側を、コンピュータの底面の縁に沿ってあるタブに合わせます。
- 4 タブをてこのように使い、カバーを下方向に動かし、押し下げて閉じます。



1 コンピュータカバー      2 コンピュータの背面      3 下部ヒンジ

- 5 コンピュータをまっすぐ立てる前に、カバーが正しく装着されていることを確認します。

**➡ 注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。

- 6 コンピュータおよびデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

# 付録

## 仕様

---

プロセッサ	
プロセッサタイプ	Intel® Pentium® 4 (Hyper-Threading テクノロジ搭載) <b>メモ</b> ：すべての Pentium 4 プロセッサが Hyper-Threading テクノロジをサポートしているわけではありません。
L1 (レベル 1) キャッシュ	32 KB
L2 (レベル 2) キャッシュ	1 MB (コンピュータの構成に応じて) パイプラインバースト、8 ウェイセットアソシエイティブ、ライトバック SRAM

---

メモリ	
タイプ	533 MHz および 667-MHz デュアル DDR2 アンバッファ SDRAM
メモリコネクタ	4 個
メモリ容量	256 MB、512 MB、または 1 GB 非 ECC
最小メモリ	256 MB
最大搭載メモリ	4 GB <b>メモ</b> ：OS で利用可能なメモリのサイズを確認する方法については、76 ページの「4 GB 構成でのメモリアドレッシング」を参照してください。
BIOS アドレス	F0000h

---

コンピュータ情報	
チップセット	965
RAID のサポート	RAID 1 (ミラーリング)
DMA チャンネル	8
割り込みレベル	24

---

**コンピュータ情報 (続き)**

---

BIOS チップ (NVRAM)	4 Mb
NIC	10/100 通信が可能なオンボード NIC
システムクロック	800 または 1066 MHz データ転送率

---

**ビデオ**

---

タイプ	オプションの内蔵 Intel 965 Graphics Media Accelerator (GMA965) PCI Express
-----	---

---

**オーディオ**

---

タイプ	Sigmatel 9227
-----	---------------

---

**拡張バス**

---

バスのタイプ	PCI 2.3 PCI Express x1 および x16
バス速度	PCI : 33 MHz PCI Express x1 スロット双方向速度 - 500 MB / 秒 x16 スロット双方向速度 - 8 GB / 秒

**PCI**

コネクタ	2 個
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット

**PCI Express**

コネクタ	x1、1 個
コネクタサイズ	36 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	PCI Express レーン× 1

**PCI Express**

コネクタ	x16、1 個
コネクタサイズ	164 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	PCI Express レーン× 16

---

## ドライブ

---

外部アクセス可能

ベイ

3.5 インチドライブベイ (FlexBay) 1 つ

5.25 インチドライブベイ × 2

利用可能なデバイス

シリアル ATA ドライブ (4 台)、フロッピードライブ、  
USB メモリデバイス、CD/DVD ドライブ、およびメディア  
アカードリーダー

内部アクセス可能

1 インチ高シリアル ATA ハードドライブ用ベイ 2 つ

---

## コネクタ

---

外付けコネクタ

ビデオ

15 ピンコネクタ (メス)

ネットワークアダプタ

RJ-45 コネクタ

USB

USB 2.0 対応コネクタ (前面パネルに 2 個と背面パネルに  
6 個)

オーディオ

7.1 対応のコネクタ 6 個

システム基板コネクタ

シリアル ATA

7 ピンコネクタ 4 個

FlexBay ドライブ

オプションのメディアカードリーダー用 USB 10 ピンヘッダー  
× 1 (3.5 インチベイデバイス)

フロッピードライブ

33 ピンコネクタ 1 個

ファン

5 ピンコネクタ 1 個

PCI 2.3

120 ピンコネクタ 2 個

PCI Express x1

36 ピンコネクタ 1 個

PCI Express x16

164 ピンコネクタ 1 個

---

## ボタンとライト

---

電源ボタン

押しボタン

電源ライト

緑色のライト — 緑色の点滅はスリープ状態、緑色の点灯は電  
源投入状態を示します。

黄色のライト — 黄色の点滅はコンピュータ内部の電源ユニッ  
トに問題があることを示します。システムを起動できず、黄色  
ライトが点灯したままの場合は、システム基板に問題があるこ  
とを示します (43 ページの「電源の問題」を参照)。

ハードドライブライト

緑色

---

## ボタンとライト（続き）

---

リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	緑色のライト — ネットワークとコンピュータが正しく接続されていることを示します。 オフ（消灯） — コンピュータがネットワークへの物理的な接続を検出していません。
アクティビティライト（オンボードネットワークアダプタ上）	黄色の点滅ライト
診断ライト	前面パネルにある 4 個のライト（51 ページの「診断ライト」を参照）
スタンバイ電源ライト	システム基板上の STBYLED

---

## 電源

---

### DC 電源ユニット

ワット数	305 W
最大熱消費	560.5 BTU / 時間
電圧（重要な電圧設定情報については、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意を参照してください。）	50/60 Hz で 90 ~ 135 V および 180 ~ 265 V
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

---

## サイズと重量

---

縦幅	41.4 cm
横幅	18.8 cm
奥行	45.7 cm
重量	12.7 kg

---

## 環境

---

温度	
動作時	10 ~ 35 °C
保管時	-40 ~ 65 °C
相対湿度	20 ~ 80 %（結露しないこと）
最大振動	
動作時	0.0002 G <sup>2</sup> /Hz で 5 ~ 350 Hz
保管時	0.001 ~ 0.01 G <sup>2</sup> /Hz で 5 ~ 500 Hz

---

## 環境（続き）

---

### 最大耐久衝撃

動作時	パルス持続時間 2 ミリ秒 +/- 10% で 40 G +/- 5% (51 cm/ 秒に相当)
保管時	パルス持続時間 2 ミリ秒 +/- 10% で 105 G +/- 5% (127 cm/ 秒に相当)

### 高度

動作時	-15.2 ~ 3,048 m
保管時	-15.2 ~ 10,668 m

---


## セットアップユーティリティ

### 概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。


- ハードウェアを追加、変更、取り外した後に、システム設定情報を変更する場合
- ユーザーパスワードなどユーザー選択可能オプションを設定または変更する場合
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードドライブの種類を設定する場合

セットアップユーティリティを使用する前に、セットアップユーティリティ画面情報を後で参照できるようにメモしておくことをお勧めします。

 **注意：** コンピュータに関する知識が十分でない場合、このプログラムの設定を変更しないでください。設定を間違えるとコンピュータが正常に動作しなくなる可能性があります。

### セットアップユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- 2 DELL™ ロゴが表示されたら、F2 を押すよう促すプロンプトが表示されるのを注意して待ってください。
- 3 F2 プロンプトが表示されたら、すぐに <F2> を押します。

 **メモ：** F2 プロンプトは、キーボードが初期化されたことを示します。このプロンプトは短時間しか表示されない場合があるので、プロンプトの表示に注意して <F2> を押す必要があります。プロンプトが表示される前に <F2> を押しても、キーは機能しません。

- 4 キーを押すタイミングが遅れて OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして（65 ページの「コンピュータの電源を切る方法」を参照）もう一度やりなおしてみます。


## セットアップユーティリティ画面

セットアップユーティリティ画面には、お使いのコンピュータの現在の（または変更可能な）設定情報が表示されます。

System	Diskette Drive
System Info Processor Info Memory Info Date/Time Boot Sequence	<b>Off</b> <b>USB</b> <b>Internal</b> <b>Read Only</b>
<b>Drives</b> Diskette Drive Drive 0 Drive 1 Drive 2 Drive 3 Drive 4 Drive 5 SATA Operation	<p>This field determines how the BIOS configures the floppy drive. Operating systems with USB support will recognize USB floppy drives regardless of this setting.</p> <p><b>Off</b>            = All floppy drives are disabled.  <b>USB</b>            = USB floppy drives are enabled  <b>Internal</b>       = The integrated floppy drive is enabled.  <b>Read Only</b>    = The integrated floppy drive is enabled and only allows reads.</p> <p>The factory default setting is <b>Internal</b>.</p> <p>Note: If <b>USB</b> is selected, ensure that the <b>USB Controller</b> field in the <b>Onboard Devices</b> group is set to <b>On</b>.</p>
<b>Onboard Devices</b> Integrated NIC USB Controller Front USB Ports PCI Slots Serial Port #1	<p>Use ENTER to modify this selection            Use Up/Down arrows to select a different field            Use ESC key to exit this program            Use +/- keys to expand or collapse a group</p>
<b>Video</b> Primary Video Video Memory Size	
<b>Maintenance Options</b> Load Defaults Event Log	



## セットアップユーティリティのオプション

 **メモ**：お使いのコンピュータおよび取り付けられているデバイスに応じて、本項に一覧表示された項目とは異なる場合があります。

---

### System (システム)

---

System Info (システム情報)	<b>System</b> (システム) 名、 <b>BIOS Version</b> (BIOS のバージョン) 番号、 <b>BIOS Date</b> (BIOS の日付)、 <b>Service Tag, Express Service Code</b> (サービスタグ、エクスプレスサービスコード)、および <b>Asset Tag</b> を表示します。 <b>メモ</b> ：BIOS で表示されるシステム名は、コンピュータ上の表示またはコンピュータのマニュアルの記載とはやや異なる場合があります。
Processor Info (プロセッサ情報)	システムに搭載されたプロセッサについて、次の情報を表示します。 <b>Processor Type</b> (種類)、 <b>Processor Clock Speed</b> (クロック速度)、 <b>Processor Bus Speed</b> (バス速度)、 <b>Processor Cache Size</b> (キャッシュサイズ)、 <b>Processor ID</b> (ID 番号)、 <b>Hyperthreading Capable</b> (Hyper-Threading 対応) かどうか、 <b>64-bit Technology</b> (64 ビットテクノロジー) を搭載しているかどうか。
Memory Info (メモリ情報)	<b>Installed Memory</b> (搭載メモリ) の容量、 <b>Memory Speed</b> (速度)、 <b>Memory Channel Mode</b> (チャンネルモード)、および <b>Memory Technology</b> (メモリテクノロジー) の説明を表示します。このオプションでは、メモリのサイズ、種類、構成、メモリモジュールが ECC 対応かどうか、シングルランクかデュアルランクかを説明する表も表示されます。
PCI Info (PCI 情報)	各 PCI スロットの内容を表示します。
Date/Time (日時)	システム内部の日付と時刻を制御します。
Boot Sequence (起動順序) (デフォルトは <b>Diskette drive</b> (ディスクエ ットドライブ))	システム起動時にシステムが起動デバイスを検索する順番を指定します。 <b>メモ</b> ：起動デバイスを挿入してコンピュータを再起動すると、このオプションがセットアップユーティリティメニューに表示されます。USB メモリデバイスから起動するには、USB デバイスを選択して、一覧の先頭に移動します。

---

---

## Drives (ドライブ)

---

Diskette Drive (ディスクドライブ) (デフォルトは <b>Internal</b> (内蔵) )	内蔵フロッピードライブについて、有効 / 無効の切り替えと、読み出し許可の設定を行います。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>Off</b> (オフ) — フロッピードライブはすべて無効になります。</li><li>• <b>USB</b> — USB フロッピードライブが有効になります。</li><li>• <b>Internal</b> (内蔵) — 内蔵フロッピードライブが有効になります。</li><li>• <b>Read Only</b> (読み取り専用) — 内蔵ドライブコントローラが有効になり、内蔵フロッピードライブの読み出し専用操作が許可されます。</li></ul> <b>メモ</b> : USB をサポートする OS では、この設定に関係なく USB フロッピードライブが認識されます。
---	---

Drives 0 through 3 (ドライブ 0 ~ 3) (デフォルトは <b>On</b> (オン) )	ハードドライブ、CD ドライブ、DVD ドライブなどの ATA または SATA デバイスの有効 / 無効を切り替えます。 <b>On</b> (オン) に設定すると、インタフェースが有効になり、デバイスが使用できるようになります。 <b>Controller</b> (コントローラの種類) ( <b>ATA</b> または <b>SATA</b> )、ドライブが使用している <b>Port</b> (ポート) 番号、 <b>Drive ID</b> (ドライブ ID) 番号、 <b>Capacity</b> (容量)、およびドライブが <b>BIOS</b> で制御されているかどうか。
---	--

SATA Operation (SATA 動作) (デフォルトは <b>RAID Autodetect/ATA</b> (RAID 自動検出 /ATA) )	RAID に関する SATA コントローラ設定を識別して定義します。SATA コントローラは、 <b>RAID Autodetect/ATA</b> (RAID 自動検出 /ATA) または <b>RAID On</b> (RAID オン) のいずれかに設定できます。
---	--

---

## Onboard Devices (オンボードデバイス)

---

Integrated NIC (オンボード NIC) (デフォルトは <b>On</b> (オン) )	オンボード NIC コントローラの有効 / 無効を切り替えます。設定は、 <b>On</b> (オン)、 <b>Off</b> (オフ)、または <b>On w/PXE</b> です。 <b>On w/PXE</b> 設定がアクティブな場合は (以降の起動プロセスのセットアップにのみ有効)、 <b>&lt;Ctrl&gt;&lt;Alt&gt;&lt;b&gt;</b> を押すように指示されます。 このキーの組み合わせを押すと、ネットワークサーバーからの起動方法を選択できるメニューが表示されます。起動ルーチンがネットワークサーバーから使用できない場合、コンピュータは起動順序リスト内の次のデバイスからの起動を試みます。
--	---

Integrated Audio Controller (オンボードオーディオコントローラ)	オンボードオーディオコントローラの有効 / 無効を切り替えます。
---	----------------------------------

USB for Flexbay (FlexBay 用の USB) (デフォルトは <b>On</b> (オン) )	FlexBay 用の内蔵 USB の有効 / 無効を切り替えます。 <b>メモ</b> : この USB オプションは、FlexBay が取り付けられている場合のみ表示されます。
--	--

---

---

## Video (ビデオ)

---

Primary Video (プライマリビデオ) (デフォルトは <b>Auto</b> (自動))	コンピュータ上に 2 つのビデオコントローラが存在する場合、どちらがプライマリになるかを指定します。 <b>Auto</b> (自動) ではアドインビデオコントローラが有効になります。 <b>Onboard</b> (オンボード) では内蔵ビデオコントローラが有効になります。
Video Memory Size (ビデオメモリサイズ) (デフォルトは <b>8 MB</b> )	オプションのオンボードビデオコントローラ用に予約するシステムメモリの割り当てを設定します。設定は <b>1MB</b> と <b>8MB</b> です。

---

---

## Performance (パフォーマンス)

---

Hyper-Threading (デフォルトは <b>On</b> (オン))	物理プロセッサを 1 つまたは 2 つの論理プロセッサとして表示するかどうかを決めます。アプリケーションによっては、論理プロセッサの数を増やすと性能が向上します。
SpeedStep (デフォルトは <b>On</b> (オン))	BIOS で、プロセッサの温度値に基づいてプロセッサファンと速度を変更できるようになります。 <b>メモ</b> ：すべてのプロセッサが SpeedStep に対応しているわけではありません。そのため、対応しているプロセッサを取り付けた場合にのみこのオプションが表示されます。
HDD Acoustic Mode (HDD アコースティックモード)	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>Bypass</b> (バイパス) — お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。</li><li>• <b>Quiet</b> (静粛) — ハードドライブは最も静かな設定で動作します。</li><li>• <b>Suggested</b> (推奨) — ハードドライブは、ドライブ製造元が推奨する速度レベルで動作します。</li><li>• <b>Performance</b> (パフォーマンス) — ハードドライブは最大速度で動作します。</li></ul> <b>メモ</b> ：パフォーマンスモードを切り替えると、ドライブヘッドが高速になり、ハードドライブのノイズが大きくなります。一方で、一部のドライブではデータ転送速度が向上しない場合があります。 <b>メモ</b> ：アコースティック設定を変更しても、ハードドライブイメージは変わりません。

---

---

## Security (セキュリティ)

---

Admin Password (管理者パスワード) (デフォルトは <b>Not Set</b> (未設定))	セットアップユーティリティのパスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、ここで新しい管理者パスワードの確認と設定ができます。
System Password (システムパスワード) (デフォルトは <b>Not Set</b> (未設定))	システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、ここで新しいシステムパスワードの設定と確認ができます。
Password Changes (パスワード変更) (デフォルトは <b>Unlocked</b> (ロック解除))	<b>System</b> (システム) パスワードと <b>Admin</b> (管理者) パスワードの相互関係を決めます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>Locked</b> (ロック) — 有効な <b>Admin</b> (管理者) パスワードを持たないユーザーによる <b>System</b> (システム) パスワードの変更が禁止されます。</li><li>• <b>Unlocked</b> (ロック解除) — 有効な <b>Admin</b> (管理者) パスワードを持たないユーザーによるシステムパスワードの変更が許可されます。</li></ul>
Execute Disable (不正コード実行防止) (デフォルトは <b>On</b> (オン))	<b>Execute Disable</b> (不正コード実行防止) メモリ保護テクノロジーの有効/無効を切り替えます。

---

## Power Management (電力の管理)

---

AC Recovery (AC リカバリ) (デフォルトは <b>Off</b> (オフ))	停電後の AC 電源投入時にシステムがどのように対応するかを決めます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>Off</b> — 電源投入時にシステムがオフのままになります。システム電源をオンにするには、前面パネルの電源ボタンを押す必要があります。</li><li>• <b>On</b> (オン) — 電源投入時にシステムの電源が入ります。</li><li>• <b>Last</b> (前回) — 前回の電源遮断時のシステム電源の設定状態に戻ります。</li></ul>
Auto Power On (自動電源オン) (デフォルトは <b>Off</b> (オフ))	コンピュータに自動的に電源を入れるよう設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>Off</b> (オフ) — 自動電源オン機能が無効になります。</li><li>• <b>Everyday</b> (毎日) — <b>Auto Power Time</b> (自動電源投入時刻) で設定された時刻に毎日コンピュータの電源がオンになります。</li><li>• <b>Weekdays</b> (月～金) — <b>Auto Power Time</b> (自動電源投入時刻) で設定された時刻に月曜から金曜までコンピュータの電源がオンになります。</li></ul> <p><b>メモ</b>：この機能は、電源タップやサージプロテクタでコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。</p>

Auto Power Time (自動電源投入時刻)	コンピュータに自動的に電源を投入する時刻を設定します。 時刻は標準の 12 時間形式 (時 : 分) で表示されます。左右の矢印キーを押して数値を増減するか、日付と時刻のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時刻を変更します。
Suspend Mode (サスペンドモード) (デフォルトは <b>S3</b> )	コンピュータのサスペンドモードを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>S1</b> — コンピュータは低電力モードで動作するサスペンド状態に設定されます。</li> <li>• <b>S3</b> — コンピュータはほとんどのコンポーネントへの供給電力を抑制または停止するスタンバイ状態に設定されます。ただし、どちらの設定でもシステムメモリはアクティブなままです。</li> </ul>

---

## Maintenance (メンテナンス)

---

SERR DMI Message (SERR DMI メッセージ) (デフォルトは <b>On</b> (オン))	SERR DMI メッセージメカニズムを制御します。 <b>メモ</b> : グラフィックカードの中には、SERR DMI メッセージメカニズムを無効にしておく必要があるものもあります。
Load Defaults (デフォルト 設定のロード)	セットアップユーティリティのオプションを工場出荷時のデフォルトに戻します。
Event Log (イベントログ)	<b>Event Log</b> (イベントログ) を表示することができます。エントリは、 <b>確認済み</b> には <b>R</b> 、 <b>未確認</b> には <b>U</b> のマークが付きます。 <b>Mark All Entries Read</b> (すべてのエントリを確認済みにする) を選択すると、すべてのエントリの左に <b>R</b> が付きます。 <b>Clear Log</b> (ログのクリア) を選択すると、 <b>Event Log</b> (イベントログ) がクリアされます。

---

## POST Behavior (POST 動作)

---

Fastboot (高速起動) (デフォルトは <b>On</b> (オン))	この機能を有効にすると、互換性に関するいくつかの手順を省いて、コンピュータの起動時間を短縮できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Off</b> (オフ) — コンピュータ起動時にすべての手順が実行されます。</li> <li>• <b>On</b> (オン) — システムがより早く起動します。</li> </ul>
Numlock Key (Numlock キー) (デフォルトは <b>On</b> (オン))	キーボード右側の数値キーパッドの機能を決めます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Off</b> (オフ) — 数値キーパッドのキーが方向キーとして機能します。</li> <li>• <b>On</b> (オフ) — 数値キーパッドのキーは数値キーとして機能します。</li> </ul>

<p>POST Hotkeys (POST ホットキー) (デフォルトは <b>Setup &amp; Boot Menu</b> (セットアップ &amp; 起動メニュー))</p>	<p>サインオン画面で <b>Setup</b> (セットアップ) ユーティリティを起動するためのキー操作、および <b>Quickboot</b> (クイックブート) 機能を使用するためのキー操作を表示するかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Setup &amp; Boot Menu</b> (セットアップ &amp; 起動メニュー) — 両方のメッセージ (F2=Setup および F12=Boot Menu) が表示されます。</li> <li>• <b>Setup</b> (セットアップ) — セットアップメッセージ (F2=Setup) だけが表示されます。</li> <li>• <b>Boot Menu</b> (起動メニュー) — <b>Quickboot</b> (クイックブート) メッセージ (F12=Boot Menu) だけが表示されます。</li> <li>• <b>None</b> (なし) — メッセージが何も表示されません。</li> </ul>
<p>Keyboard Errors (キーボードエラー) (デフォルトは <b>Report</b> (報告する))</p>	<p><b>Report</b> (報告する) に設定すると、POST 実行時にエラーが検出された場合、BIOS によってエラーメッセージが表示され、続行するには &lt;F1&gt; を、セットアップユーティリティを起動するには &lt;F2&gt; を押すように求められます。</p> <p><b>Do Not Report</b> (報告しない) に設定すると、POST 実行時にエラーが検出された場合、BIOS によってエラーメッセージが表示され、そのままシステムの起動が続行されます。</p>

## Boot Sequence (起動順序)

この機能を使って、デバイスの起動順序を変更します。

### オプション設定


- **Diskette Drive** (ディスクドライブ) — コンピュータがフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合、フロッピーディスクがドライブにない場合、またはフロッピードライブがコンピュータに取り付けられていない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Hard Drive** (ハードドライブ) — コンピュータはプライマリハードドライブからの起動を試みます。OS がドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **CD Drive** (CD ドライブ) — コンピュータは CD ドライブからの起動を試みます。ドライブに CD がない場合、あるいは CD に OS がない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **USB Flash Device** (USB フラッシュデバイス) — USB ポートにメモリデバイスを挿入し、コンピュータを再起動します。画面の右上隅に F12 = Boot Menu と表示されたら、<F12> を押します。BIOS がデバイスを認識し、USB flash オプションを起動メニューに追加します。



**メモ**：USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能である必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能かどうかを確認してください。

## 一回のみの起動順序の変更


フロッピードライブ、メモリーキー、CD-RW ドライブなどの USB デバイスからコンピュータを再起動するときなどにも、この機能を使用できます。

 **メモ**：USB フロッピードライブから起動する場合は、まずセットアップユーティリティでフロッピードライブを OFF に設定する必要があります（119 ページの「セットアップユーティリティ」を参照）。

- 1 USB デバイスから起動するときは、USB デバイスを USB コネクタに接続します（117 ページの「コネクタ」を参照）。
- 2 コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
- 3 画面の右上角に F2 = Setup, F12 = Boot Menu と表示されたら、<F12> を押します。  
キーを押すタイミングが遅れて OS のロゴが表示されてしまったら、Microsoft Windows デスクトップが表示されるまで待ちます。デスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンして（65 ページの「コンピュータの電源を切る方法」を参照）、操作をやりなおしてください。


使用可能な起動デバイスをすべて一覧表示した **Boot Device Menu**（起動デバイスメニュー）が表示されます。各デバイスには、横に番号が付いています。

- 4 メニューの一番下で、一回のみの起動に使用するデバイスの番号を入力します。  
たとえば、USB メモリーキーから起動する場合は、**USB Flash Device**（USB フラッシュデバイス）をハイライト表示して <Enter> を押します。

 **メモ**：USB デバイスから起動するには、そのデバイスが起動可能である必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

## 次回からの起動順序の変更

- 1 セットアップユーティリティを起動します（119 ページの「セットアップユーティリティの起動」を参照）。
- 2 矢印キーを使って **Boot Sequence**（起動順序）メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押してポップアップメニューにアクセスします。

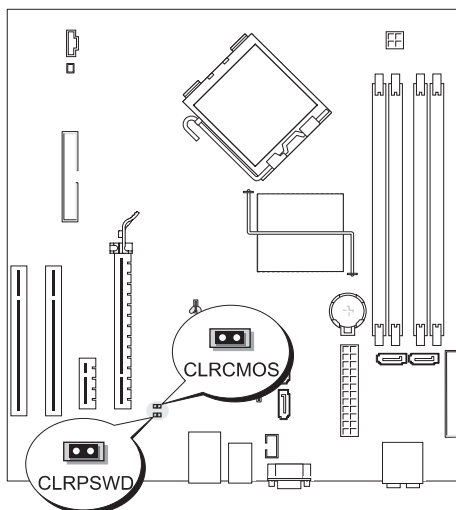
 **メモ**：後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を控えておきます。

- 3 デバイスの一覧内を移動するには、上下矢印キーを押します。
- 4 デバイスを有効または無効にするには、スペースバーを押します（有効にしたデバイスにはチェックマークが付いています）。
- 5 選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、プラス（+）またはマイナス（-）を押します。

## 忘れたパスワードのクリア

**⚠ 警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従います。




- 2 システム基板上にある 2 ピンパスワードジャンパ（CLRPSWD）の位置を確認し（74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）、1 番ピンおよび 2 番ピンからジャンパプラグを取り外して、パスワードをクリアします。
- 3 コンピュータカバーを閉じます（114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- 4 コンピュータおよびモニターをコンセントに接続して、電源を入れます。
- 5 コンピュータに Microsoft® Windows® のデスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンします（65 ページの「コンピュータの電源を切る方法」を参照）。
- 6 モニターの電源を切って、コンセントから外します。
- 7 コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を逃がします。
- 8 コンピュータカバーを開きます（71 ページの「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
- 9 システム基板上にある 2 ピンパスワードジャンパ（CLRPSWD）の位置を確認し（74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照）、ジャンパプラグを 1 番ピンと 2 番ピンに取り付けて、パスワード機能を再度有効にします。
- 10 コンピュータカバーを閉じます（114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照）。
- ➡ **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 11 コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。




## CMOS 設定のクリア


 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

- 1 65 ページの「作業を開始する前に」の手順に従って作業してください。
  - 2 次の手順で、現在の CMOS 設定をリセットします。
    - a システム基板上の 2 ピンパスワードジャンパ (CLRPSWD) と 2 ピン CMOS ジャンパ (CLRCMOS) の両方の位置を確認します (74 ページの「システム基板のコンポーネント」を参照)。
    - b 2 ピンパスワードジャンパ (CLRPSWD) をピンから取り外します。
    - c パスワードジャンパプラグを CLRCMOS ピンに取り付けて、約 5 秒待ちます。
    - d ジャンパプラグを CLRCMOS ピンから取り外して、パスワード (CLRPSWD) ピンに取り付けなおします。
  - 3 コンピュータカバーを閉じます (114 ページの「コンピュータカバーの取り付け」を参照)。
-  **注意：**ネットワークケーブルを接続するには、まずケーブルをネットワークポートまたはデバイスに差し込み、次に、コンピュータに差し込みます。
- 4 コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。


## コンピュータのクリーニング

 **警告：**『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従い、本項の手順を開始してください。

### コンピュータ、キーボード、およびモニター

 **警告：**コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外します。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- ブラシの付いた掃除機を使って、コンピュータのスロット部分や開口部、およびキーとキーボードの間から慎重にほこりを取り除きます。

 **注意：**モニター画面を石鹼またはアルコール溶液で拭かないでください。反射防止コーティングが損傷するおそれがあります。

- モニター画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。可能であれば、画面クリーニング専用ティッシュまたはモニターの静電気防止コーティング用の溶液をお使いください。
- キーボード、コンピュータ、およびモニターのプラスチック部分は、水と中性液体洗剤を 3 対 1 で混ぜ合わせた溶液で湿らした柔らかくて清潔なクリーニング布を使って拭きます。この溶液に布を浸さないでください。また、コンピュータやキーボードの内部に溶液が入らないようにしてください。

## マウス

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合は、マウスをクリーニングします。光学式以外のマウスのクリーニングは、次の手順で行います。

- 1 マウスの底部にある固定リングを左に回して、ボールを取り出します。
- 2 清潔な、糸くずの出ない布でボールを拭き取ります。
- 3 ボールケースを軽く吹いて、ほこりや糸くずを取り除きます。
- 4 ボールが入っているケースのローラーが汚れている場合は、消毒用アルコール（イソプロピルアルコール）を軽く浸した綿棒を使ってローラーの汚れを拭き取ります。
- 5 ローラーが溝からずれてしまった場合は、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
- 6 ボールと固定リングをマウスに取り付けて、固定リングを右に回して元の位置にはめ込みます。

## フロッピードライブ

- ➡ **注意：**綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。ヘッドの位置がずれてドライブが動作しなくなることがあります。

市販のクリーニングキットを使ってフロッピードライブをきれいにします。市販のキットには通常の動作中に付着した汚れを取り除くよう前処理されたフロッピーディスクが入っています。

## CD と DVD

- ➡ **注意：**CD / DVD ドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用して、圧縮空気に付属しているマニュアルの手順に従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質が低下したりする場合は、ディスクを掃除します。

- 1 ディスクの外側の縁を持ちます。中央の穴の縁にも触ることができます。

- ➡ **注意：**円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷をつけるおそれがあります。
- 2 やわらかく、糸くずの出ない布でディスクの裏面（ラベルのない側）を中央から外側の縁に向かって放射状にそっと拭きます。

頑固な汚れは、水、または水と刺激性の少ない石鹼の希釈溶液で試してください。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーニング製品は、DVD にも使用できます。

## デルテクニカルサポートポリシー（米国内のみ）

サポート担当者によるテクニカルサポートでは、トラブルシューティングの過程で、お客様のご協力とご参加が不可欠です。このテクニカルサポートでは、OS、ソフトウェアプログラム、ハードウェアドライバを出荷時のデフォルト設定に復元したり、お使いのコンピュータや工場出荷時に取り付け済みのすべてのハードウェアが適切に機能しているかどうかを検証したりできます。サポート担当者によるテクニカルサポートだけでなく、[support.jp.dell.com](https://support.jp.dell.com) でオンラインテクニカルサポートを利用することもできます。また、有料で利用できるテクニカルサポートオプションもあります。

デルでは、コンピュータおよび「プリインストールされている」ソフトウェアや周辺機器に対して限定的なテクニカルサポートを提供しています<sup>1</sup>。サードパーティ製のソフトウェアや周辺機器に対するサポートは、製品の製造元によって提供されます。それらの製品には、Dell Software and Peripherals、Readyware、カスタムファクトリー統合を通じて購入、インストールされたソフトウェアや周辺機器も含まれます<sup>2</sup>。

- <sup>1</sup> 修理サービスは、製品保証の契約条項およびコンピュータ購入に際して交わした任意のサポートサービス契約に従って提供されます。
- <sup>2</sup> カスタムファクトリー統合（CFI）プロジェクトに含まれているすべてのデル標準コンポーネントは、お使いのコンピュータに適用されるデルの標準製品保証の対象となっています。一方で、デルでは、コンピュータのサービス契約期間中、部品交換プログラムを拡張し、CFIで組み込まれたすべての非標準サードパーティ製ハードウェアコンポーネントに対応します。

### 「プリインストールされている」ソフトウェアと周辺機器の定義

プリインストールされているソフトウェアとは、コンピュータの製造過程でインストールされるOSやソフトウェアプログラム（Microsoft® Office、Norton Antivirus など）を指します。

工場出荷時に取り付け済みの周辺機器には、内蔵拡張カードやデルブランドのモジュールベイ、PCカードアクセサリが含まれます。また、デルブランドのモニター、キーボード、マウス、スピーカー、電話モデム用のマイク、ドッキングステーションやポートリプリケータ、ネットワーク製品、およびすべての関連ケーブルも含まれます。

### 「サードパーティ製」ソフトウェアと周辺機器の定義

サードパーティ製ソフトウェアと周辺機器には、デルが販売し、かつデルブランドでない周辺機器、アクセサリ、ソフトウェアプログラムが含まれます（プリンタ、スキャナー、カメラ、ゲームなど）。サードパーティ製のソフトウェアや周辺機器に対するサポートは、これらの製品の製造元によって提供されます。


## FCC の通達（アメリカ合衆国のみ）

### FCC クラス B

この装置は、無線周波エネルギーを発生、使用し、放射することがあります。製造者の取扱説明書に従って設置および使用されない場合、無線通信の受信障害を引き起こすことがあります。この装置はテストの結果、FCC 規定の第 15 条に準拠したクラス B のデジタルデバイスに対する制限を満たすことが確認されています。

このデバイスは FCC 規定の第 15 条に準拠しています。デバイスの操作は、次の 2 つの条件の対象になります。

- 1 このデバイスが有害な電波障害を生じさせないこと。
- 2 好ましくない操作を引き起こす可能性のある電波障害を含め、このデバイスが受信した電波障害を受け入れること。

 **注意：**FCC 規定には、デルによる明示的な承認のない変更や修正を行うと、この装置を操作する権限が取り消されることがあると定められています。


これらの制限は、この装置が住宅地域に設置された場合、有害な電波障害から適切に保護されるように設定されたものです。特定の設置方法で電波障害が発生しないという保証はありません。この装置がラジオやテレビの受信に電波障害を引き起こすかどうかはその装置の電源をオンまたはオフにすることによって判定できますので、以下の方法を 1 つ、またはそれ以上実行して問題を解決してください。

- 受信アンテナの方向を変える。
- 受信機に対するシステムの位置を変える。
- システムを受信機から離す。
- システムを別のコンセントに接続し、システムと受信機が別々の分岐回路に接続されている状態にする。

必要に応じて、弊社のカスタマーサービスまたはラジオ / テレビの経験を積んだ技術者に連絡し、アドバイスを受けてください。

次の情報は、本書で扱っているデバイスに対して、FCC 規定に従って提供されるものです。

- 製品名 Dell™ Dimension™ E520
- モデル番号：DCSM
- 会社名：  
Dell Inc.  
Worldwide Regulatory Compliance & Environmental Affairs  
One Dell Way  
Round Rock, TX 78682 USA  
512-338-4400

 **メモ：**その他の認可機関の情報については、『製品情報ガイド』を参照してください。

## デルへのお問い合わせ

インターネット上でのデルへのアクセスには、次のアドレスをご利用ください。

- [www.dell.com/jp](http://www.dell.com/jp)
- [support.jp.dell.com](http://support.jp.dell.com) (サポート)

デルへお問い合わせになる際には、次の表の E- メールアドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。国際電話のかけ方については、国内または国際電話会社にお問い合わせください。



**メモ**：以下の連絡先は本書を印刷する時点のものであり、変更されることがあります。

国 (市) 国際電話アクセスコード 国番号 市外局番	部署名またはサービス内容、 ウェブサイトおよび E- メールアドレス	市外局番 市内番号、または フリーダイヤル
日本 (川崎)	ウェブサイト <a href="http://support.jp.dell.com">support.jp.dell.com</a>	
国際電話アクセスコード： <b>001</b>	テクニカルサポート (Dimension および Inspiron)	フリーダイヤル： 0120-198- 226
国番号： <b>81</b>	テクニカルサポート (海外から) (Dimension および Inspiron)	81-44-520-1435
市外局番： <b>44</b>	FAX 情報サービス	044-556-3490
	24 時間納期情報案内サービス	044-556-3801
	カスタマーケア	044-556-4240
	ビジネスセールス本部 (従業員数 400 人未満)	044-556-1465
	法人営業本部 (従業員数 400 人以上)	044-556-3433
	官公庁 / 研究・教育機関 / 医療機関セールス	044-556-5963
	デルグローバルジャパン	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1760
	代表	044-556-4300



# 用語集

この用語集に収録されている用語は、情報の目的として提供されています。お使いのコンピュータに搭載されている機能についての記載がない場合もあります。

## A

**AC** — alternating current（交流）— コンピュータの AC アダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと供給される電気の様式です。

**ACPI** — advanced configuration and power interface — Microsoft® Windows® OS がコンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続されている各デバイスに供給される電力量を節約できる電源管理規格です。

**AGP** — accelerated graphics port — システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGP を使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインタフェースが高速化され、True-Color のスムーズなビデオイメージを伝送できます。

**AHCI** — Advanced Host Controller Interface — SATA ハードドライブホストコントローラのインタフェースです。ストレージドライバは、これによってネイティブコマンドキューイング (NCQ) やホットプラグのようなテクノロジーを有効にできます。

**ALS** — ambient light sensor — アンビエントライトセンサー。ディスプレイ輝度の制御に役立つ機能です。

**ASF** — alert standards format — 管理コンソールにハードウェアとソフトウェアの警告を報告する方式を定義する標準です。ASF は、どのプラットフォームや OS にも対応できるよう設計されています。

## B

**BIOS** — basic input/output system（基本入出力システム）— コンピュータのハードウェアと OS 間のインタフェースの役割をするプログラム（またはユーティリティ）です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。「セットアップユーティリティ」とも呼ばれています。

**Bluetooth® ワイヤレステクノロジー** — 短距離内（9 メートル）にある複数のネットワークデバイスが、お互いを自動的に認識できるようにするワイヤレステクノロジー標準です。

**bps** — ビット / 秒 — データの転送速度を計測する単位です。

**BTU** — British thermal unit（英国熱量単位）— 発熱量の単位です。

## C

**C** — セルシウス（摂氏）— 温度の測定単位で、水の氷点を 0 °C、沸点を 100 °C としています。

**CD-R** — CD recordable — 書き込み可能な CD です。CD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

**CD-RW** — CD rewritable — 書き換え可能な CD です。データを CD-RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書き（再書き込み）したりできます。

**CD-RW ドライブ** — CD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込んだりすることができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

**CD-RW/DVD ドライブ** — 「コンボドライブ」とも呼ばれます。CD および DVD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込んだりすることができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

**COA** — Certificate of Authenticity（実物証明書） — お使いのコンピュータのラベルに記載されている Windows の英数字のコードです。「*Product Key*」（プロダクトキー）や「*Product ID*」（プロダクト ID）とも呼ばれます。

**CRIMM** — continuity rambus in-line memory module（連続式 RIMM） — メモリチップの搭載されていない特殊なモジュールで、使用されていない RIMM スロットに装着するために使用されます。

## D

**DDR SDRAM** — double-data-rate SDRAM（ダブルデータ速度 SDRAM） — データバーストサイクルを 2 倍にする SDRAM の一種です。システムの性能が向上します。

**DDR2 SDRAM** — double-data-rate 2 SDRAM（ダブルデータ速度 2 SDRAM） — 4 ビットプリフェッチおよびその他のアーキテクチャ上の変更により、メモリ速度を 400 MHz 以上にした DDR SDRAM の一種です。

**DIMM** — dual in-line memory module — システム基板のメモリモジュールに接続されるメモリチップを搭載した回路基板です。

**DIN コネクタ** — 丸い 6 ピンのコネクタで、DIN（ドイツ工業規格）に準拠しています。通常は PS/2 キーボードやマウスケーブルのコネクタに使用されます。

**DMA** — direct memory access — DMA チャンネルを使うと、ある種の RAM とデバイス間でのデータ転送がプロセッサを介さずに行えるようになります。

**DMTF** — Distributed Management Task Force — 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理標準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体です。

**DRAM** — dynamic random-access memory — コンデンサを含む集積回路内に情報を保存するメモリです。

**DSL** — Digital Subscriber Line（デジタル加入者回線） — アナログ電話回線を介して、安定した高速インターネット接続を提供するテクノロジーです。

**DVD-R** — DVD recordable — 書き込み可能な DVD です。DVD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

**DVD+RW** — DVD rewritable — 書き換え可能な DVD です。データを DVD+RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書き（再書き込み）したりできます（DVD+RW テクノロジは DVD-RW テクノロジとは異なります）。

**DVD+RW ドライブ** — DVD とほとんどの CD メディアを読み取ることができるドライブです。DVD+RW（書き換え可能な DVD）ディスクに書き込むこともできます。

**DVI** — digital video interface — コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル転送用の標準です。

## E

**ECC** — error checking and correction（エラーチェックおよび訂正） — メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取ったりするときに、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。



**ECP** — extended capabilities port — 改良された双方向のデータ送信を提供するパラレルコネクタのデザインです。EPP に似て、ECP はデータ転送にダイレクトメモリアクセスを使用して性能を向上させます。

**EIDE** — enhanced integrated device electronics — ハードドライブと CD ドライブ用の IDE インタフェースの改良バージョンです。

**EMI** — electromagnetic interference (電磁波障害) — 電磁放射線が原因で起こる電気障害です。

**ENERGY STAR**<sup>®</sup> — Environmental Protection Agency (米国環境保護局) が規定する、全体的な電力の消費量を減らす要件です。

**EPP** — enhanced parallel port — 双方向のデータ送信を提供するパラレルコネクタのデザインです。

**ESD** — electrostatic discharge (静電気放出) — 静電気の急激な放出のことです。ESD は、コンピュータや通信機器に使われている集積回路を損傷することがあります。

**ExpressCard** — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。一般的なものには、モデムやネットワークアダプタがあります。ExpressCard は、PCI Express と USB 2.0 の両方の標準規格をサポートしています。

## F

**FAHRENHEIT (華氏)** — 温度の単位で、水の氷点を 32°、沸点を 212° としています。

**FBD** — fully-buffered DIMM (完全バッファ型 DIMM) — DDR2 SDRAM チップと、DDR2 SDRAM チップとシステムの間通信を高速化する Advanced Memory Buffer (AMB) を搭載した DIMM です。

**FCC** — Federal Communications Commission (米国連邦通信委員会) — コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行するアメリカの機関です。

**FSB** — front side bus — プロセッサと RAM の間のデータ経路および物理的なインタフェースです。

**FTP** — file transfer protocol (ファイル転送プロトコル) — インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイルの交換に利用される標準のインターネットプロトコルです。

## G

**G** — グラビティ — 重力の計測単位です。

**GB** — ギガバイト — データの単位です。1 GB は 1024 MB (1,073,741,824 バイト) です。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000,000 バイトに切り捨てられて表示されることもあります。

**GHz** — ギガヘルツ — 周波数の計測単位です。1 GHz は 10 億 Hz または 1,000 MHz です。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は GHz 単位で計測されます。

**GUI** — graphical user interface — メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーとやり取りする対話型ソフトウェアです。Windows OS で動作するほとんどのプログラムは GUI です。

## H

**HTTP** — hypertext transfer protocol — インターネットに接続されているコンピュータ間でのファイル交換用プロトコルです。

**Hyper-Threading** — Hyper-Threading は Intel のテクノロジーで、1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることでパフォーマンスを全体的に向上し、複数のタスクを同時に処理することを可能にします。

**Hz** — ヘルツ — 周波数の単位です。1 秒間 1 サイクルで周波数 1 Hz です。コンピュータや電子機器では、キロヘルツ (kHz)、メガヘルツ (MHz)、ギガヘルツ (GHz)、またはテラヘルツ (THz) 単位で計測される場合もあります。

## I

**I/O** — input/output (入出力) — コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出したりする動作またはデバイスです。キーボードやプリンタは I/O デバイスです。

**I/O アドレス** — 特定のデバイス (シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど) に関連する RAM のアドレスで、プロセッサがデバイスと通信できるようにします。

**IC** — integrated circuit (集積回路) — コンピュータ、オーディオ、およびビデオ装置用に製造された、何百万もの極小電子コンポーネントが搭載されている半導体基板またはチップです。

**IDE** — integrated device electronics — ハードドライブまたは CD ドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

**IEEE 1394** — Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. — コンピュータにデジタルカメラや DVD プレーヤーなどの、IEEE 1394 互換デバイスを接続するのに使用される高性能シリアルバスです。

**IrDA** — Infrared Data Association — 赤外線通信の国際標準を作成する組織です。

**IRQ** — interrupt request (割り込み要求) — デバイスがプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路です。すべてのデバイス接続に IRQ を割り当てる必要があります。2 つのデバイスに同じ IRQ を割り当てることはできませんが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

**ISP** — Internet service provider (インターネットサービスプロバイダ) — インターネットへの接続、E-メールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスを行うためにホストサーバーへのアクセスを提供する機関です。通常、ISP はソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有料 (月払い) で提供します。

## K

**KB** — キロバイト — データの単位です。1 KB は 1024 バイトです。または 1000 バイトとすることもあります。

**Kb** — キロビット — (Kb) 1024 ビットに相当するデータの単位です。メモリ集積回路の容量の単位です。

**kHz** — キロヘルツ — (kHz) 1000 Hz に相当する周波数の単位です。

## L

**L1 キャッシュ** — プロセッサの内部に設置されているプライマリキャッシュ。

**L2 キャッシュ** — プロセッサに外付けされた、またはプロセッサアーキテクチャに組み込まれたセカンダリキャッシュ。

**LAN** — local area network (ローカルエリアネットワーク) — 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LAN は通常、1 棟の建物内や隣接する 2、3 棟の建物内に限定されます。LAN は電話回線や電波を使って他の離れた LAN と接続し、WAN (ワイドエリアネットワーク) を構成できます。

**LCD** — liquid crystal display (液晶ディスプレイ) — ノートブックコンピュータのディスプレイやフラットパネルのディスプレイに用いられる技術です。

**LED** — light-emitting diode (発光ダイオード) — コンピュータのステータスを示す光を発する電子コンポーネントです。

**LPT** — line print terminal — プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続の指定先です。

## M

**MB** — メガバイト — データの単位です。1 MB は 1,048,576 バイトです。または 1,024 KB を表します。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000 バイトに切り捨てられて表示されることもあります。

**Mb** — メガビット — (Mb) 1,024 Kb に相当するメモリチップの容量の単位です。

**MB/sec** — メガバイト / 秒 — 1,000,000 バイト / 秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

**Mbps** — メガビット / 秒 — (Mbps) 1,000,000 ビット / 秒。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

**MHz** — メガヘルツ — 周波数の単位です。1,000,000 サイクル / 秒です。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は MHz 単位で計測されます。

**MP** — メガピクセル — デジタルカメラに使用される画像解像度の単位です。

**ms** — ミリ秒 — 1000 分の 1 秒に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

## N

**NIC** — 「ネットワークアダプタ」を参照してください。

**ns** — ナノ秒 — 10 億分の 1 秒に相当する時間の単位です。

**NVRAM** — nonvolatile random access memory (不揮発性ランダムアクセスメモリ) — コンピュータの電源が切れたり、外部電源が停止したりした場合にデータを保存するメモリの一種です。NVRAM は、日付、時刻、およびお客様が設定できるその他のセットアップオプションなどのコンピュータ設定情報を保持するのに利用されます。

## P

**PC カード** — PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。PC カードの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。

**PCI** — peripheral component interconnect — PCI は、32 ビットおよび 64 ビットのデータ経路をサポートするローカルバスで、プロセッサとビデオ、各種ドライブ、ネットワークなどのデバイス間に高速データ経路を提供します。

**PCI Express** — PCI インタフェースの改良版で、プロセッサとそれに接続されているデバイス間のデータ転送を高速化します。PCI Express は、250 MB/秒 ~ 4 GB/秒でデータを転送できます。PCI Express チップセットとデバイスがサポートしている速度が異なる場合は、これより低速になります。

**PCMCIA** — Personal Computer Memory Card International Association — PC カードの規格を協議する国際的組織です。

**PIO** — programmed input/output — データパスの一部としてプロセッサを経由した、2つのデバイス間のデータ転送方法です。

**POST** — power-on self-test(電源投入時の自己テスト) — BIOSが自動的にロードする診断プログラムです。メモリ、ハードドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントの基本的なテストを実行します。POSTで問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

**PS/2** — personal system/2 — PS/2互換のキーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタです。

**PXE** — pre-boot execution environment — WfM (Wired for Management) 標準で、OSがないネットワークコンピュータを設定し、リモートで起動できるようにします。

## R

**RAID** — redundant array of independent disks — データの冗長性を提供する方法です。一般的に実装されるRAIDには、RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、およびRAID 50があります。

**RAM** — random-access memory (ランダムアクセスメモリ) — プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAMに保存されている情報は、コンピュータをシャットダウンすると失われます。

**readme ファイル** — ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readmeファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

**RFI** — radio frequency interference (無線電波障害) — 10 kHz から 100,000 MHz までの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

**ROM** — read-only memory (読み取り専用メモリ) — コンピュータが削除したり書き込んだりできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAMと異なり、ROMはコンピュータの電源が切れても内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムでROMに常駐しているものがいくつかあります。

**RPM** — revolutions per minute — 1分間に発生する回転数です。ハードドライブ速度の計測に使用します。

**RTC** — real time clock — システム基板上にあるバッテリーで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

**RTCST** — real-time clock reset — 一部のコンピュータに搭載されているシステム基板上のジャンパで、問題が発生した場合のトラブルシューティングに利用できます。

## S

**SビデオTV出力** — テレビまたはデジタルオーディオデバイスをコンピュータに接続するために使われるコネクタです。

**S/PDIF** — Sony/Philips Digital Interface — ファイルの質が低下する可能性があるアナログ形式に変換せずに、1つのファイルから別のファイルにオーディオを転送できるオーディオ転送用ファイルフォーマットです。

**SAS** — serial attached SCSI — 従来のパラレルSCSIに対し、より高速なシリアル形式のSCSIインタフェースです。

**SATA** — serial ATA — より高速なシリアル形式のATA (IDE) インタフェースです。

**SCSI** — small computer system interface — ハードドライブ、CD ドライブ、プリンタ、スキャナーなどのデバイスをコンピュータに接続するのに使用される高速インタフェースです。SCSI は、1 つのコントローラで多くのデバイスを接続できます。各デバイスは、SCSI コントローラのバス上の個々の識別番号によってアクセスされます。

**SDRAM** — synchronous dynamic random-access memory (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ) — プロセッサの最適クロック速度と同期された DRAM の一種です。

**SIM** — Subscriber Identity Module — SIM カードには、音声およびデータの転送を暗号化するマイクロチップが搭載されています。電話やポータブルコンピュータに使用できます。

**Strike Zone™** — ハードドライブを保護するために強化されたプラットフォームベース部分です。コンピュータの電源がオンのときでもオフのときでも、コンピュータを落としたり、または振動などのショックを与えられたときに、衝撃吸収体として機能します。

**SVGA** — super-video graphics array — ビデオカードとコントローラ用のビデオ標準規格です。SVGA の通常の解像度は 800 × 600 および 1024 × 768 です。

プログラムが表示する色数と解像度は、コンピュータに取り付けられているモニター、ビデオコントローラとドライバの性能、およびビデオメモリの容量によって異なります。

**SXGA** — super-extended graphics array — 1280 × 1024 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

**SXGA+** — super-extended graphics array — 1400 × 1050 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

## T

**TAPI** — telephony application programming interface — 音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスを Windows のプログラムで使用できるようにするインタフェースです。

**TPM** — trusted platform module (信頼済みプラットフォームモジュール) — セキュリティソフトウェアと組み合わせて使用した場合に、ファイルや E-メールなどの保護機能を有効にすることでネットワークとコンピュータのセキュリティが強化される、ハードウェアベースのセキュリティ機能です。

## U

**UMA** — unified memory allocation — ビデオに動的に割り当てられるシステムメモリです。

**UPS** — uninterruptible power supply (無停電電源装置) — 電氣的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。UPS を設置すると、電源が切れた場合でも限られた時間コンピュータは動作することができます。通常、UPS システムは、過電流を抑え電圧を調整します。小型の UPS システムで数分間電力を供給するので、コンピュータをシャットダウンすることが可能です。

**USB** — universal serial bus — USB 互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナー、スピーカー、プリンタ、ブロードバンドデバイス (DSL およびケーブルモデム)、撮像装置、またはストレージデバイスなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの 4 ピンソケットがコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。USB デバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外したりすることができます。また、デージーチェーン型に接続することもできます。

**UTP** — unshielded twisted pair (シールドなしツイストペア) — ほとんどの電話回線利用のネットワークやその他の一部のコンピュータネットワークで利用されているケーブルの種類です。電磁波障害から保護するためにワイヤのペアに金属製の被覆をほどこす代わりに、シールドなしのワイヤのペアがねじられています。

**UXGA** — ultra extended graphics array — 1600 × 1200 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

## V

**V** — ボルト — 電位または起電力の計測単位です。1 V は、1 アンペアの電流が 1 オームの抵抗器を通過するときの電圧です。

## W

**W** — ワット — 電力の計測単位です。1 ワットは 1 ボルトで流れる 1 アンペアの電流を指します。

**Whr** — ワット時 — おおよそのバッテリー容量を示すのに通常利用される計測単位です。たとえば、66 Whr のバッテリーは 66 W の電力を 1 時間、または 33 W を 2 時間供給できます。

**WLAN** — wireless local area network (ワイヤレスローカルエリアネットワーク)。インターネットアクセスを実現するために、アクセスポイントまたはワイヤレスルーターを使用し、エアウェーブを介して相互に通信する、相互接続された一連のコンピュータです。

**WWAN** — wireless wide area network (ワイヤレスワイドエリアネットワーク)。携帯電話技術を利用して WLAN よりも格段に広い地理範囲を網羅するワイヤレス高速データネットワークです。

**WXGA** — wide-aspect extended graphics array — 1280 × 800 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

## X

**XGA** — extended graphics array — 1024 × 768 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

## Z

**ZIF** — zero insertion force — コンピュータチップとソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを取り付けまたは取り外しできる、ソケットやコネクタの一種です。

**Zip** — 一般的なデータの圧縮フォーマットです。Zip フォーマットで圧縮されているファイルを Zip ファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が **.zip** となります。特別な Zip ファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は **.exe** となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

**ZIP ドライブ** — Iomega Corporation によって開発された大容量のフロッピードライブで、Zip ディスクと呼ばれる 3.5 インチのリムーバブルディスクを使用します。Zip ディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく約 2 倍の厚みがあり、100 MB のデータを保持できます。

## あ

**アンチウイルスソフトウェア** — コンピュータからウイルスを見つけ出して隔離し、除去するように設計されたプログラムです。

**ウイルス** — 嫌がらせ、またはコンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウィルスプログラムは、感染したディスク、インターネットからダウンロードしたソフトウェア、または E-メールの添付ファイルを経由してコンピュータから別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスに、フロッピーディスクのブートセクターに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクを挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次の起動時に、コンピュータは OS を探すためフロッピーディスクのブートセクターにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされるすべてのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

**エクスプレスサービスコード** — Dell™ コンピュータのラベルに付いている数字のコードです。デルにお問い合わせの際は、エクスプレスサービスコードをお伝えください。エクスプレスサービスコードが利用できない国もあります。

**オプティカルドライブ** — CD、DVD または DVD+RW から、光学技術を使用してデータを読み書きするドライブです。オプティカルドライブには、CD ドライブ、DVD ドライブ、CD-RW ドライブ、および CD-RW/DVD コンボドライブが含まれます。

## か

**カーソル** — キーボード、タッチパッドまたはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線かアンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

**キーの組み合わせ** — 同時に複数のキーを押してコンピュータを操作します。

**キャッシュ** — 特殊な高速ストレージ機構で、メインメモリの予約領域、または独立した高速ストレージデバイスです。キャッシュは、プロセッサのオペレーションスピードを向上させます。

**クロック速度** — システムバスに接続されているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作するかを示す、MHz で示される速度です。

**グラフィックモード** —  $x$  水平画素数、 $y$  垂直画素数、および  $z$  色数で表されるビデオモードです。グラフィックモードは、どんな形やフォントも表現できます。

**コントローラ** — プロセッサとメモリ間、またはプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

**コントロールパネル** — 画面設定などの OS やハードウェアの設定を変更するための Windows ユーティリティです。

**解像度** — プリンタで印刷される画像や、モニターに表示される画像がどのくらい鮮明かという度合です。解像度を高い数値に設定しているほど鮮明です。

**拡張カード** — コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を向上させます。拡張カードの例には、ビデオ、モデム、およびサウンドカードなどがあります。

**拡張スロット** — 拡張カードを挿入してシステムバスに接続する、システム基板上（コンピュータによって異なる場合もあります）のコネクタです。

**拡張ディスプレイモード** — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。「デュアルディスプレイモード」とも呼ばれます。

**拡張型 PC カード** — 拡張型 PC カードは、取り付けられた時に PC カードスロットからカードの端がはみ出しています。

**起動可能 CD** — コンピュータを起動するのに使用する CD です。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動可能な CD またはフロッピーディスクが必要になりますので、常備しておきます。『*Drivers and Utilities CD*』（または『*Resource CD*』）が起動可能 CD です。

**起動可能ディスク** — コンピュータを起動するのに使用するディスクです。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動可能な CD またはフロッピーディスクが必要になりますので、常備しておきます。

**起動順序** — コンピュータが起動を試みるデバイスの順序を指定します。

**休止状態モード** — メモリ内のすべてをハードドライブ上の予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る、省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

**国際通行許可書** — 物品を外国に一時的に持ち込むことを許可する国際通関文書です。「商品パスポート」とも呼ばれます。

**書き込み不可に設定** — ファイルやメディアに、データの内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定しデータを変更または破壊されることのないように保護します。3.5 インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定する場合、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

**壁紙** — Windows デスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには Windows コントロールパネルから変更します。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙を作成することができます。

## さ

**サージプロテクタ** — 雷などが原因で、コンセントを介してコンピュータに影響を与える電圧変動から、コンピュータを保護します。サージプロテクタは、落雷や通常の AC ライン電圧レベルが 20 % 以上低下する電圧変動による停電からはコンピュータを保護することができません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護できません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

**サービスタグ** — コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことで、デルサポートの [support.jp.dell.com](http://support.jp.dell.com) にアクセスしたり、デルのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話でお問い合わせたりする場合に必要な識別番号が書いてあります。

**システム基板** — コンピュータに搭載されている主要回路基板です。「マザーボード」とも呼ばれます。

**ショートカット** — 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブにすばやくアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットを Windows デスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではありません。ショートカットアイコンを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

**シリアルコネクタ** — コンピュータにハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスを接続するためによく使用される I/O ポートです。

**スキャンディスク** — ファイル、フォルダ、およびハードディスク上にエラーがないかどうかをチェックする Microsoft ユーティリティです。コンピュータの反応が止まって、コンピュータを再起動した際にスキャンディスクが実行されることがあります。

**スタンバイモード** — コンピュータの不必要な動作をシャットダウンして電力を節約する省電力モードです。

**スマートカード** — プロセッサとメモリチップに内蔵されているカードです。スマートカードは、スマートカード搭載のコンピュータでのユーザー認証に利用できます。



**セットアッププログラム** — ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定したりするのに使うプログラムです。**setup.exe** または **install.exe** というプログラムがほとんどの Windows 用ソフトウェアに付属しています。「セットアッププログラム」は「セットアップユーティリティ」とは異なります。

**セットアップユーティリティ** — コンピュータのハードウェアと OS 間のインタフェース機能を持つユーティリティです。セットアップユーティリティを使用して、BIOS で、日時やシステムパスワードなどのユーザー定義可能なオプションを設定できます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。

**指紋リーダー** — コンピュータのセキュリティの一環としてユーザーの認証に指紋を使用するストリップセンサーです。

**赤外線センサー** — ケーブルを使用しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるポートです。

## た

**テキストエディタ** — たとえば、Windows のメモ帳など、テキストファイルを作成および編集するためのアプリケーションプログラムです。テキストエディタには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプションやフォントの変更など）の機能はありません。

**ディスクのストライピング** — 複数のディスクドライブにまたがってデータを分散させる技術です。ディスクのストライピングは、ディスクストレージからデータを取り出す動作を高速化します。通常、ディスクのストライピングを利用しているコンピュータではユーザーがデータユニットサイズまたはストライプ幅を選ぶことができます。

**デバイス** — ディスクドライブ、プリンタ、キーボードなどコンピュータに内蔵または外付けされたハードウェアです。

**デバイスドライバ** — 「ドライバ」を参照してください。

**デュアルコア** — 演算を行う物理ユニットを単一のプロセッサパッケージ内に搭載した Intel® のテクノロジーで、演算の効率とマルチタスク機能を向上させます。

**デュアルディスプレイモード** — お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターをさせるようにするディスプレイの設定です。「拡張ディスプレイモード」とも呼ばれます。

**トラベルモジュール** — ノートブックコンピュータの重量を減らすために、モジュールベイの中に設置できるように設計されているプラスチック製のデバイスです。

**ドッキングデバイス** — 「APR」を参照してください。

**ドメイン** — ネットワーク上のコンピュータ、プログラム、およびデバイスのグループで、特定のユーザーグループによって使用される共通のルールと手順のある単位として管理されます。ドメインにログオンすることで、リソースにアクセスできるようになります。

**ドライバ** — プリンタなどのデバイスを、OS が制御できるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされていない場合、正常に動作しません。

**通知領域** — コンピュータの時計、音量調節、およびプリンタの状況など、プログラムやコンピュータの機能に素早くアクセスできるアイコンが表示されている Windows タスクバーの領域です。「システムトレイ」とも呼ばれます。

## な

**ネットワークアダプタ** — ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板上にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されている PC カードもあります。ネットワークアダプタは、「NIC」（ネットワークインタフェースコントローラ）とも呼ばれます。

**内蔵** — 通常、コンピュータのシステム基板上に物理的に搭載されているコンポーネントを指します。「ビルトイン」とも呼ばれます。

## は

**ハードドライブ** — ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードドライブとハードディスクは同じ意味としてどちらかが使われています。

**バイト** — コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。1 バイトは 8 ビットです。

**バス** — コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

**バス速度** — バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHz で示される速度です。

**バッテリーの寿命** — ノートブックコンピュータのバッテリーが、消耗と再充電を繰り返すことのできる期間（年数）です。

**バッテリー駆動時間** — ノートブックコンピュータのバッテリーがコンピュータに電源を供給する間、充電量を維持できる時間（分または時間数）です。

**パーティション** — ハードドライブ上の物理ストレージ領域です。1 つ以上の論理ストレージ領域（論理ドライブ）に割り当てられます。それぞれのパーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

**パラレルコネクタ** — コンピュータにパラレルプリンタを接続する場合などに使用される I/O ポートです。「LPT ポート」とも呼ばれます。

**ヒートシンク** — 放熱を助けるプロセッサに付属する金属板です。

**ビット** — コンピュータが認識するデータの最小単位です。

**ビデオコントローラ** — お使いのコンピュータに（モニターの組み合わせにおいて）ビデオ機能を提供するビデオカードまたは（オンボードビデオコントローラ搭載のコンピュータの）システム基板の回路です。

**ビデオメモリ** — ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステムメモリよりも高速です。ビデオメモリの容量によって、プログラムで表示できる色数が大きく左右されます。

**ビデオモード** — テキストやグラフィックスをモニターに表示する際のモードです。グラフィックスをベースにしたソフトウェア（Windows OS など）は、 $x$  水平ピクセル数  $\times$   $y$  垂直ピクセル数  $\times$   $z$  色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア（テキストエディタなど）は、 $x$  列  $\times$   $y$  行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

**ビデオ解像度** — 「解像度」を参照してください。

**ピクセル** — ディスプレイ画面のシングルポイントです。画像は、ピクセルを縦横に配置することで作成されます。ビデオの解像度（800 x 600 など）は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

**フォーマット** — ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備する工程のことです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

**フォルダ** — ディスクやドライブ上のファイルを整理したりグループ化したりするスペースを表す用語です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

**プラグアンドプレイ** — コンピュータがデバイスを自動的に設定できる機能です。BIOS、OS、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイは、自動インストール、設定、既存のハードウェアとの互換性を提供します。

**プロセッサ** — プログラム命令を解析して実行するコンピュータチップです。プロセッサは、CPU（中央演算処理装置）とも呼ばれます。

## ま

**ミニ PCI** — モデムや NIC などの通信を重視した内蔵周辺機器の標準です。ミニ PCI カードは、標準の PCI 拡張カードと同等の機能を持つ小型の外付けカードです。

**ミニカード** — 通信 NIC などの内蔵周辺機器用に設計された小型のカードです。ミニカードは標準の PCI 拡張カードと同等の機能を持ちます。

**メディアベイ** — オプティカルドライブ、セカンドバッテリー、または Dell TravelLite™ モジュールなどのようなデバイスをサポートするベイです。

**メモリ** — コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に格納されているだけなので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンするときもファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROM およびビデオメモリなど何種類かあります。通常、メモリというと RAM メモリを指します。

**メモリアドレス** — データを一時的に RAM に保存する特定の場所です。

**メモリマッピング** — スタートアップ時に、コンピュータが物理的な場所にメモリアドレスを割り当てるプロセスです。デバイスとソフトウェアが、プロセッサによりアクセスできる情報を識別できるようになります。

**メモリモジュール** — システム基板上に接続されている、メモリチップを搭載した小型回路基板です。

**モジュールベイ** — 「メディアベイ」を参照してください。

**モデム** — アナログ電話回線を介して他のコンピュータと通信するためのデバイスです。モデムには、外付けモデム、PC カード、および内蔵モデムの 3 種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や E-メールの交換に使用されます。

## や

**読み取り専用** — 表示することはできますが、編集したり削除したりすることができないデータやファイルです。次のような場合に読み取り専用になります。

- フロッピーディスク、CD、または DVD を書き込み防止にしている場合。
- ファイルがネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者が特定の個人だけにアクセス権限を許可している場合。

## ら

**リフレッシュレート** — 画面上のビデオイメージが再描画される周波数です。単位は Hz で、このリフレッシュレートの周波数で画面の水平走査線（または垂直周波数）が再描画されます。リフレッシュレートが高いほど、ビデオのちらつきが少なく見えます。

**ローカルバス** — デバイスにプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。



# 索引

## B

BIOS, 119

## C

CD

再生, 16

CD/DVD ドライブ

アクティビティライト, 67

取り外し, 109

取り出しボタン, 67

取り付け, 110

問題, 34

CD-RW ドライブ

問題, 35

CD および DVD の再生, 16

CD のコピー

一般情報, 18

方法, 18

役に立つヒント, 20

CMOS 設定

クリア, 129

## D

Dell

Dell Diagnostics, 54

Diagnostics

Dell, 54

DVD

再生, 16

DVD ドライブ

問題, 34

DVD のコピー

一般情報, 18

方法, 18

役に立つヒント, 20

## E

E-メール

問題, 35

## F

Flex Bay ドライブ

メディアカードリ

ーダー, 67

## H

Hyper-Threading, 28

## O

OS

Windows XP の再インス

トール, 59

## P

PCI Express カード

取り外し, 88

取り付け, 84

PCI カード

取り外し, 83

取り付け, 80

PC リストア, 61

## S

SATA 「シリアル ATA」

を参照

## T

TV

コンピュータへ

の接続, 22-23

## U

USB

コネクタ, 68

デバイスからの起動, 127

## W

Windows XP

Hyper-Threading, 28

再インストール, 59

システムの復元, 59

## Windows XP (続き)

- スキャナー, 46
- デバイスドライバのロールバック, 57
- ネットワークセットアップウィザード, 24
- ハードウェアに関するトラブルシューティング, 58
- ファイルと設定の転送ウィザード, 28
- プログラム互換性ウィザード, 39
- ヘルプとサポートセンター, 11

## あ

- 新しいコンピュータへの情報の転送, 28
- 安全にお使いいただくための注意, 9

## い

- インターネット
  - 接続、オプション, 14
  - 接続、説明, 14
  - 問題, 35
- インターネット接続セットアップ, 15

## う

- ウィザード
  - ネットワークセットアップウィザード, 24

## ウィザード (続き)

- ファイルと設定の転送ウィザード, 28
- プログラム互換性ウィザード, 39

## え

- エラーメッセージ
  - 診断ライト, 51
  - トラブルシューティング, 37
- エンドユーザーライセンス契約, 9

## お

- オーディオ「サウンド」を参照

## か

- カード
  - PCI, 79
  - PCI Express, 84
  - PCI Express の取り外し, 88
  - PCI Express の取り付け, 84
  - PCI の取り外し, 83
  - PCI の取り付け, 80
  - サポートされる種類, 79
  - スロット, 79
- 快適な使い方, 9
- カバー
  - 取り外し, 71
  - 取り付け, 114

## き

- キーボード
  - 問題, 38
- 起動
  - USB デバイスから, 127
- 起動順序
  - オプション設定, 126
  - 説明, 125
  - 変更, 127
- 休止状態モード, 25, 27

## こ

- コネクタ
  - USB, 68
  - ヘッドフォン, 68
  - マイク, 68
- コンピュータ
  - 以前の状態の復元, 59
  - クラッシュ, 38-39
  - 内部コンポーネント, 73
  - 内面図, 73
  - 反応が停止した, 38

## さ

- サービスタグ, 10, 67
- 再インストール
  - Windows XP, 59
- サウンド
  - ボリューム, 47
  - 問題, 47
- サポート
  - デルへのお問い合わせ, 133
  - ポリシー, 131
  - サポートサイト, 10

## し

システム基板, 74

システムの復元, 59

### 仕様

オーディオ, 116

拡張バス, 116

環境, 118

技術, 115

コネクタ, 117

コンピュータ情報, 115

サイズと重量, 118

電源, 118

ドライブ, 117

ビデオ, 116

プロセッサ, 115

ボタンとライト, 117

メモリ, 115

情報の検索方法, 9

シリアル ATA, 95

### 診断

ライト, 51, 68

診断ライト, 51

## す

スキャナー

問題, 46

スタンバイモード, 25

スピーカー

ボリューム, 47

問題, 47

## せ

製品情報ガイド, 9

### 設定

セットアップユーティリティ, 119

セットアップ図, 9

セットアップユーティリティ

オプション, 121

画面, 120

起動, 119

説明, 119

## そ

ソフトウェア

Hyper-Threading, 28

問題, 39-40

## ち

チェックディスク, 35

## つ

通気孔

前面パネル, 68

## て

テクニカルサポート

ポリシー, 131

デル

サポートサイト, 10

サポートポリシー, 131

問い合わせ, 133

## 電源

オプション, 26

オプション、休止状態, 27

オプション、詳細設定, 27

オプション、設定, 26

休止状態モード, 25, 27

ボタン, 68

問題, 43

電源オプションのプロ

パティ, 26

電源ライト

状態, 43

電力

管理, 25

スタンバイモード, 25

節約, 25

## と

トラブルシューティング

Dell Diagnostics, 54

以前の状態の復元, 59

診断ライト, 51

ハードウェアに関する  
トラブルシューティング, 58

ヒント, 33

ヘルプとサポートセ  
ンター, 11

ドライバ

識別, 56

説明, 56

ドライブ, 93

CD/DVD の取り外し, 109

CD/DVD の取り付け, 110

シリアル ATA, 95

ドライブ, 93 (続き)

セカンドハード  
ドライブ, 99

ハードドライブ, 95

ハードドライブの取  
り外し, 96

ハードドライブの取  
り付け, 97

フロッピーの取り外し, 100

フロッピーの取り付け, 103  
問題, 34

ドライブパネル, 68, 89

取り外し, 89

取り付け, 92

ドライブベイカバー

取り外し, 90

取り付け, 91

## に

認可機関の情報, 9

## ね

ネットワーク

セットアップ, 24

ネットワークセットア  
ップウィザード, 24

問題, 43

## は

ハードウェア

Dell Diagnostics, 54

ハードウェアに関するトラ

ブルシューティング, 58

ハードドライブ

2 台目の取り付け, 99

アクティビティライト, 68

取り外し, 96

取り付け, 97

問題, 35

パスワード

クリア, 128

ジャンパ, 128

バッテリー

交換, 112

問題, 33

## ふ

ファイルと設定の転送ウ

ィザード, 28

部品の取り付け

コンピュータの

電源切断, 65

作業を開始する前に, 65

推奨するツール, 65

プリンタ

USB, 13

ケーブル, 13

セットアップ, 13

接続, 13

問題, 45

プログラム互換性

ウィザード, 39

フロッピードライブ

取り外し, 100

取り付け, 103

## へ

ヘッドフォン

コネクタ, 68

ヘルプとサポート

センター, 11

ヘルプファイル

Windows ヘルプとサポー  
トセンター, 11

## ほ

保証に関する情報, 9

ボリューム

調整, 47

## ま

マイク

コネクタ, 68

マウス

問題, 42

マザーボード「システ

ム基板」を参照

マニュアル

安全について, 9

エンドユーザーライ

センス契約, 9

オンライン, 10

快適な使い方, 9

情報の検索方法, 9

セットアップ図, 9

製品情報ガイド, 9

認可機関, 9

保証, 9



## め

- メッセージ
  - エラー, 37
- メディアカードリーダー
  - 使い方, 20
  - 取り外し, 105
  - 取り付け, 105, 107
  - 問題, 40
- メモリ
  - 4 GB 構成, 76
  - DDR2 の概要, 75
  - サポートされる種類, 75
  - 取り外し, 78
  - 取り付け, 77
  - 取り付けのガイドライン, 75
  - 問題, 41

## も

- モデム
  - 問題, 35
- モニター
  - 2 台の接続, 22-23
  - DVI の接続, 22-23
  - TV の接続, 22-23
  - VGA の接続, 22-23
  - 拡張デスクトップモード, 23
  - クローンモード, 23
  - ディスプレイ設定, 23
  - 何も表示されない, 48
  - 見づらい, 49
- 問題
  - CD ドライブ, 34
  - CD-RW ドライブ, 35
  - Dell Diagnostics, 54

## 問題 (続き)

- DVD ドライブ, 34
- E-メール, 35
- 青色の画面, 39
- インターネット, 35
- 以前の状態の復元, 59
- 一般的, 38
- エラーメッセージ, 37
- 画面が見づらい, 49
- 画面に何も表示されない, 48
- キーボード, 38
- コンピュータがクラッシュした, 38-39
- コンピュータの反応が停止した, 38
- サウンドとスピーカー, 47
- 診断ライト, 51
- スキャナー, 46
- ソフトウェア, 39-40
- テクニカルサポートポリシー, 131
- 電源, 43
- 電源ライトの状態, 43
- トラブルシューティングのヒント, 33
- ドライブ, 34
- ネットワーク, 43
- ハードドライブ, 35
- バッテリー, 33
- プリンタ, 45
- プログラムがクラッシュする, 39
- プログラムが応答しなくなった, 39
- プログラムと Windows の互換性, 39
- ボリュームの調整, 47
- マウス, 42

## 問題 (続き)

- メディアカードリーダー, 40
- メモリ, 41
- モデム, 35
- モニターが見づらい, 49
- モニターに何も表示されない, 48

## ら

- ライト
  - コンピュータの背面, 51
  - 診断, 51, 68
  - ハードドライブアクティビティ, 68
- ラッチリリース
  - カバー, 67
- ラベル
  - Microsoft Windows, 10
  - サービスタグ, 10, 67

